

工事特記仕様書	
I. 工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事
II. 工事概要	
1. 工事場所	津市久居新町3005、3007、993-3の一部、994-9の一部、994-10の一部
2. 敷地面積	3129.98m ²
3. 工事内容	
棟名称	バス待合所、思いやり乗降場
構造	バス待合所：鉄骨造 思いやり乗降場：鉄骨造
建築面積	バス待合所：34.79m ² 思いやり乗降場：11.40m ²
延べ面積	バス待合所：34.79m ² 思いやり乗降場：27.30m ²

III. 建築工事仕様

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、公共建築工事標準仕様書（「建築工事編」最新版）(以下「標準仕様書」)及び公共建築改修工事標準仕様書（「建築工事編」最新版）

2. 特記仕様

- 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
- 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
- 項目に記載の（ ）内番号は標準仕様書の当該項目、図又は表を示す。

章	項目	特記事項
1	①適用基準等	本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準等を適用する。 <ol style="list-style-type: none">建築工事標準詳細図 <ul style="list-style-type: none">国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成28年版） 建築物解体工事共通仕様書 <ul style="list-style-type: none">国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成28年版） 津市公共建築物等木材利用方針
	②施工条件	<p>施工方法及び検査に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none">工事契約後、速やかに調査及び施工計画書を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。 工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。 本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。 特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手する事とし又、周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承認を得てから行うこと。 工事期間中、近隣関係者等へ危害を与えないよう注意し、かつ周道路等に資材を落下させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。 場外退出時、車両足廻りの洗浄等を行い、汚損等しないようにすること。 工事車両の出入りについては、安全確保に十分配慮すること。 現場施工時には誘導員を常時配置し、通行人及び敷地周辺の安全に十分配慮すること。 工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。 工事期間中、工事に起因し既存施設破損等を与えた場合は、工事請負者の責任において速やかに現状復旧するとともに市監督員に報告書を提出すること。 工事着手前には、現況状況把握の為に破損箇所等があれば、市監員立合いのもと写真に記録しておくこと。また、工事過程に於いて、既設施設に破損等を与えた場合は、請負者の負担において速やかに復旧すると共に、市監督員に報告すること。 設計図書に明記なくとも機能上及び構造上当然必要と認められるもの並びに、取り合いのはつり補修復旧は本工事に含む。なお内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。 バス待合所は工事完了後、市検査課による中間検査を受け、引き渡すこと。（想定工期：8月中旬） <p>また、引渡し完了及び、別途発注工事（バス待合所周辺外構復旧）の完了後、思いやり乗降場の工事に着手すること。</p> <p>（別途発注工事想定工期：バス待合所工事完了から1ヵ月程度）</p>

③発生材の処理等（1.3.11）

・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。

分別解体等の方法		
工程	作業の有無	分別解体等の方法
造成等	・有○無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用
基礎・基礎ぐい	○有・無	・手作業 ○手作業、機械作業の併用
上部構造部分・外装	○有・無	・手作業 ○手作業、機械作業の併用
屋根	○有・無	・手作業 ○手作業、機械作業の併用
建築設備・内装等	○有・無	・手作業 ○手作業、機械作業の併用
その他（ <i>ア</i> 舗装）	○有・無	・手作業 ○手作業、機械作業の併用

- 引渡を要するもの（・無 ○車止め）
- 特別管理産業廃棄物 ・有（ ） 処理方法（ ）
- アスベスト成形板等解体時の留意点

- 手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。
- 可能であれば湿潤状態（散水）として作業を進めること。
- 飛散されない様にするここと。
- 保護具及び作業着を着用すること。
- 解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。
- 事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。

- 再資源化を図るもの
 - コンクリート塊
 - アスファルトコンクリート塊
 - 建設発生木材

引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調書を作成し監督員へ提出すること。

引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員にマニフェストA、B2、D票を提示すること。

- 建設副産物情報交換システムの利用
 - 受注者は受注時において延べ面積が500㎡以上の工事については、工事着手前及び工事完了後に「再生資源利用計画書（実施書）」、「再生資源利用促進計画書（実施書）」を監督員に提出すること。また、工事着手前にJACIGが運営する「建設副産物情報交換システム」へデータを入力し、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。

- 三重県産業廃棄物税
 - 本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。

- 電気保安技術者
 - 適用する

- 技能士
 - （1.3.3）

- 技能士
 - （1.5.2）
 - 職種別に可能なものについては積極的に活用すること

- 建築材料等

- 8)建築材料等

- 9.化学物質の濃度測定（1.5.9）

測定対象化学物質（●で示したものとする。）							
適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジクロロベンゼン
	学校 教育施設	●	●	●	●	●	●
	住宅	●	●	●	●	●	
	その他	●	●	●	●	●	

対象箇所（・図示(図面番号：) ・（ ））

- ⑩特別な材料の工法
 - 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。

- ⑪騒音・振動の防止
 - 低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。

- ⑫工事写真
 - 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（最新版））に従い撮影する。提出部数 1部 用紙は上質紙とする。

- ⑬完成図書（1.7.2）
 - 作成する ○完成図 ・ 保全に関する資料 ・（ ）
 - 完成図作図範囲（設計図を訂正）

完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）は発注者に移譲するものとする。また、原図サイズ製本2部により提出すること。

- ⑭完成写真
 - デジタルカメラで撮影し、全てL版相当サイズで印刷する。（A4版用紙に1ページあたり3枚） 1部

箇所数は外観4面各室2面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多くなる場合には、監督員と協議すること。

写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。

- ⑮設備工事との取合い
 - 施工範囲
 - 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強
 - 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切り込み及び補強
 - 駆動装置又は電動建具等の2次側配管配線及び操作スイッチ施工図
 - 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。

- ⑯設計GL
 - 図示のベンチマーク(B.M) mm
 - (現状地盤はB.M mm)
- ⑰養生その他
 - 現状地盤に合わせる

工事施工に際し既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、既存にならない補修すること。

- ⑱事故の発生時
 - 工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員に提出すること。
 - また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

- ⑲.消防法関係の手続き
 - 1) 消火器に係る消防法用設備等設置届出書の作成
 - ・本工事（・建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事）
 - ・別途工事
 - 2) 防火対象物使用開始届出書類の作成（建築図面の作成及び建築に関する部分の記入）を行うこと。

- ⑳労働安全衛生法に基づく労働生害防止措置
 - 労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第2項の規定に基づき、本工事の受注者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。

- ㉑不正軽油の使用の禁止

- 1) 一般事項
 - 市工事の施工にあたり、工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材等の搬出入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32（製造等の承認を受ける義務等）の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。
- 2)調査の協力

受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また受注者は、下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。

3)是正措置

受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。

- 22.屋外広告物
 - 屋外広告物を設置する場合は「三重県屋外広告物条例」第23条に規定する屋外広告業の登録事業者であること。

- 作成する ○完成図 ・ 保全に関する資料 ・（ ）
 - 完成図作図範囲（設計図を訂正）
- 完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）は発注者に移譲するものとする。また、原図サイズ製本2部により提出すること。

- デジタルカメラで撮影し、全てL版相当サイズで印刷する。（A4版用紙に1ページあたり3枚） 1部
- 箇所数は外観4面各室2面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多くなる場合には、監督員と協議すること。
- 写真は、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。

- ⑮設備工事との取合い
 - 施工範囲
 - 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強
 - 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切り込み及び補強
 - 駆動装置又は電動建具等の2次側配管配線及び操作スイッチ施工図
 - 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。

- ⑯設計GL
 - 図示のベンチマーク(B.M) mm
 - (現状地盤はB.M mm)

- ⑰養生その他
 - 現状地盤に合わせる

工事施工に際し既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、既存にならない補修すること。

- ⑱事故の発生時
 - 工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員に提出すること。
 - また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。

- ⑲.消防法関係の手続き
 - 1) 消火器に係る消防法用設備等設置届出書の作成
 - ・本工事（・建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事）
 - ・別途工事
 - 2) 防火対象物使用開始届出書類の作成（建築図面の作成及び建築に関する部分の記入）を行うこと。

- ⑳労働安全衛生法に基づく労働生害防止措置
 - 労働安全衛生法第30条第1項に規定する措置を講ずる必要がある場合、その措置を講ずべき者として、同法第30条第2項の規定に基づき、本工事の受注者を指名する。この場合における指名への同意は、本工事の請負契約を締結することにより得られたものとみなす。

※この図面はA1サイズを原寸とする。			
工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	特記仕様書 1		
作成年月日			
縮尺	—	図面番号	W-A-1
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
株式会社 エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 素子
大臣登録 第221765号

2 仮設工事	1. 監督員事務所 (2.3.1)	・設置する。 監督員事務所の規模 (単位: m)	5. 試験杭及び試験掘 (4.2.2)	・試験杭 位置、本数及び寸法 図示 (図面番号:) ・試験掘 位置、本数及び寸法 図示 (図面番号:)	(表4.5.1)	帯筋 ・ 図示 (図面番号:) 鉄筋かごの補強 ・標準仕様書 [4.5.3] (a) (iii) による ・ 図示 (図面番号:) コンクリートの種類 ・ A種 ・ B種 設計基準強度 () N/mm ² セメントの種類 ・ 高炉セメントB種 ・ () 最小かぶり厚さ () mm 構造体強度補正值 (S) ・ 3 N/mm ² ・ ()	6 コンクリート工事	①.コンクリートの使用骨材による種類及び強度 (6.2.1) (6.2.2) (6.2.4) (6.11.1) (6.11.3) (6.10.1)	普通コンクリートの設計基準強度 設計基準強度 F _c 適用箇所 施工時期 スランプ ・ 21 (N/mm ²) ・ 24 (N/mm ²) 基礎 ・ 18 (cm) ・ 15 (cm)	
	2. 監督員事務所の備品 (2.3.1)	種類 機・いす 書棚 黒板・白板 掛時計 温度計 数量 組 台 個 個 個 種類 長靴 雨合羽 保護帽 懐中電灯 衣類ロッカー 数量 足 着 個 個 台 種類 消火器 掃除具 受注者加入電話・FAX インターネット 冷暖房機器 数量 個 個 台 台 台	7. 水平方向の位置ずれ () mm以下	13. 地盤改良 ・ () 工法 ・ 六価クロム溶出試験 ・ 室内配合試験 ・ 一軸圧縮試験		②.コンクリートの種類 (6.2.1) (表6.2.1)		・ 常時土又は水に直接接する部分 図示 (図面番号:) 類別 ① I 類 ・ II 類 ・ 大臣認定品 図示 (図面番号:)		
	③.仮設便所	構内既存の施設 ・ 利用できる ① 利用できない	8. 杭の載荷試験 (4.2.3)	試験方法 ・ 鉛直載荷 ・ 水平載荷 ・ () 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置 ・ 図示 (図面番号:) 載荷荷重 () kN 報告書 ・ 提出部数 2部		④.砂及び砂利地業 (4.6.3)		厚さ (mm) ・ 60 ① (図示) ・ 仕上がりレベルを計測し、記録すること。	③.コンクリートの仕上り (6.2.5)	合板せき板を用いる場合の打放し仕上りの種類 ・ A種 ① B種 ・ C種
	④.工事用水	構内既存の施設 ・ 利用できる (・ 有償 ・ 無償) ① 利用できない	9. 地盤の載荷試験 (4.2.4)	試験方法 ・ 平板載荷 ・ () 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置 ・ 図示 (図面番号:) 載荷荷重 () kN 報告書 ・ 提出部数 2部		⑤.捨コンクリート地業 (4.6.4)		厚さ (mm) ・ 50 ① (図示) ・ 仕上がりレベルを計測し、記録すること。	④.セメント (6.3.1) (表6.3.1)	種類 ① 普通ポルトランドセメント、混合セメントA種 ・ () 高炉セメントB種又はフライアッシュセメントB種 ・ 適用箇所 図示 (図面番号:) アルカリシリカ反応性による区分 ① AL (コンクリート中のアルカリ総量を規制) ・ A(安全と認められる骨材を使用) なお、ALで規制できない場合はAとし、その試験は、施工着手前、工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が、生コン工場のストックヤードから試料を採取して試験を行うこと。 ・ 特殊な骨材の使用 ・ フェロニッケルスラグ細骨材 ・ 鋼スラグ細骨材 ・ 電気炉酸化スラグ骨材 ・ 再生骨材H
⑤.工事用電力	構内既存の施設 ・ 利用できる (・ 有償 ・ 無償) ① 利用できない 本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。	10. 既製コンクリート杭 (4.3.2) (4.3.3) (4.3.4) (4.3.5) (4.3.7)	・ PHC杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 ・ F種 ・ SC杭 ・ PRC杭 ・ 上記以外の建築基準法に基づく杭 (参考表)	⑥.床下防湿層 (4.6.5)	施工範囲 ① 図示 ポリエチレンフィルム厚さ ① 0.15mm以上 ・ () ① 防湿層の重ね幅、基礎梁へののみみみは、250mm以上とする。	⑤.骨材 (6.3.1)	① AL (コンクリート中のアルカリ総量を規制) ・ A(安全と認められる骨材を使用) なお、ALで規制できない場合はAとし、その試験は、施工着手前、工事中1回/6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が、生コン工場のストックヤードから試料を採取して試験を行うこと。 ・ 特殊な骨材の使用 ・ フェロニッケルスラグ細骨材 ・ 鋼スラグ細骨材 ・ 電気炉酸化スラグ骨材 ・ 再生骨材H			
⑥.足場	設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン (厚生労働省平成21年4月)」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。	種類別 杭径 (mm) 杭長 継手数 セット数 長期設計支持力 (kN/本) 備考	・ 先端形状 ・ 開放型 ・ 閉そく型 施工方法 ・ 打込み工法 設計支持力 () 打込み杭の推定支持力の算定方法 () ・ 打撃工法 ・ プレボーリング打撃併用工法 (掘削深さ 設計GL m 掘削径 mm) ・ セメントミルク工法 ・ オーガーの支持地盤への掘削深さ ・ () m ・ 図示 (図面番号:) ・ 杭の支持地盤への根入れ深さ ・ () m ・ 図示 (図面番号:) ・ 特定埋込杭工法 (建築基準法に基づく埋込杭工法とする。) 継手 ・ アーク溶接 ・ 無溶接継手 (工法:) 杭頭の処理 ・ 行う ・ 行わない	5 鉄筋工事	①.鉄筋の種類 (5.2.1)	種類の記号 径 備考 ① SD295A ① D16以下 ・ SD295B ・ () ① SD345 ① D19以上	⑥.混和材料 (6.3.1) (6.3.2)	混和材料 ・ 図示 (図面番号:) 混和剤の種類、使用方法、使用量 ① 標準仕様書 [6.3.1] (d) (i)、標準仕様書 [6.3.2] (2) (vi) ・ () 混和材の種類、使用方法、使用量 ① 標準仕様書 [6.3.1] (d) (i)、標準仕様書 [6.3.2] (2) (vi) ・ ()		
3 土工事	①.埋戻し及び盛土 (3.2.3) (表3.2.1) ②.建設発生土の処理 (3.2.5)	種類別 ・ A種 ① B種 ・ C種 ・ D種 ① 自由処分 ・ 処分地指定 処分地 () ・ 処分地未定につき相互協議する。暫定運搬距離 8km	11. 鋼杭地業 (4.4.2) (表4.4.2) (4.4.4) (4.3.3) (4.3.5) (4.3.6) (4.3.7)	・ 鋼管杭 ・ SKK400 ・ SKK490 ・ H形鋼杭 ・ SHK400 ・ SHK490M 径 ・ 300 ・ 350 ・ 400 ・ 450 ・ () 長さ () m 先端形状 ・ 開放形 ・ () 補強方法 ・ 補強バンド ・ () 継手 ・ JISA5525 (鋼管ぐい) 施工方法 ・ 打込み工法 設計支持力 () 打込み杭の推定支持力の算定方法 () ・ 打撃工法 ・ プレボーリング打撃併用工法 (掘削深さ 設計GL m 掘削径 mm) ・ 特定埋込杭工法 (建築基準法に基づく埋込杭工法とする。) 杭頭の処理 ・ 行う ・ 行わない	②.溶接金網 (5.2.2)	網目の形状、寸法 鉄線の径 (mm) ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ () 寸法 (mm) ・ 100×100 ・ 150×150 ・ ()	⑦.型枠 (6.8.2) (6.8.3) (表6.8.1)	材料 ① 複合合板 (厚さ (mm) ① 12 ・ ()) 打増し厚さ ① 図示 誘発目地、打継ぎ目地、化粧目地の位置、形状及び寸法 ・ 図示 (図面番号:) ・ 断熱材の兼用 ・ MCR工法用シート スリーブの材種、規格等 ・ 標準仕様書 [表6.8.1] ・ 図示 (図面番号:)		
4 地業工事	1. 杭の施工管理 2. 適用基準 3. 施工記録 4. 根拠資料	杭工事特記仕様書による。 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。 国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」 (平成28年3月4日) 受注者は、杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。 共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第3条第4項又は第5項 (第3条8条においてこれらの規定を準用する場合を含む。) の規定による引渡しを受けた日から10年とする。 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。	12. 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.3) (4.5.4) (4.5.5)	施工方法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 ・ 鋼管コンクリート杭工法 掘削深さ 設計GL m 掘削径 mm ・ 特定埋込杭工法 (建築基準法に基づく埋込杭工法とする。) 杭頭の処理 ・ 行う ・ 行わない 施工方法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 ・ 鋼管コンクリート杭工法 掘削深さ 設計GL m 掘削径 mm ・ 特定埋込杭工法 (建築基準法に基づく埋込杭工法とする。) 杭頭の処理 ・ 行う ・ 行わない 孔壁の超音波測定 ・ 行う ・ 行わない	③.内法直径 (5.3.2)	90°未満の折曲げの内法直径 ・ 図示 (図面番号:)	⑧.コンクリート強度試験 (6.9.3)	圧縮強度試験の供試体の材齢 ① 材齢28日 ① 型枠脱型用 ① 材齢28日を超え91日以内 適用期間 () ・ 調査管理強度、調合強度を積算温度を基に定める 構造体強度補正值 (S) ・ 6 N/mm ² ・ () 適用箇所 ・ 図示 (図面番号:) セメントの種類 ・ 中庸熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 普通ポルトランドセメント		
					④.継手 (5.3.4)	主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ ① 標準仕様書 [5.3.4] (c) (1) ・ 図示 継手位置 ① 各部配筋参考図による ・ 図示 鉄筋定着 ① 標準仕様書 [表5.3.4] ・ 図示	⑧.コンクリート強度試験 (6.9.3)	圧縮強度試験の供試体の材齢 ① 材齢28日 ① 型枠脱型用 ① 材齢28日を超え91日以内 適用期間 () ・ 調査管理強度、調合強度を積算温度を基に定める 構造体強度補正值 (S) ・ 6 N/mm ² ・ () 適用箇所 ・ 図示 (図面番号:) セメントの種類 ・ 中庸熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 普通ポルトランドセメント		
					⑤.鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5)	軽量コンクリートで土に接する部分 ・ 無し ・ 有り (適用箇所:) 最小かぶり厚さ () mm 耐久性上不利な部分 (塩害を受けるおそれのある部分等) ① 無し ・ 有り (適用箇所:) 最小かぶり厚さ () mm	⑨.寒中コンクリート (6.11.2)	適用期間 () ・ 調査管理強度、調合強度を積算温度を基に定める 構造体強度補正值 (S) ・ 6 N/mm ² ・ () 適用箇所 ・ 図示 (図面番号:) セメントの種類 ・ 中庸熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 普通ポルトランドセメント		
					⑥.各部配筋 (5.3.7)	① 図示	⑩.暑中コンクリート (6.12.2)	適用箇所 ・ 図示 (図面番号:) セメントの種類 ・ 中庸熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 普通ポルトランドセメント		
					⑦.圧接完了後の試験 (5.4.9)	抜取試験方法 ① 超音波探傷試験 ・ 引張試験	⑪.マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2)	セメントの種類 ・ 中庸熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 普通ポルトランドセメント		
					⑧.機械式継手及び溶接継手 (5.5.2)	・ 機械式継手 種類 () 工法 () 品質の確認方法 () 不良部分の修正方法 () 鉄筋相互のあき () mm	⑫.マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2)	セメントの種類 ・ 中庸熱ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 普通ポルトランドセメント		
					⑨.溶接継手 (5.5.2)	・ 溶接継手 工法 () 品質の確認方法 () 不良部分の修正方法 () 鉄筋相互のあき () mm	※この図面は A 1 サイズを原寸とする。	工事名 久居駅前広場バス待合所等新築その他工事 図面名 特記仕様書 2 作成年月日 縮尺 - 図面番号 W-A-2 会社名 株式会社 エイト日本技術開発 事業者名		
							一級建築士事務所 株式会社 エイト日本技術開発 東京支社 東京都知事登録 第55520号 一級建築士 殿村 素子 大臣登録 第221765号			

⑥シーリング (9.7.2) (9.7.3) (表9.7.1) (9.7.5)

標準仕様書[表9.7.1]による

施工箇所	目地寸法	種類
図示	15×10	MS-2
図示	20×10	MS-2
図示	15×10	SR-2

接着性試験
・簡易接着性試験
・引張接着性試験

10 石 工 事

①天然石 (10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2)

使用部位	種類(名称)	品質	寸法・厚さ(mm)	表面仕上げ	工法	形状
床		・2等		・粗磨き ・()		
壁		・1等		・水磨き ・()		
ベンチ(花崗岩)						

(10.1.3) 割付 ・標準仕様書[10.1.3](a) ・図示(図面番号:)
 (10.1.5) 粗面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ ・()
 (表10.2.1) 清掃における床面ワックス ・使用する
 (10.3.2) ジェットバーナー仕上げ ・手加工あり ・機械加工バフ仕上げあり
 石裏面処理
 ・適用する
 石裏面処理
 ・適用する

2.テラゾ

(10.2.1) (表10.2.2)

テラゾタイル

使用部位	種石の種類	種石の大きさ	寸法による区分	表面仕上
	・大理石	・1.5~12mm	・300型 ・400型	・()

テラゾブロック

使用部位	種石の種類	種石の大きさ	形状	仕上げ面	寸法(mm)	表面仕上
	・大理石	・1.5~12mm	・平もの ・役もの	・片面 ・両面	・()	・()

(10.1.3) 割付 ・標準仕様書[10.1.3](a) ・図示(図面番号:)
 (10.1.5) 清掃における床面ワックス ・使用する

3.その他の材料 (10.3.2)

取付用モルタル ・図示(図面番号:)
 目地用モルタル ・図示(図面番号:)
 石裏面処理材 ・図示(図面番号:)
 裏打ち処理材 ・図示(図面番号:)
 ドレンパイプ ・図示(図面番号:)
 充填材料 ・図示(図面番号:)

4.外壁湿式工法 (10.2.2) (10.2.3) (10.3.2) (10.3.3)

受け金物の材質、形状、寸法
 ・図示(図面番号:)

ドレンパイプの材質
 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ
 ・()

下地ごしらえ
 ・流し筋工法 ・あと施工アンカー工法
 ・あと施工アンカー横筋流し工法

アンカーの材質及び径 ・SS400 M12 ・()
 あと施工アンカーの材質及び形状 ・()

目地 一般目地
 目地幅(mm) ・6以上 ・()
 シーリング材 ・適用する
 伸縮調整目地
 位置 ・標準仕様書[表11.1.1] ・図示(図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ・幅、深さとも10mm以上 ・図示(図面番号:)

5.内壁空積工法 (10.2.2) (10.3.3) (10.4.2)

受け金物の材質、形状、寸法
 ・図示(図面番号:)

下地ごしらえ
 ・あと施工アンカー横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法
 あと施工アンカーの材質及び形状 ・()

目地 一般目地
 目地幅(mm) ・6以上 ・()
 シーリング材 ・適用する
 伸縮調整目地
 位置 ・6mごと ・図示(図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ・幅、深さとも10mm以上 ・図示(図面番号:)

6.乾式工法 (10.2.2) (10.5.2) (10.5.3)

取り付け工法
 ・スライド方式 ・ロッキング方式

たば用穴の位置 ・図示(図面番号:)
 風圧力に対応した工法 ・図示(図面番号:)
 あと施工アンカーの材質及び形状 ・()

目地
 目地幅(mm) ・8以上 ・()
 シーリング材 ・適用する

7.床及び階段の石張り (10.3.3) (10.6.2) (10.6.3)

目地 一般目地
 目地幅(mm) ・屋内4mm以上、屋外3~6mm
 ・図示(図面番号:)

シーリング材 ・適用する

伸縮調整目地
 位置 ・標準仕様書[10.6.2](e)(2)(i)
 ・図示(図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ・幅、深さとも10mm以上 ・図示(図面番号:)

8.アーチ、上げ裏等の石張り (10.2.2) (10.3.3) (10.7.1) (10.7.2)

取付工法 ・外壁湿式工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法
 取付け金物 ・標準仕様書[10.2.2](c) ・()

吊金物及び化粧吊りボルト
 ・設ける
 吊金物 ・ステンレス(SUS304) 径6mm長さ80mm(加工物)
 吊りボルト ・ステンレス(SUS304) M10 化粧ナット付き
 及び他の部材と取り合う箇所

アンカーの材質及び径 ・()
 あと施工アンカーの材質及び形状 ・()

目地 一般目地
 目地幅(mm) ・6以上 ・()
 伸縮調整目地
 位置 ・図示(図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ・幅、深さとも10mm以上 ・図示(図面番号:)

9.笠木、甲板等 (10.2.2) (10.3.3) (10.5.3) (10.7.1) (10.7.3)

取付工法 ・外壁湿式工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法
 取付け金物 ・標準仕様書[10.2.2](c) ・()

取付け代(乾式工法の場合)(mm)
 ・標準仕様書[10.5.3](b) ・()

アンカーの材質及び径 ・()
 あと施工アンカーの材質及び形状 ・()

石裏の補強用モルタル(乾式工法の場合)
 ・適用する 図示(図面番号:)

目地 一般目地
 目地幅(mm) ・()
 シーリング材 ・適用する
 伸縮調整目地(外壁湿式工法の場合)
 位置 ・図示(図面番号:)
 シーリング材の目地寸法
 ・幅、深さとも10mm以上 ・図示(図面番号:)

10.隔て板 (10.7.4)

石材の厚さ ・()

11 タ イ ル 工 事

1.伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3)

②陶磁器質
 タイル張り (表11.2.3) (11.2.2) (11.3.2) (11.3.4) (表11.3.2)

位置 ・標準仕様書[表11.1.1]
 ・図示(図面番号:)

タイルの種類

施工箇所	形状寸法	工法	耐滑り性	区分(きじ)			うわぐすり	役物	標準・特注色	耐凍害性
				I類(磁器)	II類(せつ器)	III類(陶器)				
巾木	100×100			○						
視覚障がい者用床タイル	300×300			○						

・役物 ()
 ・タイルの試験張りを行う
 ・見本焼きを行う

セメントモルタル塗り又は接着剤あと張り工事 (11.2.7) (11.3.7)
 コンクリート素地面の処理
 ・適用箇所 図示(図面番号:)
 ・目荒し工法 ・MCR工法

接着剤あと張り工事
 シーリング材
 打継、ひび割れ誘発目地 ・PU-2 ・()
 伸縮、その他目地 ・MS-2 ・()

種別
 ・タイルシート法 ・目地樹法 ・積木法

タイル型枠先付け面のせき板の種別 ・()

3.陶磁器質
 タイル型枠先付 (表11.4.1) (11.4.2) (11.4.3)

④せつ器質
 レンガブロック

12 木 工 事

1.木材 (12.1.4) (表12.1.1) (12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1) (表12.2.1)

見え掛り部の表面仕上げ
 ・A種 ・B種 ・C種
 適用箇所 ()

木材の含水率

部材名称	種別
下地材	・A種 ・B種
造作材	・A種 ・B種

樹種 ・図示(図面番号:)

2.製材 (12.2.1)(b)(1)

製材
 「製材の日本農林規格」による製材

	樹種・寸法・形状	等級	含水率
下地用 針葉樹製材	・図示 (図面番号:)	・()	
造作用 針葉樹製材	・図示 (図面番号:)	・()	
広葉樹製材	・図示 (図面番号:)	・()	・10%以下

(12.2.1)(b)(2) (表12.2.2) (表12.2.3)

「製材の日本農林規格」以外の製材
 樹種、寸法、防虫処理、難燃処理及び含水率
 ・図示(図面番号:)
 造作材の材面の品質 ・A種 ・()

樹種

部位	樹種	県産材

代用樹種の使用 ・禁止する

3.集材材等 (12.2.1)

造作用集材材
 「集材材の日本農林規格」による造作用集材材

	樹種・寸法・形状	等級	化粧薄板厚さ
造作用集材材	・図示 (図面番号:)	・()	
化粧ざり造作用集材材	・図示 (図面番号:)	・()	
化粧ざり構造用集材材	・図示 (図面番号:)		

「集材材の日本農林規格」以外の造作用集材材
 樹種、寸法、化粧薄板の厚さ及び含水率
 ・図示(図面番号:)
 造作材の材面の品質 ・A種 ・()

4.単板積層材 (12.2.1)

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材
 厚さ、表面の品質及び防虫加工
 ・図示(図面番号:)

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材
 厚さ、表面の品質、含水率及び防虫加工
 ・図示(図面番号:)

5.床張り用合板及びその他の合板 (12.2.1)

部材名称	樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理等	厚さ

構造用合板の強度等級
 ・図示(図面番号:)

パーティクルボード
 表裏面の状態、曲げ強さ、接着剤、難燃性による区分、厚さ等
 ・図示(図面番号:)

6.防虫・防蟻処理 (12.3.1) (12.3.2)

薬剤加圧注入
 適用部位、保存処理性能区分 ・図示(図面番号:)

薬剤の塗布等
 処理方法 ・標準仕様書[12.3.1](3)(ii) ・()

ボード原料接着剤への薬剤混入
 ・()

防虫処理
 ・()

13 屋 根 及 び 工 事

1.長尺金属板葺 (13.2.2) (13.2.3) (表13.2.1)

屋根葺形式	材種	厚さ(mm)	下葺の種類	備考
	・塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金メッキ鋼板	・0.4	・アスファルトルーフィング940	

耐風圧及び積雪荷重に対応した工法
 ・図示(図面番号:)

雪止め ・図示(図面番号:)

2.折板葺 (13.3.2) (13.3.3)

緊結方法	板厚(mm)	山の高さ(mm)	山のピッチ(mm)	耐力区分
・重ね形	・0.8	・90	・()	・()
	・0.6	・()	・()	・()
・はぜ締め形	材種			軒先面戸板
	・塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合板めっき鋼板 ・()			・あり ・なし

断熱材 種別 ・ガラス繊維シート ・()
 厚さ(mm) ・5 ・()
 防火性能 ・()

風圧力及び積雪荷重に対応した工法
 ・図示(図面番号:)

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事
図面名	特記仕様書 4
作成年月日	
縮尺	— 図面番号 W-A-4
会社名	株式会社 エイト日本技術開発
事業者名	

※この図面はA1サイズを原寸とする。
 一級建築士事務所
 株式会社 エイト日本技術開発 東京支社
 東京都知事登録 第55520号
 一級建築士 殿村 素子
 大臣登録 第221765号

3. 粘土瓦葺 (13.4.2) (13.4.3)	種類	大きさ	産地	役物の種類	棟の工法
④とい (13.5.2) (表13.5.1) (13.5.3) (表13.5.5)	雪止め瓦 ・ 使用する 瓦葺木の材種、寸法 ・ 杉又は桧 21×15 ・ () 棟補強用心材の材質、寸法 ・ 杉又は桧 40×30 ・ () 下葺材料の種類 ・ () 風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ・ 図示(図面番号:) 椽木の留付け工法 ・ 図示(図面番号:) 棟の工法 ・ 標準仕様書[13.4.3](d) ・ 図示(図面番号:) 材種 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(カラー) ・ 配管用鋼管(白管) ・ (アルミ製)				
	鋼管製といの防露巻工法 ・ 標準仕様書[表13.5.5] ・ ()				
⑤アルミニウム カムパネル	住軽日軽同等品				

14 金属工事	1. あと施工 アンカー (14.1.3)	引抜き耐力の確認試験 ・ 実施する 設計用引張強度 ・ ()
	2. ステンレス (14.2.1)	表面仕上げ ・ HL仕上げ ・ ()
3. アルミニウム (14.2.2) (表14.2.1)	表面処理の種類 ・ A-1 ・ A-2 ・ B-1 ・ B-2 ・ C-1 ・ C-2 ・ D ・ 常温乾燥形の塗装 ・ () 陽極酸化被膜の着色方法 ・ 二次電解着色 ・ ()	
4. 鉄鋼の亜鉛 めっき (14.2.3)	亜鉛めっきの種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 ・ F種	
5. 軽量鉄骨 天井下地 (14.4.2) (表14.4.1) (14.4.3) (表14.4.2) (14.4.4)	野縁などの種類 屋内 ・ 19形 ・ () 屋外 ・ 25形 ・ () 屋外の野縁受等の間隔 ・ 図示(図面番号:) 吊りボルトの補強方法(@900mm超) ・ 図示(図面番号:) 吊りボルトの水平補強、斜め補強 ・ 天井ふところ≧1.5m ・ 標準仕様書[14.4.4](h) ・ 図示(図面番号:) ・ 天井ふところ>3.0m 図示(図面番号:) ・ 耐震天井 図示(図面番号:) ・ 耐風圧の補強 図示(図面番号:)	

⑥軽量鉄骨壁 下地 (14.5.3) (表14.5.1)	スタッド、ランナーの種類 ・ 標準仕様書[表14.5.1] ・ 図示 スタッドの高さ5m超 ・ 図示(図面番号:)
---------------------------------------	---

7. 金属成形板 板張り (14.6.2) (14.6.3)	施工箇所	外壁	
	材種	・ アルミニウム ・ ステンレス ・ 鋼	
	形状	・ スパンドレル形 ・ パネル形	・ t1.8
	表面処理		

8. アルミニウム 製笠木 (14.7.2)(14.7.3) (表14.7.1)	部材の種類	・ 250形 ・ 300形 ・ 350形
	表面処理	・ ()
	固定方法	・ 図示(図面番号:)

9. 手すり (14.8.2)	材種	表面処理の種類別	施工箇所
	アルミニウム	・ 標準仕様書[表14.2.1]の種類(種) ・ ()	スロープ・階段
	鋼	・ 標準仕様書[表14.2.2]の種類(種) ・ ()	
	ステンレス	・ HL程度 ・ ()	

10. タラップ (14.8.3)	材種	表面処理の種類別	施工箇所
	鋼	・ 標準仕様書[表14.2.2]の種類(種)	
	ステンレス	・ ()	

11. 天井見切縁	材種 ・ アルミニウム合金製 ・ 塩化ビニル製												
12. 点検口	<table border="1"> <tr> <th>取付箇所</th> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th>形式</th> </tr> <tr> <td>・ 天井</td> <td>・ アルミニウム製</td> <td>・ 450角 ・ 600角</td> <td>・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ</td> </tr> <tr> <td>・ 床</td> <td>・ アルミニウム製</td> <td>・ 450角 ・ 600角</td> <td></td> </tr> </table>	取付箇所	材種	寸法	形式	・ 天井	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角	・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ	・ 床	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角	
取付箇所	材種	寸法	形式										
・ 天井	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角	・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ										
・ 床	・ アルミニウム製	・ 450角 ・ 600角											

15 左官工事	1. モルタル塗り (15.2.2) (15.2.5)	既製目地材 ・ 使用する 図示(図面番号:) 床の目地 ・ 図示(図面番号:) 下地モルタルの接着力試験(外壁タイル張り等) ・ 実施する																															
	2. セルフレベリング (15.4.2)	種類 ・ せっこう系 ・ セメント系																															
	3. 仕上塗材仕上 (15.5.2) (表15.5.1)	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上形状</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">薄付仕上塗材</td> <td>・ 外装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 内装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状ジュラク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">厚付け仕上塗材</td> <td rowspan="3">・ 外装厚塗材C</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ ひき起こし ・ かき落とし</td> <td>・ こて</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ 外装厚塗材Si</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ ひき起こし</td> <td>・ こて</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ローラー</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table>	種類	呼び名	仕上形状	工法	薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け	・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク		・ ()	・ ()	・ ()	厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け	・ ひき起こし ・ かき落とし	・ こて	・ ()	・ ()	・ 外装厚塗材Si	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け	・ ひき起こし	・ こて	・ ()	・ ローラー	・ ()	・ ()
種類	呼び名	仕上形状	工法																														
薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け																														
	・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク																															
	・ ()	・ ()	・ ()																														
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け																														
		・ ひき起こし ・ かき落とし	・ こて																														
		・ ()	・ ()																														
・ 外装厚塗材Si	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け																															
	・ ひき起こし	・ こて																															
	・ ()	・ ローラー																															
・ ()	・ ()	・ ()																															

15 左官工事	1. モルタル塗り (15.2.2) (15.2.5)	既製目地材 ・ 使用する 図示(図面番号:) 床の目地 ・ 図示(図面番号:) 下地モルタルの接着力試験(外壁タイル張り等) ・ 実施する	種類 ・ せっこう系 ・ セメント系	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上形状</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">薄付仕上塗材</td> <td>・ 外装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 内装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状ジュラク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">厚付け仕上塗材</td> <td rowspan="3">・ 外装厚塗材C</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ ひき起こし ・ かき落とし</td> <td>・ こて</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ 外装厚塗材Si</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ ひき起こし</td> <td>・ こて</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ローラー</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table>	種類	呼び名	仕上形状	工法	薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け	・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク		・ ()	・ ()	・ ()	厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け	・ ひき起こし ・ かき落とし	・ こて	・ ()	・ ()	・ 外装厚塗材Si	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け	・ ひき起こし	・ こて	・ ()	・ ローラー	・ ()	・ ()	・ ()
					種類	呼び名	仕上形状	工法																												
					薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け																												
・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク																																			
・ ()	・ ()	・ ()																																		
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け																																	
		・ ひき起こし ・ かき落とし	・ こて																																	
		・ ()	・ ()																																	
・ 外装厚塗材Si	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け																																		
	・ ひき起こし	・ こて																																		
	・ ()	・ ローラー																																		
・ ()	・ ()	・ ()																																		
2. セルフレベリング (15.4.2)	種類 ・ せっこう系 ・ セメント系	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上形状</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">薄付仕上塗材</td> <td>・ 外装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 内装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状ジュラク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">厚付け仕上塗材</td> <td rowspan="3">・ 外装厚塗材C</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ ひき起こし ・ かき落とし</td> <td>・ こて</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ 外装厚塗材Si</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ ひき起こし</td> <td>・ こて</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ローラー</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table>	種類	呼び名	仕上形状	工法	薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け	・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク		・ ()	・ ()	・ ()	厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け	・ ひき起こし ・ かき落とし	・ こて	・ ()	・ ()	・ 外装厚塗材Si	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け	・ ひき起こし	・ こて	・ ()	・ ローラー	・ ()	・ ()	・ ()		
			種類	呼び名	仕上形状	工法																														
			薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け																														
・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク																																			
・ ()	・ ()	・ ()																																		
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け																																	
		・ ひき起こし ・ かき落とし	・ こて																																	
		・ ()	・ ()																																	
・ 外装厚塗材Si	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け																																		
	・ ひき起こし	・ こて																																		
	・ ()	・ ローラー																																		
・ ()	・ ()	・ ()																																		
3. 仕上塗材仕上 (15.5.2) (表15.5.1)	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上形状</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">薄付仕上塗材</td> <td>・ 外装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ 内装薄塗材E</td> <td>・ 砂壁状ジュラク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">厚付け仕上塗材</td> <td rowspan="3">・ 外装厚塗材C</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ ひき起こし ・ かき落とし</td> <td>・ こて</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ 外装厚塗材Si</td> <td>・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状</td> <td>・ 吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ ひき起こし</td> <td>・ こて</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ローラー</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table>	種類	呼び名	仕上形状	工法	薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け	・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク		・ ()	・ ()	・ ()	厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け	・ ひき起こし ・ かき落とし	・ こて	・ ()	・ ()	・ 外装厚塗材Si	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け	・ ひき起こし	・ こて	・ ()	・ ローラー	・ ()	・ ()	・ ()			
		種類	呼び名	仕上形状	工法																															
		薄付仕上塗材	・ 外装薄塗材E	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	・ 吹付け																															
・ 内装薄塗材E	・ 砂壁状ジュラク																																			
・ ()	・ ()		・ ()																																	
厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け																																	
		・ ひき起こし ・ かき落とし	・ こて																																	
		・ ()	・ ()																																	
・ 外装厚塗材Si	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状 ・ 凹凸状	・ 吹付け																																		
	・ ひき起こし	・ こて																																		
	・ ()	・ ローラー																																		
・ ()	・ ()	・ ()																																		

15 左官工事	内装薄塗材、内装厚塗材(吸放湿性を有するもの) ・ JIS A 6909 調湿形
	複層仕上塗材の耐候性 ・ 耐候形3種 ・ ()
	外装厚塗材Cの上塗材 ・ セメントスタック以外の場合 材所要量(kg/m ²)

15 左官工事	複層仕上塗材の上塗材の種類		
	樹脂種類	溶媒種類	外観
	・ アクリル系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
		・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
		・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
	・ シリカ系	・ 水系	・ 艶無
		・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
		・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	・ ポリウレタン系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
		・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック
		・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無
	・ アクリルシリコン系	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無
・ 溶剤系		・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	
・ 弱溶剤系		・ 艶有 ・ 艶無	
・ ふっ素系	・ 溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無 ・ メタリック	
	・ 弱溶剤系	・ 艶有 ・ 艶無	
	・ 水系	・ 艶有 ・ 艶無	

15.5.4	ALCパネルの内壁目地 ・ V形目地付き ・ ()
15.5.7	仕上塗材の所要量等の確認方法 ・ 標準仕様書[表15.5.4] ・ ()

4. マスチック塗 材塗り(15.6.2) (表15.6.1)	種類 ・ A種 ・ B種 仕上材塗り 種類()
---------------------------------------	-----------------------------

5. ロックウール 吹付け (15.8.3)	仕上げ吹付け厚さ () mm
------------------------------	-----------------

16 建具工事	1. 防火戸 (16.1.3)	防火戸の指定 ・ 図示(図面番号:) ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器と連動するもの ・ 図示(図面番号:)
	2. 見本の製作等 (16.1.4)	建具見本の製作 ・ 実施する 特殊な建具の仮組 ・ 実施する
	3. 防犯建物部品 (16.1.6)	防犯建物部品 ・ 図示(図面番号:)

16 建具工事	④アルミニウム製建具 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) (表14.2.1) (16.2.5)	外部建具の性能等級等 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ () 表面処理 種別 ・ B-2 ・ () ・ 標準色 ・ 特注色 内部建具 表面処理 種別 ・ B-2 ・ () ・ 標準色 ・ 特注色 防音ドアセット、防音サッシの遮音性 ・ (等級) 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性 ・ (等級) 耐震ドアセットの面内変形追随性 ・ (等級) 建具の見込み寸法 ・ [表16.2.1] ・ 図示(図面番号:) 結露水の処理方法 ・ () 水切り板、ぜん板等 ・ 図示(図面番号:)
	5. 網戸 (16.2.3)	形式 ・ 可動式 ・ 固定式 網の材質 ・ 合成樹脂 ・ ガラス繊維入り合成樹脂 ・ ステンレス(SUS304) ・ () 網目 ・ 16メッシュ ・ 18メッシュ ・ ()
	6. 樹脂製建具 (16.3.2) (16.3.3) (16.3.4) (16.8.2)	外部建具の性能等級等 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ () 外部建具の遮音性能等級 ・ T-A種 ・ T-B種 ・ () 外部建具の断熱性能等級 ・ H-A種 ・ H-B種 ・ H-C種 ・ () ガラス ・ 複層ガラス ・ () 建具枠見込み寸法 ・ 図示(図面番号:) 表面色 ・ 標準色 ・ 特注色 水切り板 ぜん板 図示(図面番号:) 丁番 ・ [表16.8.3] ・ 図示(図面番号:)

16 建具工事	7. 鋼製建具 (16.4.2) (表16.4.1) (表16.2.1) (16.4.3) (16.4.4) (表16.4.2)	簡易気密型ドアセット ・ 図示(図面番号:) 外部建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 防音ドアセット、防音サッシの遮音性 ・ (等級) 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性 ・ (等級) 耐震ドアセットの面内変形追随性 ・ (等級) 鋼板の種類、めっき付着量 ・ JIS G 3302 ・ Z12 ・ F12 ・ () ・ JIS G 3317 ・ Y08 ・ () 鋼板類の厚さ ・ [表16.4.2] ・ 図示(図面番号:) H>2400超 又は W>950超 ・ 図示(図面番号:)
	8. 鋼製軽量建具 (16.5.2) (16.5.3) (16.5.4)	簡易気密型ドアセット ・ 図示(図面番号:) 防音ドアセット、防音サッシの遮音性 ・ (等級) 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性 ・ (等級) 耐震ドアセットの面内変形追随性 ・ (等級) 鋼板類の表面仕上げ ・ 塗装 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板(・HL・鏡面) 召し合せ、縦小口包み板等の材質 ・ 鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム合板押出成形材 鋼板類の厚さ ・ [表16.5.1] ・ 図示(図面番号:) H>2400超 又は W>950超 ・ 図示(図面番号:)
	9. ステンレス製 建具 (16.6.2) (16.6.3) (16.6.4) (16.6.5)	簡易気密型ドアセット ・ 図示(図面番号:) 外部建具の耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 防音ドアセット、防音サッシの遮音性 ・ (等級) 断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性 ・ (等級) 耐震ドアセットの面内変形追随性 ・ (等級) ステンレス鋼板 ・ SUS304 ・ () 表面仕上げ ・ HL ・ 鏡面仕上げ 曲げ加工 ・ 普通曲げ ・ 角出し曲げ

16 建具工事	10. 木製建具 (16.7.2) (表16.7.1) (表16.7.6) (表16.7.3) (16.7.4)	建具材の含水率 ・ A種 ・ B種 ・ C種 フラッシュ戸、戸ぶすまの合板 種類、材面の品質 ・ 図示(図面番号:) 接着の程度 ・ 1類(水掛り)、2類(その他) ・ () フラッシュ戸の形状 表面板の厚さ ・ 標準仕様書[表16.7.6] ・ () 引戸の召合わせ ・ いんろう付き 図示(図面番号:) かまち戸 かまち、鏡板の樹種 ・ 図示(図面番号:) ふすま 上張の種類 ・ 図示(図面番号:) 緑の仕上げ ・ 図示(図面番号:) 枠及びくつずりの材料 ・ 図示(図面番号:) 戸の見込み寸法 ・ 図示(図面番号:)
	⑪建具用金物 (16.8.2) (表16.8.1) (16.8.3) (16.8.4)	マスターキー ・ 製作する ・ 製作しない ・ 監督員と協議の上システムを決定する キーボックス ・ 要 ・ 不要 金物の種類、見え掛り部等の材質等 ・ 標準仕様書[表16.8.1] ・ 図示(図面番号:) レバーハンドル、クレセント等の取付け位置 ・ 図示(図面番号:)
	⑫自動ドア開 閉装置 (16.9.2) (表16.9.1) (表16.9.2) (16.9.2) (16.9.3)	開閉方法 ・ スライディングドア ・ スイングドア ・ 図示(図面番号:) センサー種類 ・ 図示 性能値 スライディングドア ・ 標準仕様書[表16.9.1] ・ () スイングドア ・ 標準仕様書[表16.9.2] ・ ()

16 建具工事	⑬自閉式上 吊り引戸装置 (16.10.3)	性能値 ・ 標準仕様書[表16.10.1] ・ ()
	14. 重量シャッター (16.11.2) (表16.11.1)	シャッターの種類 ・ 図示(図面番号:) 開閉機能による種類 ・ 図示(図面番号:) 管理用シャッター、外壁用防火シャッター ・ 耐風圧強度(Pa 以上) 管理用シャッターのシャッターケース ・ 図示(図面番号:) 鋼板の種類 ・ 図示(図面番号:) ・ めっき付着量 ・ Z12 ・ F12 ・ ()
	15. 軽量シャッター (16.12.2) (表16.12.1) (16.12.3) (16.12.4)	開閉機能による種類 ・ 図示(図面番号:) ・ 耐風圧強度(Pa 以上) スラットの材質、めっき付着量 ・ JIS G 3312 ・ Z06 ・ F06 ・ () ・ JIS G 3322 ・ A290 ・ () スラットの形状 ・ インターロック型 ・ オーバーラッピング型

16 建具工事	16. オーバーヘッド ドア (16.13.2) (16.13.3)	<table border="1"> <tr> <th>セクション材料</th> <th>開閉方式</th> <th>収納形式</th> <th>ガイドレール</th> </tr> <tr> <td>・ スチールタイプ</td> <td>・ バランス式</td> <td>・ スタンダード形</td> <td>・ 溶融亜鉛 めっき鋼板</td> </tr> <tr> <td>・ アルミニウム タイプ</td> <td>・ チェーン式</td> <td>・ ローヘッド形</td> <td>・ ステンレス</td> </tr> <tr> <td>・ ファイバー グラスタイプ</td> <td>・ 電動式</td> <td>・ ハイリフト形</td> <td>・ パーチカル形</td> </tr> </table>	セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール	・ スチールタイプ	・ バランス式	・ スタンダード形	・ 溶融亜鉛 めっき鋼板	・ アルミニウム タイプ	・ チェーン式	・ ローヘッド形	・ ステンレス	・ ファイバー グラスタイプ	・ 電動式	・ ハイリフト形	・ パーチカル形
	セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール														
	・ スチールタイプ	・ バランス式	・ スタンダード形	・ 溶融亜鉛 めっき鋼板														
・ アルミニウム タイプ	・ チェーン式	・ ローヘッド形	・ ステンレス															
・ ファイバー グラスタイプ	・ 電動式	・ ハイリフト形	・ パーチカル形															
17. ガラス (16.14.2) (16.14.3) (16.14.4) (表16.14.1)	耐風圧性能の区分 JIS A 4715 ・ () 板ガラスの種類、厚さ、特性による種類等 ・ 図示 留め材 ・ シーリング ・ ガスケット() ガラス溝の寸法、形状等 ・ 標準仕様書[表16.14.1] ・ 図示(図面番号:) 熱線反射ガラスの映像調整 ・ 実施する																	
18. ガラスブロック 積み (16.14.5)	表面形状、寸法、厚さ ・ 図示(図面番号:) 壁用金属枠、補強材 ・ 図示(図面番号:) 力骨の材質等 ・ SUS304、φ5.5はしご形状複筋、単筋 ・ () 化粧目地モルタルの色 ・ () シーリング材の種類 ・ () 化粧カバーの材質、形状等 ・ 図示(図面番号:) 風圧力に対応した工法 ・ 図示(図面番号:) 目地幅、伸縮調整目地 ・ 標準仕様書[表16.14.5](b)(2) ・ ()																	

※この図面はA1サイズを原寸とする。			
一級建築士事務所 株式会社エイト日本技術開発 東京支社 東京都知事登録 第55520号 一級建築士 殿村 素子 大臣登録 第221765号			
工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	特記仕様書 5		
作成年月日			
縮尺	—	図面番号	W-A-5
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

17 カーテンウォール工事	1.種類 (17.1.1) (17.1.3)	・メタルカーテンウォール(種類) ・PCカーテンウォール															
	2.性能等 (17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)	耐風圧性() 耐震性() 水密性() 気密性() 耐火性() 耐温度差性() 遮音性() 断熱性() 性能の確認・判定方法() シーリング材の種類 断熱材()															
	3.メタルカーテンウォール (17.2.3) (表17.2.1) (17.2.5) (17.2.6)	カーテンウォールの材料 <table border="1"> <tr> <th>材料</th> <th>規格等</th> <th>見え掛り部の仕上げ</th> <th>映像調整</th> </tr> <tr> <td>・アルミニウム製 ・()</td> <td>・標準仕様書[16.2.3] ・()</td> <td>・A-1 ・A-2</td> <td>・行う</td> </tr> </table> <p>製品の寸法許容差 標準仕様書[表17.2.1] ガラス溝の寸法、形状等 カーテンウォール製作所の仕様による ・図示(図面番号:)</p> <p>取付け 躯体付け金物取付け位置の寸法許容差 ・標準仕様書[表17.2.2] () カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差 ・標準仕様書[表17.2.3] () ガラスの取付け 構造用ガスケット(図示(図面番号:))</p>	材料	規格等	見え掛り部の仕上げ	映像調整	・アルミニウム製 ・()	・標準仕様書[16.2.3] ・()	・A-1 ・A-2	・行う							
	材料	規格等	見え掛り部の仕上げ	映像調整													
・アルミニウム製 ・()	・標準仕様書[16.2.3] ・()	・A-1 ・A-2	・行う														
4.PCカーテンウォール (17.3.3) (17.3.4) (17.3.5) (17.3.6) (17.3.9)	カーテンウォールの材料 コンクリートの種類及び品質 鉄筋 SD295A () 補強鉄線 3.2 () 耐火目地材 () 配筋 図示(図面番号:) 先付け材料 ・サッシ枠 ・ゴンドラ用ガイドレール () 製品の寸法許容差 標準仕様書[17.3.13]による () 表面仕上げ材 磁器質タイル 石材(花こう岩 大理石 ()) 取付け カーテンウォール部材取付け位置の寸法許容差 ・標準仕様書[表17.3.2] () ガラスの取付け 構造用ガスケット(図示(図面番号:))																
18 塗装工事	1.材料 2.施工一般 (18.2.2) ~(18.14.2)	防火材料の指定箇所() <table border="1"> <tr> <th>塗料塗り</th> <th>施工箇所</th> <th>下地の種類</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>錆止め塗料の種類</th> </tr> <tr> <td>SOP 種類 ・A種 ・B種</td> <td></td> <td>鉄鋼面</td> <td>・A種 ・B種 ・C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>EP ・A種 ・B種</td> <td></td> <td>ボード面</td> <td>・A種 ・B種</td> <td></td> </tr> </table>	塗料塗り	施工箇所	下地の種類	素地ごしらえ	錆止め塗料の種類	SOP 種類 ・A種 ・B種		鉄鋼面	・A種 ・B種 ・C種		EP ・A種 ・B種		ボード面	・A種 ・B種	
塗料塗り	施工箇所	下地の種類	素地ごしらえ	錆止め塗料の種類													
SOP 種類 ・A種 ・B種		鉄鋼面	・A種 ・B種 ・C種														
EP ・A種 ・B種		ボード面	・A種 ・B種														
	③耐候性塗料塗り(DP) (18.7.2) (表18.7.1) (18.7.4)	<table border="1"> <tr> <th>下地の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>上塗り等級</th> <th>コンクリート、EOP面における種別</th> </tr> <tr> <td>鉄部</td> <td>思いやり乗降場</td> <td>・1級 ・2級 ・3級</td> <td>・A種 ・B種 ・C種</td> </tr> <tr> <td>鉄部</td> <td>バス待合所</td> <td>・1級 ・2級 ・3級</td> <td></td> </tr> </table>	下地の種類	施工箇所	上塗り等級	コンクリート、EOP面における種別	鉄部	思いやり乗降場	・1級 ・2級 ・3級	・A種 ・B種 ・C種	鉄部	バス待合所	・1級 ・2級 ・3級				
下地の種類	施工箇所	上塗り等級	コンクリート、EOP面における種別														
鉄部	思いやり乗降場	・1級 ・2級 ・3級	・A種 ・B種 ・C種														
鉄部	バス待合所	・1級 ・2級 ・3級															
	④カ7塗装	○打放しコンクリート部フッ素樹脂クリア仕上: 高耐候性水性フッ素樹脂クリア塗装(打放し用コンクリート保護塗装) AGC ボンフロン水性AC-SR工法同等品以上															

19 内装工事	1.ビニル床シート張り (19.2.2)	<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>色柄</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>継目</th> </tr> <tr> <td>・NC ・()</td> <td>・無地 ・柄物</td> <td>・2.0 ・()</td> <td>・溶接 ・突付け</td> </tr> </table>	種類	色柄	厚さ(mm)	継目	・NC ・()	・無地 ・柄物	・2.0 ・()	・溶接 ・突付け																			
	種類	色柄	厚さ(mm)	継目																									
	・NC ・()	・無地 ・柄物	・2.0 ・()	・溶接 ・突付け																									
	2.ビニル床タイル張り (19.2.2)	<table border="1"> <tr> <th>寸法</th> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>・300×300</td> <td>・コンポジションビニル半硬質床タイル</td> <td>・2.0</td> </tr> <tr> <td>・450×450</td> <td>・コンポジションビニル軟質床タイル</td> <td>・()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ホモジニアスビニルタイル</td> <td>・()</td> </tr> </table>	寸法	種類	厚さ(mm)	・300×300	・コンポジションビニル半硬質床タイル	・2.0	・450×450	・コンポジションビニル軟質床タイル	・()		・ホモジニアスビニルタイル	・()															
	寸法	種類	厚さ(mm)																										
	・300×300	・コンポジションビニル半硬質床タイル	・2.0																										
	・450×450	・コンポジションビニル軟質床タイル	・()																										
	・ホモジニアスビニルタイル	・()																											
3.特殊機能床材 (19.2.2)	<ul style="list-style-type: none"> 帯電防止ビニルシート・床タイル 寸法(mm) 厚さ(mm) 種類() 視覚障害者用床タイル 材質(・ビニル床タイル ()) 寸法(・300×300 ()) 耐動荷重性床シート 種類() 寸法() 厚さ(mm) ゴム床タイル 種類() 寸法() 厚さ(mm) 防滑り性床シート 種類() 性能() 厚さ() 																												
4.ビニル幅木 (19.2.2)	高さ 図示(図面番号:) 60mm 厚さ 図示(図面番号:) 1.5mm以上 下地 モルタル ・セルフレリング ・木造 ()																												
5.施工 (19.2.3)	継目 突付け ・熱溶接工法																												
6.カーペット敷き (19.3.3) (19.3.4) (表19.3.1) (表19.3.2)	織りじゅうたん <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>色柄</th> <th>パイル形状</th> <th>織り方</th> </tr> <tr> <td>・A種 ・B種 ・C種</td> <td>・無地 ・柄物 (標準品)</td> <td>・ループ ・カット ・カット、ループ併用</td> <td>・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>色柄</th> <th>パイル形状</th> <th>パイル長・総厚</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td>・タフテッドカーペット</td> <td>・無地 ・柄物</td> <td>・ループ ・カット</td> <td>パイル長 ・5~7mm ・4~6mm</td> <td>・グリッパー ・全面接着</td> </tr> <tr> <td>・ニードルパンチカーペット</td> <td>・無地 ・柄物</td> <td></td> <td>総厚さ ・()</td> <td>・全面接着</td> </tr> <tr> <td>・タイルカーペット</td> <td>・無地 ・柄物</td> <td>・ループ ・カット</td> <td>総厚さ、サイズ ・6.5mm ・500角</td> <td>・全面接着</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 帯電性(人体帯電電圧の値3kV以下) タイルカーペットの敷き方 平場 市松敷き 模様流し 図示(図面番号:) 階段部分 市松敷き 模様流し 図示(図面番号:) 下敷き材 第2種2号、呼び厚さ8mm 図示(図面番号:) 見切り、押え金物 材質() 種類() 形状(図面番号:) 	種別	色柄	パイル形状	織り方	・A種 ・B種 ・C種	・無地 ・柄物 (標準品)	・ループ ・カット ・カット、ループ併用	・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	種別	色柄	パイル形状	パイル長・総厚	工法	・タフテッドカーペット	・無地 ・柄物	・ループ ・カット	パイル長 ・5~7mm ・4~6mm	・グリッパー ・全面接着	・ニードルパンチカーペット	・無地 ・柄物		総厚さ ・()	・全面接着	・タイルカーペット	・無地 ・柄物	・ループ ・カット	総厚さ、サイズ ・6.5mm ・500角	・全面接着
種別	色柄	パイル形状	織り方																										
・A種 ・B種 ・C種	・無地 ・柄物 (標準品)	・ループ ・カット ・カット、ループ併用	・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット																										
種別	色柄	パイル形状	パイル長・総厚	工法																									
・タフテッドカーペット	・無地 ・柄物	・ループ ・カット	パイル長 ・5~7mm ・4~6mm	・グリッパー ・全面接着																									
・ニードルパンチカーペット	・無地 ・柄物		総厚さ ・()	・全面接着																									
・タイルカーペット	・無地 ・柄物	・ループ ・カット	総厚さ、サイズ ・6.5mm ・500角	・全面接着																									
7.合成樹脂塗床 (19.4.2) (表19.4.4) (表19.4.5) ~(表19.4.8)	<ul style="list-style-type: none"> 弾性ウレタン塗床材(JISK 5970) 仕上げ ・平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ エポキシ樹脂塗床材(JISK 5970) 仕上げ ・薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ(平滑 防滑) ・樹脂モルタル仕上げ(平滑 防滑) ・塗膜型塗床材仕上げ 																												

8.フローリング張り (19.5.2) (19.5.4) (19.5.5) (19.5.6) (19.5.7)	材料 ・単層フローリング ・フローリングボード(1等) ・フローリングブロック(1等) ・モザイクカーペット(1等) ・複合フローリング																			
	・釘留め工法 <table border="1"> <tr> <th>材料</th> <th>種別</th> <th>樹種</th> </tr> <tr> <td>・フローリングボード(根太張用)</td> <td></td> <td>・なら ・()</td> </tr> <tr> <td>・複合フローリング(根太張用)</td> <td>・A種 ・B種 ・C種</td> <td></td> </tr> </table>	材料	種別	樹種	・フローリングボード(根太張用)		・なら ・()	・複合フローリング(根太張用)	・A種 ・B種 ・C種											
	材料	種別	樹種																	
	・フローリングボード(根太張用)		・なら ・()																	
・複合フローリング(根太張用)	・A種 ・B種 ・C種																			
防湿処理 図示(図面番号:) <ul style="list-style-type: none"> 接着工法 <table border="1"> <tr> <th>材料</th> <th>樹種</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>大きさ(mm)</th> <th>裏面緩衝材</th> </tr> <tr> <td>・フローリングボード(直張用)</td> <td>・なら ・()</td> <td></td> <td></td> <td>・合成樹脂発泡シート</td> </tr> <tr> <td>・フローリングブロック(直張用)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・複合フローリング(直張用)</td> <td>・C種 ・A種 ・B種</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 	材料	樹種	厚さ(mm)	大きさ(mm)	裏面緩衝材	・フローリングボード(直張用)	・なら ・()			・合成樹脂発泡シート	・フローリングブロック(直張用)					・複合フローリング(直張用)	・C種 ・A種 ・B種			
材料	樹種	厚さ(mm)	大きさ(mm)	裏面緩衝材																
・フローリングボード(直張用)	・なら ・()			・合成樹脂発泡シート																
・フローリングブロック(直張用)																				
・複合フローリング(直張用)	・C種 ・A種 ・B種																			
・モザイクカーペット(直張用) () () () ()	現場塗装 仕上げ ・ウレタン樹脂ワニス塗り(・A種 ・B種) ・オイルステイン塗りのうえワックス塗り ・生地そのままワックス塗り ・()																			
9.畳敷き (19.6.2) (表19.6.1)	種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・D種の畳床TK-(・I ・II ・III ・IV)																			
⑩せつこうボード、 その他のボード 及び合板張り (19.7.2) (表19.7.1) (19.7.3) (表19.7.4) (表19.7.5)	<table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>種別</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>○せつこうボード</td> <td></td> <td>壁 ・9.5(準不燃) ・12.5(不燃) 天井</td> </tr> <tr> <td>・化粧せつこうボード</td> <td>・トラバーチン模様 ・木目模様</td> <td>・9.5(不燃) ・9.5(準不燃)</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール化粧吸音板</td> <td>・普通 ・立体模様</td> <td>・9 ・() ・()</td> </tr> <tr> <td>・けい酸カルシウム板</td> <td>・タイプII 0.8FK</td> <td>・()</td> </tr> <tr> <td>○メラミン不燃化粧板</td> <td>・()</td> <td>・(3)</td> </tr> </table>	材種	種別	厚さ(mm)	○せつこうボード		壁 ・9.5(準不燃) ・12.5(不燃) 天井	・化粧せつこうボード	・トラバーチン模様 ・木目模様	・9.5(不燃) ・9.5(準不燃)	・ロックウール化粧吸音板	・普通 ・立体模様	・9 ・() ・()	・けい酸カルシウム板	・タイプII 0.8FK	・()	○メラミン不燃化粧板	・()	・(3)	
材種	種別	厚さ(mm)																		
○せつこうボード		壁 ・9.5(準不燃) ・12.5(不燃) 天井																		
・化粧せつこうボード	・トラバーチン模様 ・木目模様	・9.5(不燃) ・9.5(準不燃)																		
・ロックウール化粧吸音板	・普通 ・立体模様	・9 ・() ・()																		
・けい酸カルシウム板	・タイプII 0.8FK	・()																		
○メラミン不燃化粧板	・()	・(3)																		
合板張り ・普通合板 表面の樹種 生地そのまま (透明塗料塗り)ラワン (不透明塗料塗り)しな () 品質() 厚さ(mm) 接着の程度 1類(湿潤箇所) () m 防虫処理 () ・天然化粧合板 化粧板の種類 () 厚さ(mm) 接着の程度 1類(湿潤箇所) () m 防虫処理 () ・特殊加工合板 化粧加工の方法 ・オーバーレイ ・プリント ・塗装 () 表面性能() 厚さ(mm) 接着の程度 1類(湿潤箇所) () m																				

11.吸音材張り (19.7.2)	遮音シール材 ・適用する(・シーリング材 ・ジョイコンパウンド) 合板類の張付け ・B種 ・A種 せつこうボードの目地工法 ・継目処理 ・突付け ・目透し 下地 軽量鉄骨 木造 ()																								
	<table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>種別</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td>・吸音用グラスウールボード ・グラスウール成型板</td> <td>・2号32K</td> <td>・25</td> <td>・グラスクロス19メッシュ張り(小口共) ・化粧ボタン止め(タテ、ヨコ共@300程度)</td> </tr> </table>	材種	種別	厚さ(mm)	工法	・吸音用グラスウールボード ・グラスウール成型板	・2号32K	・25	・グラスクロス19メッシュ張り(小口共) ・化粧ボタン止め(タテ、ヨコ共@300程度)																
	材種	種別	厚さ(mm)	工法																					
	・吸音用グラスウールボード ・グラスウール成型板	・2号32K	・25	・グラスクロス19メッシュ張り(小口共) ・化粧ボタン止め(タテ、ヨコ共@300程度)																					
特定フロンを含まないもの <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>材料</th> <th>防火性能</th> <th>品質</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	材料	防火性能	品質																					
施工箇所	材料	防火性能	品質																						
12.壁紙張り (19.8.2)	素地ごしらえ せつこうボード面 ・B種 ・A種 コンクリート面 ・B種 ・A種 モルタル・プラスター面 ・B種 ・A種																								
13.断熱材 (19.9.2)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>材種</th> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>・ビーズポリスチレンフォーム断熱材 ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 ・ビーズポリスチレンフォーム保温材 ・押出法ポリスチレンフォーム保温材(スキンなし) ・積層硬質ウレタンフォーム保温材 ・フェノールフォーム保温材(2種?号を除く)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	材種	種類	厚さ(mm)		・ビーズポリスチレンフォーム断熱材 ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 ・ビーズポリスチレンフォーム保温材 ・押出法ポリスチレンフォーム保温材(スキンなし) ・積層硬質ウレタンフォーム保温材 ・フェノールフォーム保温材(2種?号を除く)																		
施工箇所	材種	種類	厚さ(mm)																						
	・ビーズポリスチレンフォーム断熱材 ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし) ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 ・ビーズポリスチレンフォーム保温材 ・押出法ポリスチレンフォーム保温材(スキンなし) ・積層硬質ウレタンフォーム保温材 ・フェノールフォーム保温材(2種?号を除く)																								
20 ユニット及びその他工事	1.フリーアクセスフロア (20.2.2)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>所定荷重</th> <th>高さ(mm)</th> <th>床仕上材及び厚さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・タイルカーペット ・6.5mm ・() ・ビニル床タイル()mm</td> <td>・帯電防止 ・漏えい抵抗 ・()</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・タイルカーペット ・6.5mm ・() ・ビニル床タイル()mm</td> <td>・帯電防止 ・漏えい抵抗 ・()</td> </tr> </table>	施工箇所	所定荷重	高さ(mm)	床仕上材及び厚さ(mm)	備考				・タイルカーペット ・6.5mm ・() ・ビニル床タイル()mm	・帯電防止 ・漏えい抵抗 ・()				・タイルカーペット ・6.5mm ・() ・ビニル床タイル()mm	・帯電防止 ・漏えい抵抗 ・()								
	施工箇所	所定荷重	高さ(mm)	床仕上材及び厚さ(mm)	備考																				
				・タイルカーペット ・6.5mm ・() ・ビニル床タイル()mm	・帯電防止 ・漏えい抵抗 ・()																				
				・タイルカーペット ・6.5mm ・() ・ビニル床タイル()mm	・帯電防止 ・漏えい抵抗 ・()																				
2.可動間仕切 (20.2.3)	組立て方式 ・スタッド式 ・パネル式 ・スタッドパネル式 寸法及び形状 図示(図面番号:) 表面材の材質及び仕上げ 図示(図面番号:) 遮音性 高遮音																								
3.移動間仕切 (20.2.4)	操作方法 ・手動式 ・電動式 表面材の材質及び仕上げ 図示(図面番号:) 遮音性 高遮音 ハンガーレールの取付け下地の補強 ・標準仕様書[20.2.4](c)(3) 図示(図面番号:) ハンガーレールの固定方法 ・溶接 ・あと施工アンカー(材質: 、寸法:)																								
4.トイレブース (20.2.5)	表面仕上 ・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 幅木 図示(図面番号:) 扉小口の材質 ・ステンレス製 ・アルミ製 ※この図面はA1サイズを原寸とする。 <table border="1"> <tr> <td>工事名</td> <td colspan="3">久居駅前広場バス待合所新築その他工事</td> </tr> <tr> <td>図面名</td> <td colspan="3">特記仕様書 6</td> </tr> <tr> <td>作成年月日</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>縮尺</td> <td>—</td> <td>図面番号</td> <td>W-A-6</td> </tr> <tr> <td>会社名</td> <td colspan="3">株式会社 エイト日本技術開発</td> </tr> <tr> <td>事業者名</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	工事名	久居駅前広場バス待合所新築その他工事			図面名	特記仕様書 6			作成年月日				縮尺	—	図面番号	W-A-6	会社名	株式会社 エイト日本技術開発			事業者名			
工事名	久居駅前広場バス待合所新築その他工事																								
図面名	特記仕様書 6																								
作成年月日																									
縮尺	—	図面番号	W-A-6																						
会社名	株式会社 エイト日本技術開発																								
事業者名																									

20 ユニット及びその他工事	5. 階段滑り止め (20. 2. 6)	・ ステンレスSUS304製 ビニルタイヤ入り(両端フラットエンド付き) ・ () 寸法 ・ 約35mm ・ 図示(図面番号:) 工法 ・ 接着工法 ・ 埋込み工法																		
	6. 黒板及び ホワイトボード (20. 2. 8)	黒板の種類 ・ 焼付け ・ () 黒板の色 ・ 緑 ・ ()																		
	7. 鏡 (20. 2. 14)	厚さ ・ 5mm ・ (mm)																		
	8. 表示 (20. 2. 10)	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>材質</th> <th>厚さ</th> <th>寸法</th> <th>印刷等の種類</th> <th>取付方法</th> </tr> <tr> <td>・ 室名札 ・ ()</td> <td>・ アクリル ・ ()</td> <td>・ 5mm</td> <td>・ ()</td> <td>・ シルク スクリーン印刷 ・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 案内板 ・ ()</td> <td>・ アクリル ・ ()</td> <td>・ 5mm</td> <td>・ ()</td> <td>・ シルク スクリーン印刷 ・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table> ・ 衝突防止表示 図示(図面番号:) ・ 非常用進入口表示 図示(図面番号:)	区分	材質	厚さ	寸法	印刷等の種類	取付方法	・ 室名札 ・ ()	・ アクリル ・ ()	・ 5mm	・ ()	・ シルク スクリーン印刷 ・ ()	・ ()	・ 案内板 ・ ()	・ アクリル ・ ()	・ 5mm	・ ()	・ シルク スクリーン印刷 ・ ()	・ ()
	区分	材質	厚さ	寸法	印刷等の種類	取付方法														
	・ 室名札 ・ ()	・ アクリル ・ ()	・ 5mm	・ ()	・ シルク スクリーン印刷 ・ ()	・ ()														
	・ 案内板 ・ ()	・ アクリル ・ ()	・ 5mm	・ ()	・ シルク スクリーン印刷 ・ ()	・ ()														
	9. 煙突 ライニング (20. 2. 11)	煙突用成形ライニング材 ・ ゴノライト系けい酸加減 ライニング ・ 心材付き繊維積層 適用安全使用温度 ・ (°C)																		
	10. ブラインド (20. 2. 12)	<table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>スラット</th> <th>開閉方式</th> <th>スラットの 成形幅(mm)</th> <th>ヘッドボックス・ ボトムレールの種類</th> </tr> <tr> <td>・ 横形 ブラインド</td> <td>・ アルミニウム 合金 ・ ()</td> <td>・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()</td> <td>・ 25 ・ ()</td> <td>・ 鋼製 ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 縦形 ブラインド</td> <td>・ アルミニウム 合金 ・ ()</td> <td>・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()</td> <td>・ 80 ・ 100 ・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table>	形式	スラット	開閉方式	スラットの 成形幅(mm)	ヘッドボックス・ ボトムレールの種類	・ 横形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 25 ・ ()	・ 鋼製 ・ ()	・ 縦形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 80 ・ 100 ・ ()	・ ()			
	形式	スラット	開閉方式	スラットの 成形幅(mm)	ヘッドボックス・ ボトムレールの種類															
	・ 横形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 25 ・ ()	・ 鋼製 ・ ()															
	・ 縦形 ブラインド	・ アルミニウム 合金 ・ ()	・ ギヤ式 ・ コード式 ・ ()	・ 80 ・ 100 ・ ()	・ ()															
	11. ロール スクリーン (20. 2. 13)	操作方法 ・ スプリング式 ・ コード式 ・ 電動式 寸法及び材種 ・ 図示(図面番号:)																		
12. カーテン及び カーテンレール (20. 2. 14)	カーテンの形式等 <table border="1"> <tr> <th>きれ地</th> <th>ひだの種類</th> <th>形式</th> <th>開閉操作</th> </tr> <tr> <td>・ ドレープ ・ レース ・ 図示()</td> <td>・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ つまひだ ・ プレーンひだ ・ 片ひだ</td> <td>・ 片引き ・ 引分け</td> <td>・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動</td> </tr> <tr> <td>・ 暗幕 (遮光()級)</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table> カーテンレール ・ アルミ製 ・ ステンレス製 強さ区分 ・ 10-90 ・ () 形状 ・ シングル ・ ダブル 断面形状 ・ 角形 ・ C形 ・ D形	きれ地	ひだの種類	形式	開閉操作	・ ドレープ ・ レース ・ 図示()	・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ つまひだ ・ プレーンひだ ・ 片ひだ	・ 片引き ・ 引分け	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動	・ 暗幕 (遮光()級)	・ ()	・ ()	・ ()							
きれ地	ひだの種類	形式	開閉操作																	
・ ドレープ ・ レース ・ 図示()	・ フランスひだ ・ 箱ひだ ・ つまひだ ・ プレーンひだ ・ 片ひだ	・ 片引き ・ 引分け	・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動																	
・ 暗幕 (遮光()級)	・ ()	・ ()	・ ()																	
13. ブレキャスト コンクリート工事 (20. 3. 2) (20. 3. 3) (20. 3. 4)	補強鉄線の径 ・ 3.2mm ・ () 設計基準強度Fc ・ 図示(図面番号:) 配筋 ・ 図示(図面番号:) 取付方法 ・ 図示(図面番号:)																			
14. 間知石 間知ブロック積 (20. 4. 2) (20. 4. 3)	材種 ・ () 種類及び質量区分 ・ 図示(図面番号:) 積み方 ・ 谷積み ・ 布積み 目塗り ・ () 伸縮調整目地 ・ 材種() ・ 厚さ(mm)																			

21 排水工事	①. 排水管 (21. 2. 1) (表21. 2. 1)	排水管用材料 <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>管の種類</th> <th>呼び径</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ 硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td>VU</td> <td>75</td> <td>雨水排水</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	材種	管の種類	呼び径	備考	・ 硬質ポリ塩化ビニル管	VU	75	雨水排水																	
	材種	管の種類	呼び径	備考																							
	・ 硬質ポリ塩化ビニル管	VU	75	雨水排水																							
	②. 排水樹等 (21. 2. 1)	・ 排水樹 種類及び寸法 ・ 図示 ・ 適用荷重() ・ 排水溝 種類及び寸法 ・ 図示(図面番号:) ・ ふた/グレーチングの種類 <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>用途</th> <th>適用荷重</th> <th>メインパーピッチ</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	材質	用途	適用荷重	メインパーピッチ	備考																				
材質	用途	適用荷重	メインパーピッチ	備考																							
③. 地業の材料 (21. 2. 1)	・ 再生クラッシュラン ・ 切込砂利又は切込砕石 ・ 山砂 ・ 砂の粒度試験																										
④. 埋め戻し土 (21. 2. 1)	・ B種 ・ A種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土																										
⑤. 施工 (21. 2. 2)	遠心力鉄筋コンクリート管 厚さ、種類 ・ 図示(図面番号:) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 基礎の厚さ、種類 t100、砂 ・ 図示(図面番号:) 継手 ・ 接着剤 ・ ゴム輪																										
6. 街きよ 緑石、側溝 (21. 3. 1) (21. 3. 2)	コンクリート縁石、側溝 形状、寸法 ・ 図示(図面番号:) 地業 材料 ・ 標準仕様書[4. 6. 2] ・ 図示(図面番号:) 厚さ ・ 100mm ・ 図示(図面番号:)																										
22 舗装工事	1. 路床 (22. 2. 2) (22. 2. 3) (表22. 2. 2)	路床の材料(厚さは図示(図面番号:)) ・ 遮断層 ・ 川砂 ・ 海砂又は良質な山砂 ・ 凍上抑制層 ・ 切込み砂利 ・ 砂 ・ () ・ フィルター層 ・ 砂																									
	(22. 2. 4) (22. 2. 5)	路床安定処理 ・ 行う 添加材料による安定処理 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種 ・ 生石灰()号 ・ 消石灰()号 添加量()kg/m ³ (目標CBR ・ 5以上 ・ ())																									
	(22. 2. 2)	ジオテキスタイル ・ 適応する 盛土に用いる材料 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土 C種の場合: 建設発生土受入量()m ³ 片道の運搬距離()km																									
	(22. 2. 2)	試験 ・ 路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 路床締め度の試験 ・ 現場CBR試験																									
	2. 路盤 (22. 3. 2) (表22. 3. 1) (22. 3. 3) (表22. 3. 2) (22. 3. 3) (22. 3. 5)	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">舗装の種類</th> <th colspan="2">舗装の厚さ(mm)</th> <th rowspan="2">路盤材料</th> </tr> <tr> <th>車道部</th> <th>歩道部</th> </tr> <tr> <td>・ アスファルト舗装</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ 再生クラッシュラン</td> </tr> <tr> <td>・ カラー舗装</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ クラッシュラン</td> </tr> <tr> <td>・ 透水性アスファルト舗装</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>鉄鋼スラグ</td> </tr> <tr> <td>・ インターロッキング ブロック舗装</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ クラッシュラン ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> <td></td> </tr> </table>	舗装の種類	舗装の厚さ(mm)		路盤材料	車道部	歩道部	・ アスファルト舗装	・ ()	・ ()	・ 再生クラッシュラン	・ カラー舗装	・ ()	・ ()	・ クラッシュラン	・ 透水性アスファルト舗装	・ ()	・ ()	鉄鋼スラグ	・ インターロッキング ブロック舗装	・ ()	・ ()	・ クラッシュラン ・ ()	・ ()	・ ()	・ ()
舗装の種類	舗装の厚さ(mm)			路盤材料																							
	車道部	歩道部																									
・ アスファルト舗装	・ ()	・ ()	・ 再生クラッシュラン																								
・ カラー舗装	・ ()	・ ()	・ クラッシュラン																								
・ 透水性アスファルト舗装	・ ()	・ ()	鉄鋼スラグ																								
・ インターロッキング ブロック舗装	・ ()	・ ()	・ クラッシュラン ・ ()																								
・ ()	・ ()	・ ()																									

23 植栽工事	3. アスファルト 舗装 (22. 4. 2)~ (22. 4. 6) (表22. 4. 1)~ (表22. 4. 6)	舗装厚 ・ A-5-15 ・ () ・ A-3-10 ・ () 表層及び基層の種類 ・ 加熱アスファルト混合物 ・ 再生加熱アスファルト混合物 路盤材料 ・ クラッシュラン ・ 再生材クラッシュラン ・ () シールコートの施工 ・ 行う(適用範囲 図示(図面番号:)) 試験 ・ アスファルト混合材等の抽出試験																				
	4. コンクリート 舗装 (22. 5. 2)~ (22. 5. 6)	早強セメント ・ 使用しない ・ 使用する 注入目地材料 ・ 低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ 目地 ・ 種類() ・ 間隔() 構造 ・ 標準仕様書 [図22. 5. 1] ・ ()																				
	5. カラー舗装 (22. 6. 2) (22. 6. 3)	種類 ・ 加熱系 構成及び厚さ() 混合物 ・ アスファルト ・ 石油樹脂系 添加材 ・ 着色骨材 ・ 自然石 ・ 常温系 着色部下部 ・ アスファルト舗装 ・ コンクリート舗装																				
	6. 透水性ア スファルト舗装 (22. 7. 2) (表22. 7. 1)	舗装材料及び厚さ ストレートアスファルト 厚さ(mm) ・ () ・ 図示(図面番号:)																				
	7. ブロック舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3)	<table border="1"> <tr> <th>舗装</th> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・ コンクリート 平板舗装</td> <td>・ 普通平板 ・ 透水平板</td> <td>・ 300角 ・ ()</td> <td>・ 60 ・ ()</td> <td>目地 ・ 砂 ・ モルタル 表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し</td> </tr> <tr> <td>・ インター ロッキング ブロック舗装</td> <td>・ 普通ブロック ・ 透水性ブロック</td> <td></td> <td>車道部 ・ 80 ・ () 歩道部 ・ 60 ・ () ・ 植生用ブロック ・ 80 ・ 100</td> <td>表面加工 ・ 標準品 ・ ()</td> </tr> <tr> <td>・ 鋪石舗装</td> <td>・ 小鋪石 ・ 花こう岩 ・ ()</td> <td></td> <td>・ 80~100</td> <td>施工方法 ・ うろこ張り ・ () 基層 ・ コンクリート舗装 ・ アスファルト舗装</td> </tr> </table>	舗装	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考	・ コンクリート 平板舗装	・ 普通平板 ・ 透水平板	・ 300角 ・ ()	・ 60 ・ ()	目地 ・ 砂 ・ モルタル 表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し	・ インター ロッキング ブロック舗装	・ 普通ブロック ・ 透水性ブロック		車道部 ・ 80 ・ () 歩道部 ・ 60 ・ () ・ 植生用ブロック ・ 80 ・ 100	表面加工 ・ 標準品 ・ ()	・ 鋪石舗装	・ 小鋪石 ・ 花こう岩 ・ ()		・ 80~100	施工方法 ・ うろこ張り ・ () 基層 ・ コンクリート舗装 ・ アスファルト舗装
	舗装	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	備考																	
	・ コンクリート 平板舗装	・ 普通平板 ・ 透水平板	・ 300角 ・ ()	・ 60 ・ ()	目地 ・ 砂 ・ モルタル 表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し																	
	・ インター ロッキング ブロック舗装	・ 普通ブロック ・ 透水性ブロック		車道部 ・ 80 ・ () 歩道部 ・ 60 ・ () ・ 植生用ブロック ・ 80 ・ 100	表面加工 ・ 標準品 ・ ()																	
・ 鋪石舗装	・ 小鋪石 ・ 花こう岩 ・ ()		・ 80~100	施工方法 ・ うろこ張り ・ () 基層 ・ コンクリート舗装 ・ アスファルト舗装																		
8. 砂利敷き (22. 9. 2)	・ 通路部 ・ A種 ・ B種 ・ () ・ 建物周囲 ・ B種 ・ A種 ・ ()																					
1. 植栽地の確認 (23. 1. 3)	・ 土壌の水素イオン濃度(pH)試験 ・ 行う ・ 電気伝導度類(EC)の試験 ・ 行う ()の試験 ・ 行う																					
2. 植栽基盤 (23. 2. 2) (23. 2. 3) (表23. 2. 2)	植栽基盤整備工法 ・ 樹木 (・ A種 ・ ()) ・ 芝及び地被類 (・ B種 ・ ()) 有効土層 面積 ・ 図示(図面番号:) 厚さ ・ 図示(図面番号:) 排水設備 ・ 設ける (・ 暗きよ ・ 開きよ ・ 排水層 ・ 縦穴排水 ・ ()) 埋込み用土 ・ 現場発生の良質土 ・ 客土 土壌改良材 ・ () 樹木の種類 ・ 図示(図面番号:) 寸法 ・ 図示(図面番号:) 株立数 ・ 図示(図面番号:) 刈込み ・ あり ・ なし 支柱材 ・ 丸太(防腐処理方法 ・ 加圧式防腐処理方法 ・ ()) ・ () 支柱形式 ・ 鳥居形 ・ ハツ掛け系 ・ () 幹巻き用材料 ・ 幹巻き用テープ ・ わら ・ もこ																					
3. 植樹 (23. 3. 2) (23. 3. 3)																						

24 外構工事	4. 新植樹木の 枯補償 (23. 3. 4)	引渡しの日から ・ 1年 ・ ()
	5. 移植樹木の 枯損処理 (23. 3. 6)	引渡しの日から ・ 1年 ・ ()
24 外構工事	6. 芝(23. 4. 2) (23. 4. 3)	種類 ・ コウライシバ ・ ノシバ ・ ()
	7. 屋上緑化 (23. 5. 3) (23. 5. 4)	植栽基盤及び材料 ・ 屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・ 図示(図面番号:) 排水量 ・ 軽量骨材(層の厚さ:) ・ 板状成形品 植込み用土 ・ 改良土 ・ 人工軽量土 樹木の材種 図示(図面番号:) 寸法 図示(図面番号:) 株立数 図示(図面番号:) ・ 屋上緑化軽量システム 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ・ 図示(図面番号:) 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ・ 図示(図面番号:) 支柱 ・ 図示(図面番号:) かん水装置 ・ 図示(図面番号:)
	1. 旗竿	材種 ・ アルミニウム製 ・ () 形式 テーバー付き ・ ロープ式 ・ ハンドル式 脚部 ・ 埋込式 ・ ベース式 高さ(m) ・ 5 ・ 6 ・ 7
	2. フェンス	・ ネットフェンス ・ 網材種(・ ビニル被覆鉄線 ・ ()) ・ メッシュフェンス 網材種(・ 樹脂皮膜 ・ 工場塗装 ・ ()) ・ 格子フェンス 網材種(・ 樹脂皮膜 ・ 工場塗装 ・ ())
	※この図面は A 1 サイズを原寸とする。	
	工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事
	図面名	特記仕様書 7
	作成年月日	
	縮尺	— 図面番号 W-A-7
	会社名	株式会社 エイト日本技術開発
事業者名		

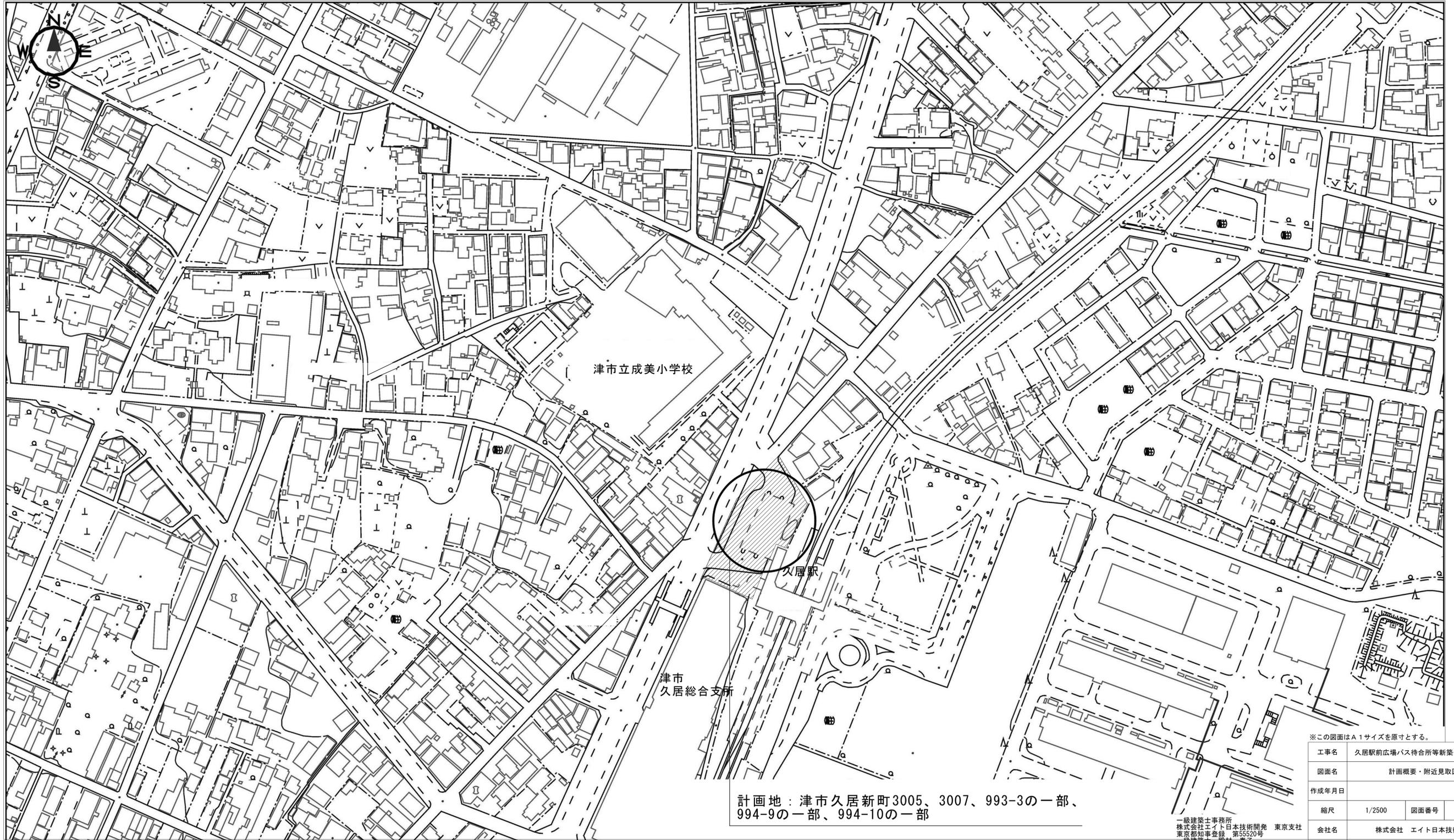
計画概要

件名 久居駅前広場バス待合所等新築その他工事
 地番地名 津市久居新町3005、3007、993-3の一部、994-9の一部、994-10の一部
 用途地域 商業地域
 防火地域・その他の地域 防火指定なし、法22条地域、久居駅前地区第一種市街地再開発事業、高度利用地区
 敷地面積 3,116.26+13.72=3,129.98㎡
 容積率／建ぺい率 400%／80%
 主要用途 バス待合所(08310) 身体障がい者用乗降場上屋(08990)
 前面道路幅員／接道長さ 22m／52.98m

□バス待合所
 構造・規模 鉄骨造・平屋建て
 耐火建築物 その他
 最高の高さ 2.910m
 軒の高さ 2.600m
 外部仕上げ 屋根 アルミハニカム® 104
 樋 アルミ製60φ
 外壁 アルミサッシ® 13波型
 建具 アルミサッシ
 外部床 別途土木工事

□思いやり乗降場
 構造・規模 鉄骨造・平屋建て
 耐火建築物 その他
 最高の高さ 4.924m
 軒の高さ 4.924m
 外部仕上げ 屋根 アルミハニカム® 104
 樋 アルミ製60φ
 外部床 別途土木工事

面積	既存 (㎡)		合計	増築 (㎡)		合計 (㎡)	建ぺい率	29.85%
	ルーフA	計		バス待合所	合計			
建築面積	767.97	778.37	888.10	34.79	46.19	934.29		
	ルーフB			思いやり乗降場				
	10.40			11.40				
	歩廊							
	109.73							
延床面積	ルーフA	計	合計	バス待合所	合計	合計 (㎡)	容積率	26.46%
	656.37	656.37		34.79				
	ルーフB			思いやり乗降場				
	-			27.30				
	歩廊							
	109.73							



計画地：津市久居新町3005、3007、993-3の一部、994-9の一部、994-10の一部

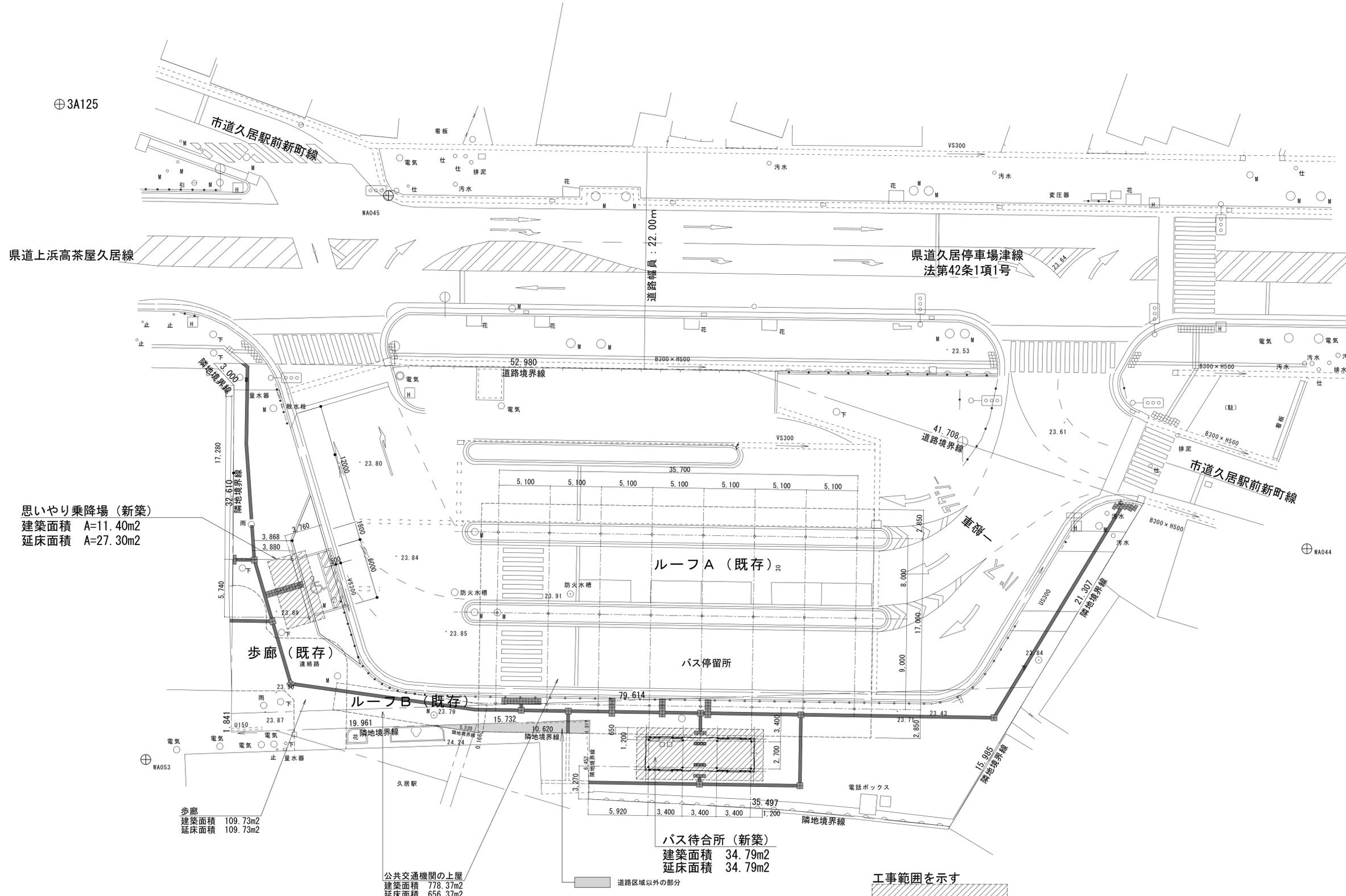
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	計画概要・附近見取図		
作成年月日			
縮尺	1/2500	図面番号	W-A-8
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

級建築士事務所
 株式会社 エイト日本技術開発 東京支社
 東京都千代田区 第55520号
 級建築士 蔵村 泰子
 大臣登録 第221765号

配置図

S=1:200



⊕3A125

県道上浜高茶屋久居線

思いやり乗降場 (新築)
 建築面積 A=11.40m²
 延床面積 A=27.30m²

歩廊
 建築面積 109.73m²
 延床面積 109.73m²

公共交通機関の上屋
 建築面積 778.37m²
 延床面積 656.37m²

バス待合所 (新築)
 建築面積 34.79m²
 延床面積 34.79m²

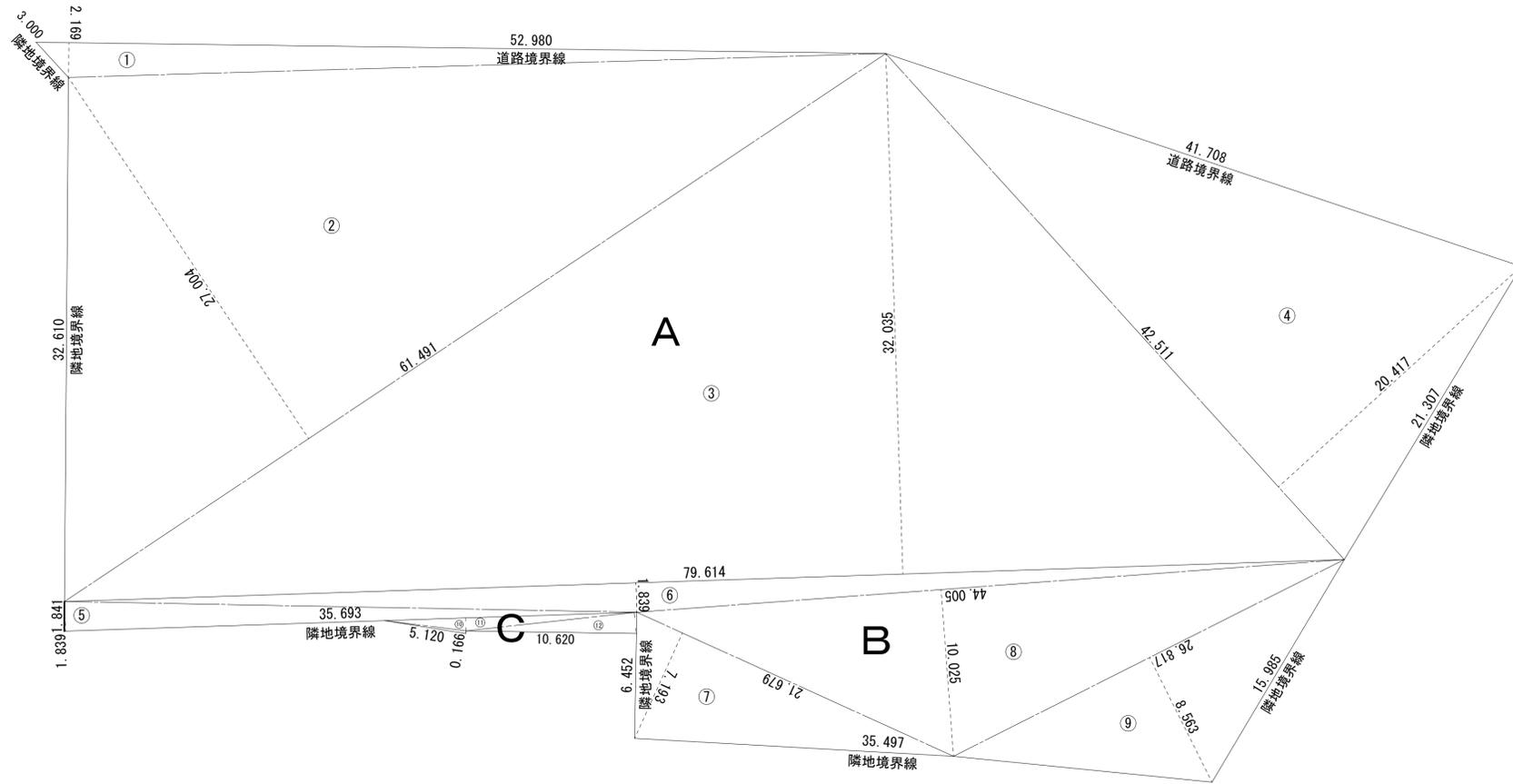
- 床注意表示 (誘導) 屋外は全て別途土木工事
- 床注意表示 (警告) 屋外は全て別途土木工事

※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	配置図		
作成年月日			
縮尺	1/200	図面番号	W-A-9
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
 株式会社 エイト日本技術開発 東京支社
 東京都知事登録 第55520号
 一級建築士 殿村 泰子
 大臣登録 第221765号

敷地求積図



A			
記号	底辺	高さ	倍面積 m ²
1	52.980	2.169	114.903670
2	61.491	27.004	1660.502964
3	79.614	32.035	2550.406625
4	42.511	20.417	867.947087
倍面積 m ²			5193.760346
面積 m ²			2596.88

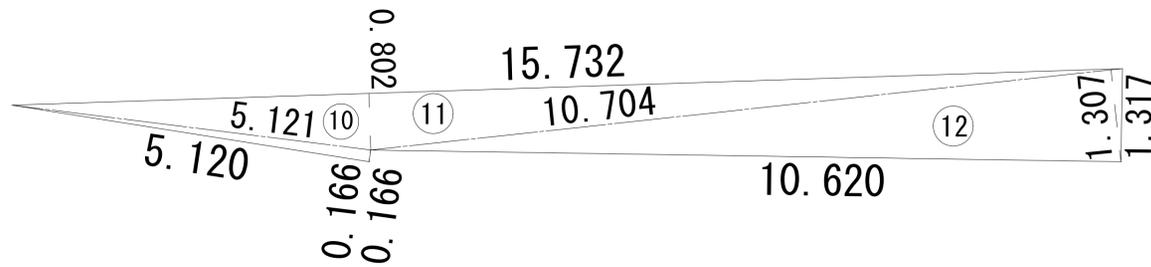
B			
記号	底辺	高さ	倍面積 m ²
5	35.693	1.839	65.639427
6	79.614	1.839	146.410146
7	21.679	7.193	155.937047
8	44.005	10.025	441.149714
9	26.817	8.563	229.623673
倍面積 m ²			1038.760007
面積 m ²			519.38

道路区域の部分	
A、B合計面積 m ²	3116.26

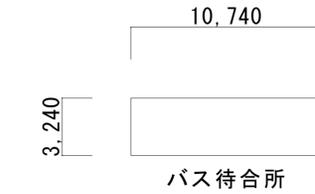
C			
記号	底辺	高さ	倍面積 m ²
10	5.121	0.166	0.850
11	15.732	0.802	12.617
12	10.704	1.307	13.990
倍面積 m ²			27.457
面積 m ²			13.72

A、B、C合計面積 m ²	3129.98
--------------------------	---------

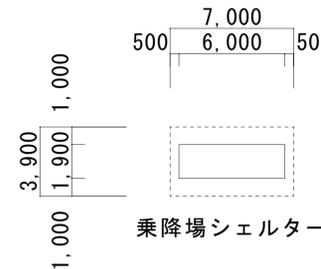
敷地求積図 C 部分拡大



建物求積図 (増築)



バス待合所面積計算表		
建築面積	計算式	面積 m ²
	10.74 × 3.24 = 34.798	34.79
床面積	計算式	面積 m ²
	10.74 × 3.24 = 34.798	34.79



乗降場面積計算表		
建築面積	計算式 (端部より1m、0.5m後退した線で計算)	面積 m ²
	6.00 × 1.90 = 11.40	11.40
床面積	計算式	面積 m ²
	7.00 × 3.90 = 27.30	27.30

※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	求積図		
作成年月日			
縮尺	1/200	図面番号	W-A-10
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
株式会社 エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 奏子
大臣登録 第221765号

外部仕上表

バス待合所			外壁廻縁	7ö既製品(M-130)		思いやり乗降場	
屋根	7ö既製品t104(表面処理:フッ素樹脂塗装)	7ö既製品t104(表面処理:フッ素樹脂塗装)	水切	7ö既製品(M-86)	M-130:RIKEN同等品	屋根廻り	別図詳細図参照
棟包	7ö曲げ加工品(表面処理:フッ素樹脂塗装)	7ö曲げ加工品:住軽日軽同等品	外壁幕板	7ö既製品t1.5(シヨウト部箱折シリング)、7ö板t8下地、透湿防水シート	M-86:RIKEN同等品	見え掛り鉄部	DP塗装
軒	7ö既製品t104裏(表面処理:フッ素樹脂塗装)	7ö既製品t104裏(表面処理:フッ素樹脂塗装)	基礎側	コンクリート化粧打放しの上フッ素樹脂クリア仕上	ポンツウ水性AC-SR工法:AGC同等品	雨水排水	別途土木工事
軒樋	上記専用7ö押出形材(表面処理:フッ素樹脂塗装)幕板共、落し口:ステンレス防塵網60φ用	7ö押出形材:住軽日軽同等品	ヘッドキャップ	ステンレス製既製品100φ(VB-FHJN100S)	VB-FHJN100S:panasonic同等品	外構床他	別途土木工事
縦樋	縦樋:7ö製60φ、支持金物:7ö既製品φ120以下	7ö製60φ(ヘッドレス):7ö同等品	雨水排水	排水管:VU75、100 塩ビ小口径樹:200、300			
外壁	7ö既製品t13波型(RA14)、7ö板t8下地、透湿防水シート	RA14:RIKEN同等品	外構床	別途土木工事			

内部仕上表

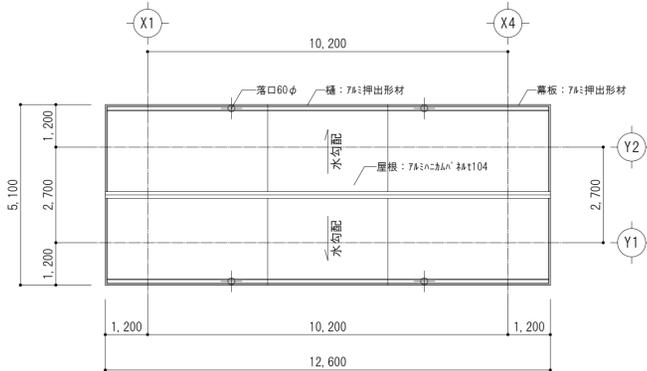
階	室名	床	巾木	H	腰	H	壁	天井	CH	野縁廻縁	備考
	待合室	コンクリート直押、砂利下地	100角磁器質7ö	100			LGS下地 PBt12.5の上 不燃化粧板t3.0	屋根7ö既製品t104裏	2725 ~2756	なし	ベント、ビクチャレール
		せっき質インガブロック 230×114×t60					見え掛り鉄部(鉄骨柱) DP塗	見え掛り鉄部(鉄骨梁) DP塗			7ö塞ぎ板

参考品番及び各種仕様等

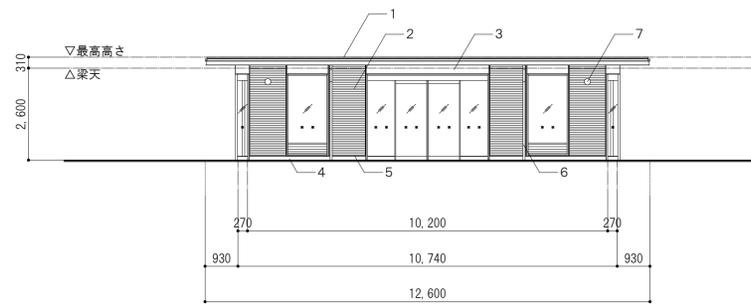
100角磁器質7ö	ベイス	INAX同等品
不燃化粧板t3.0	セラール	7ö同等品
上記見切材	7öシヨウト-M形状	7ö同等品
ベント	RBG-0523	7ö同等品
ビクチャレール	7ö既製品T-3N	TOSO同等品

註) 石綿及びクロルピリボスは使用しない

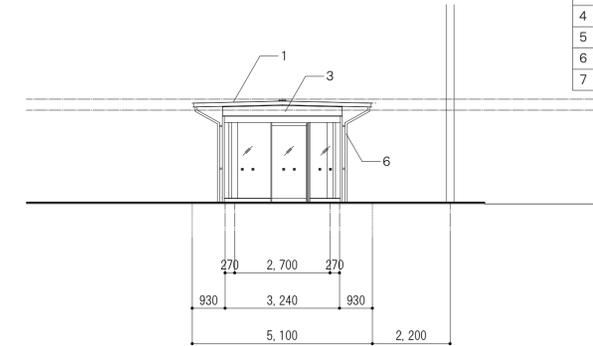
1	屋根:7ö既製品t104(フッ素樹脂塗装)
2	外壁:7ö既製品t13波型
3	外壁幕板:7ö既製品t1.5
4	基礎側:コンクリート化粧打放しの上7ö塗装
5	水切:7ö既製品
6	縦樋:7ö製60φ
7	ベントキャップ:ステンレス製既製品100φ



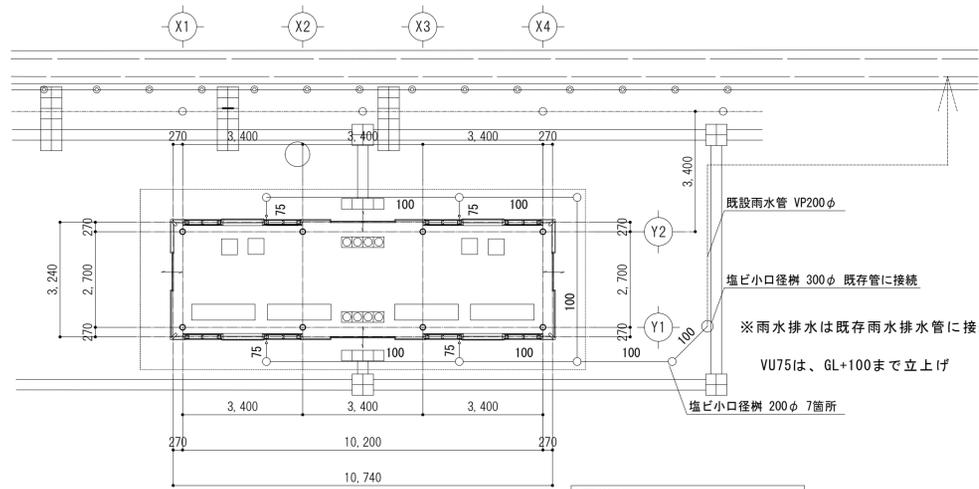
屋根伏図 S:1/100



東立面図 S:1/100

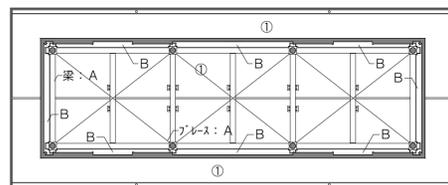


北立面図 S:1/100



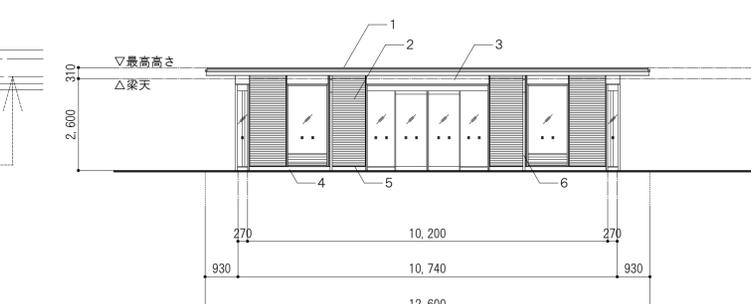
平面図 S:1/100

面積表	
計算式	10.74×3.24=34.798
建築面積	34.79 m ²
延床面積	34.79 m ²

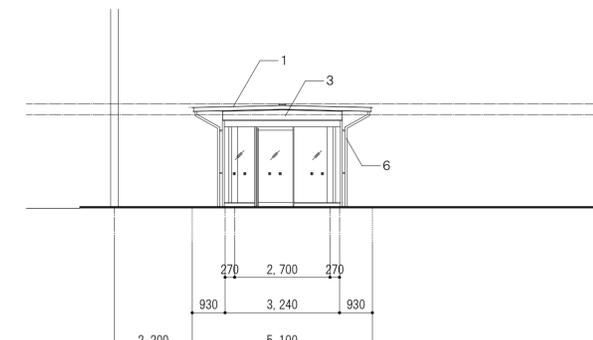


天井伏図 S:1/100

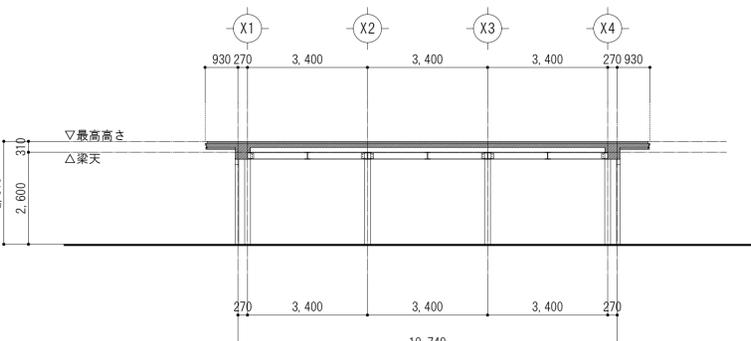
天井仕上表	
①	7ö既製品t104(フッ素樹脂塗装)
A	見え掛り鉄部:DP塗
B	天井塞ぎ板:7ö曲げ加工t1.5



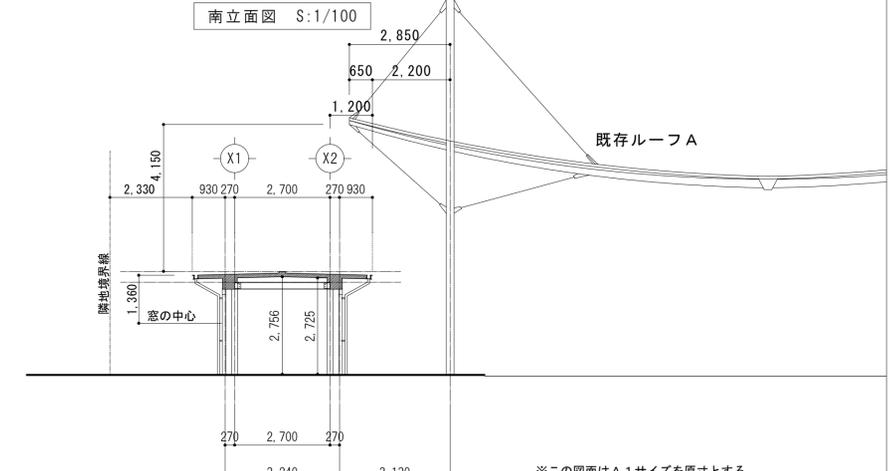
西立面図 S:1/100



南立面図 S:1/100



断面図 S:1/100

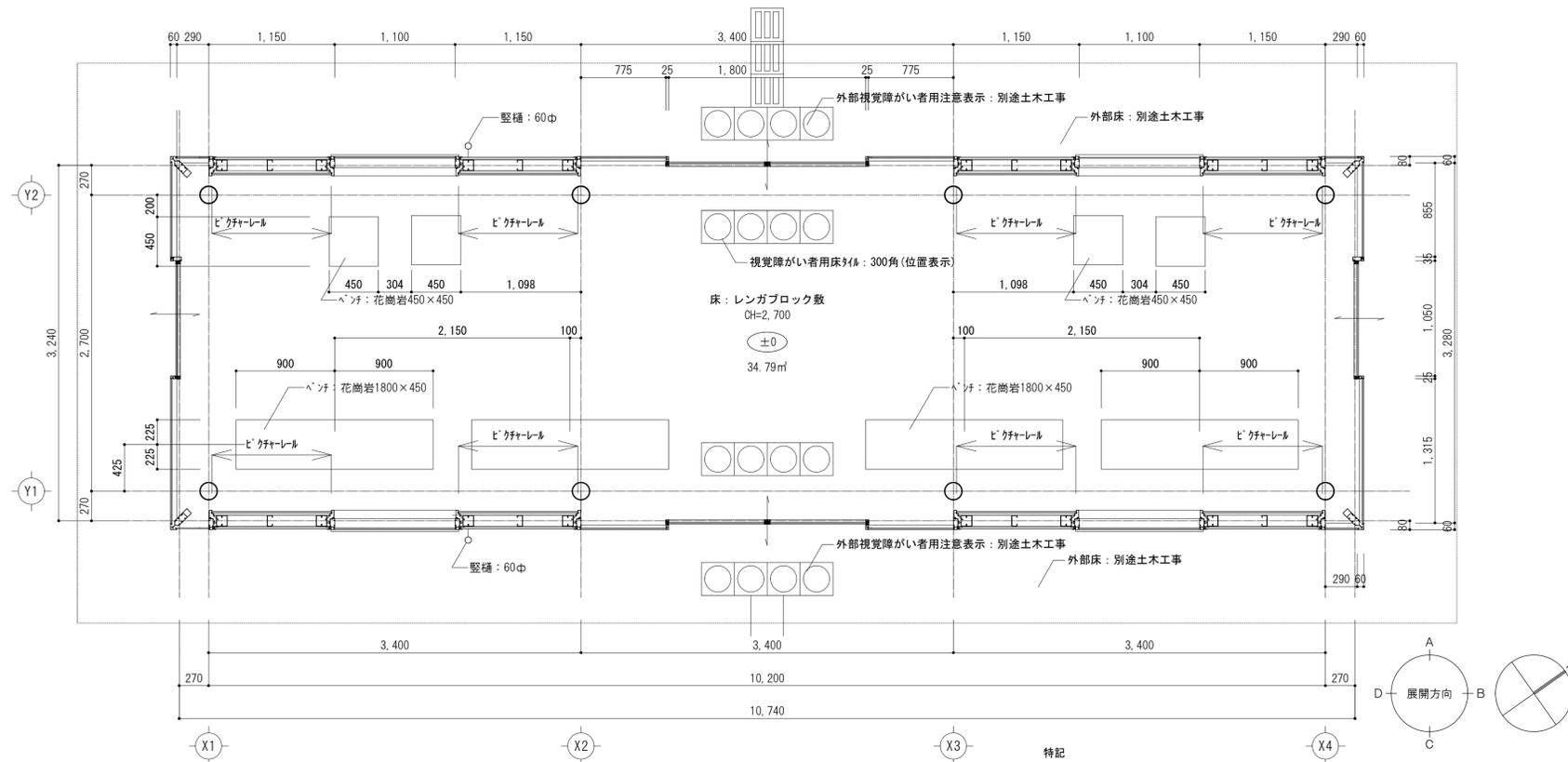


断面図 S:1/100

※この図面はA1サイズを原寸とする。

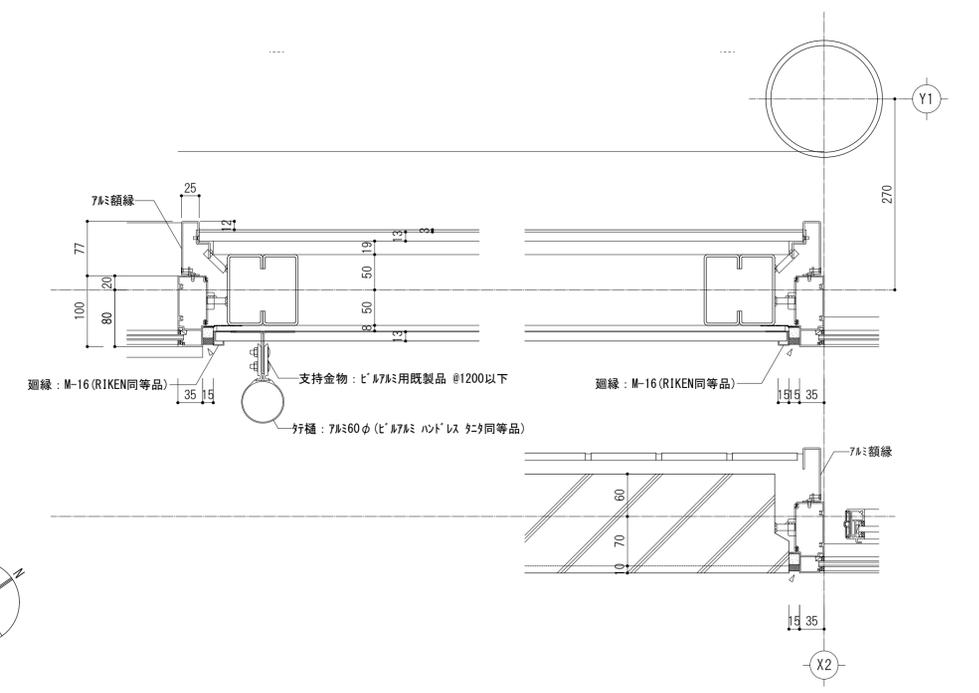
工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	バス待合所 仕上表・平面・屋根伏・天井伏・立面・断面図		
作成年月日			
縮尺	1/100	図面番号	W-A-11
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
株式会社エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 泰子
大臣登録 第221765号

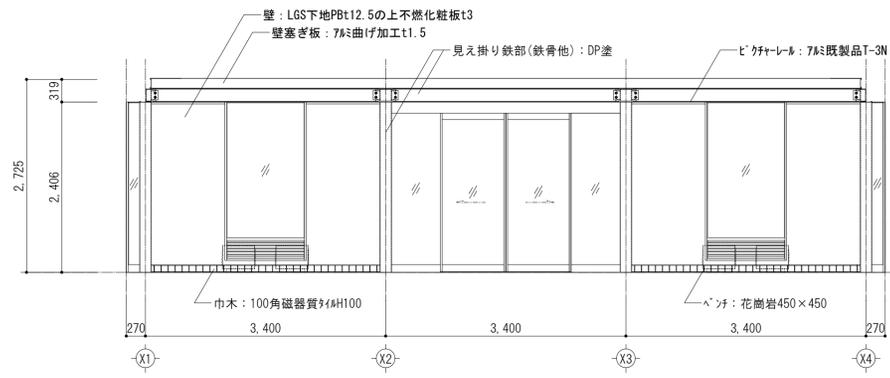


平面詳細図 S:1/30

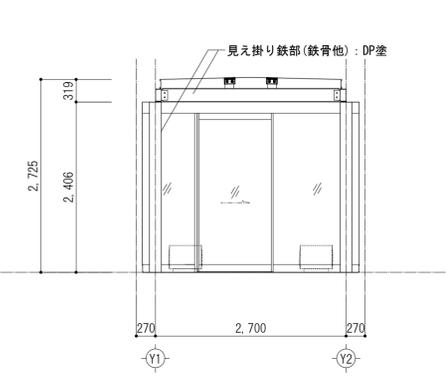
特記
 ※特記なき限り、壁は芯振りとする。
 ※±0 内は、F Lからのレベルを示す。



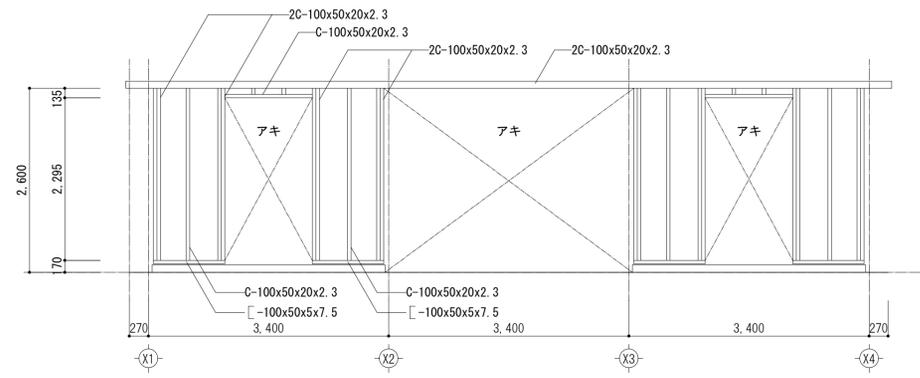
詳細図 S:1/5



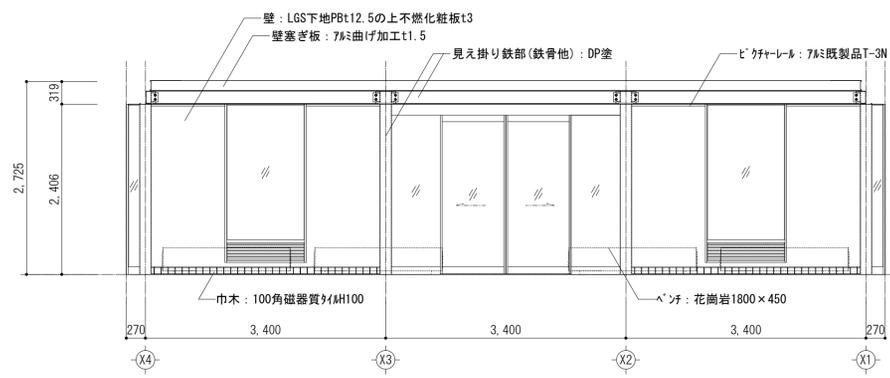
展開図A S:1/50



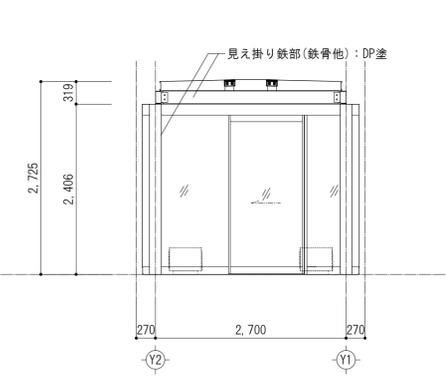
展開図B S:1/50



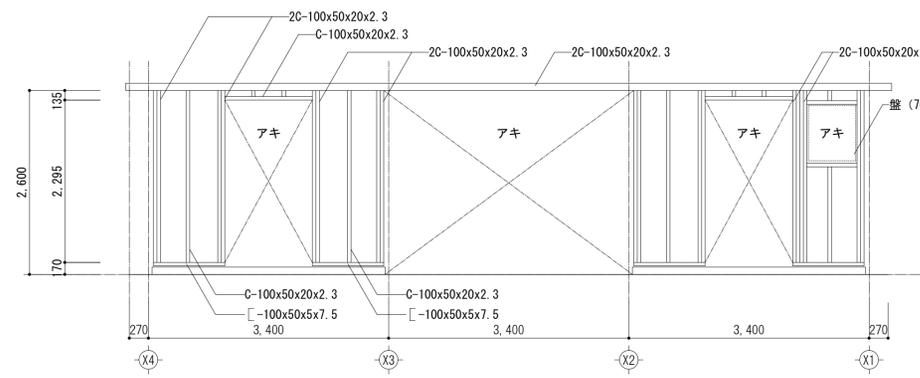
Y2+270通り壁下地 S:1/50



展開図C S:1/50



展開図D S:1/50



Y1-270通り壁下地 S:1/50

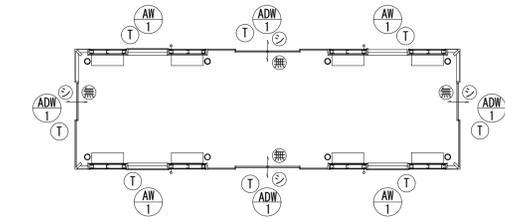
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	バス待合所 平面詳細図・展開図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	W-A-13
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
 株式会社エイト日本技術開発 東京支社
 東京都知事登録 第55520号
 一級建築士 殿村 素子
 大臣登録 第221765号

符号・数量	ADW 1	2ヶ所	ADW 2	2ヶ所	AW 1	4ヶ所
形状・寸法						
室名	待合所	待合所	待合所			
材種	両引分自動ドア	見込100	片引ハンガードア			
仕上	7mm電解着色		7mm電解着色			
硝子	T8		T8			
付属金物	標準金物一式、外シリング錠、複合センサー(マイカ波・赤外線)、衝突防止マウ(SUS製)		標準金物一式、外シリング錠、取手(ステンレス製 L2150)、衝突防止マウ(SUS製)			標準金物一式、衝突防止マウ(SUS製)、網戸(SUS製)
額縁(枠)	枠2方7mm額縁、レール: SUS304 t2.0加工		枠2方7mm額縁、レール: SUS304 t2.0加工			枠2方下方7mm額縁
備考	自動扉装置エンジン、センサー: 動体/静止検知型		自動閉鎖装置			ガラス開口率33%

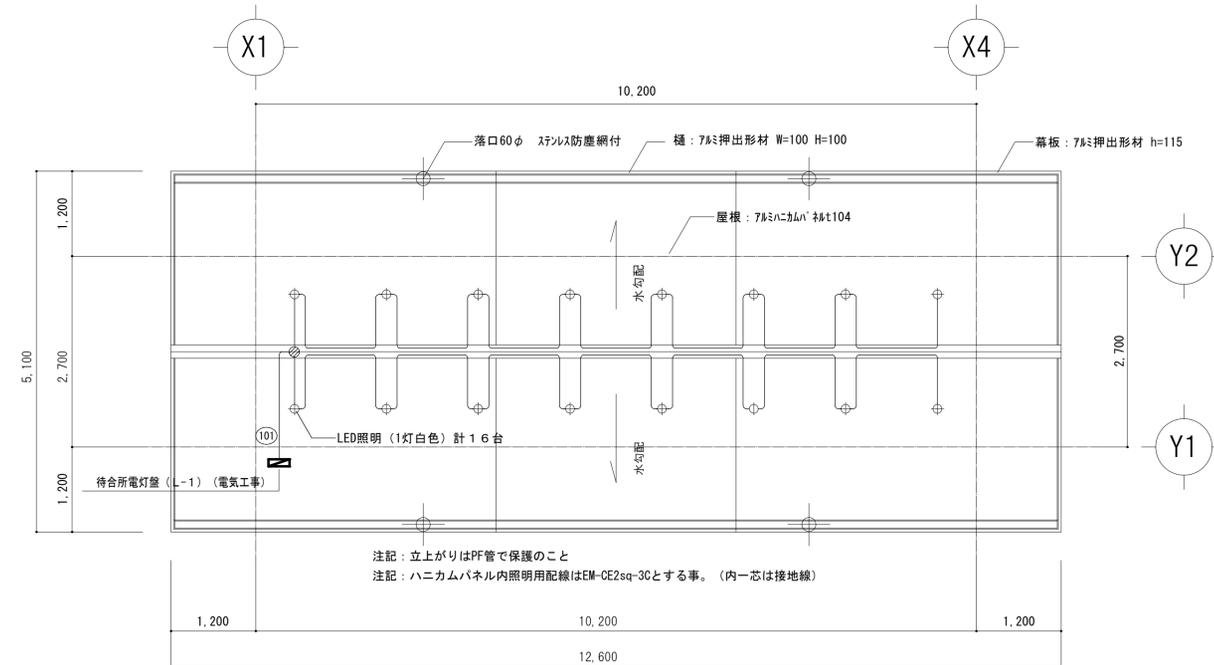
註) 衝突防止マウはステンレス製



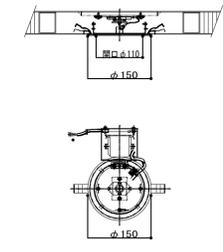
建具記号図 S=1/100

凡例・記号	
⊖	空錠
⊕	シリング錠
⊗	透明強化ガラス

特記事項	
1.	建具記入寸法は製作図を作成し納まりを検討の上、調整を行い係員の了承を得て製作のこと。
2.	7mmガラスの図中表示寸法は内法有効寸法とする。
3.	7mmガラスの貼りは協議による(フロント、面格子共)。
4.	ガラスの取付はビル用、フロント用、木製建具共全てシリング留めとする。
5.	特記なき建具金物は全てステンレス製品(SUS304)とし見本品提出の上係員の承認を得ること。
6.	ガラス用網戸はステンレス外張りとする(SUS304、はずれ防止付)。
7.	網入ガラスの木口は、防錆処理を行う。
8.	シリング錠はビル用対応品とする。
9.	
10.	



屋根伏図(屋根配線図) S:1/50



LED照明詳細図

部	品名	材質・素材厚	備考
1	枠	ステンレス鋼(t2.0)	指定色塗装
2	本体	アルミ板(t3.0)	白塗装
3	枠パッキン	シリコンスポンジ(t2)	
4	下面パネル	アクリル板(t3)	フリスムパネル
5	LED		5000K(昼白色)

照明用ケーブル	仕上外径
※ EM-CE2sq-3C	φ10.5

-アルミパネル(屋根)仕上表-

部	位	材	質	表面処理
屋根		ろう付けアルミハニカムパネル t=104 (両面板t=2.0)	LED照明付	フッ素樹脂塗装
支持金物		St L-100x100x10 L=150		溶融亜鉛めっき処理の上常温硬化形フッ素樹脂塗装
幕板		アルミ押出型材 h=115		フッ素樹脂塗装
軒樋		アルミ押出型材 w=100 h=100、防塵網付落口: アルミφ50x2.0		フッ素樹脂塗装
縦樋		アルミ φ60x2.0		フッ素樹脂塗装
棟包み		アルミ曲げ加工品		フッ素樹脂塗装
シーリング		変成シリコン系シーリング (MS-2)		軒樋・幕板

機械換気設備								
室名	床面積 ㎡	平均天井高 m	気積 m ³	換気種別	給気機による 給気量(A) m ³ /h	排気機による 排気量(A) m ³ /h	換気回数 _n (排気量/気積) 回/h	判定
バス待合所	34.79	2.657	92.4	第3種換気		75×2=150	150/92.4=1.6	1.6>0.3 OK

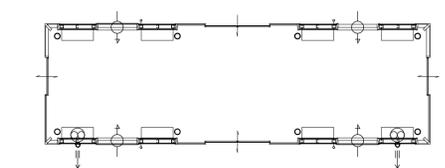
無窓居室の検討						
対象	室名	床面積 ㎡	必要開口面積 ㎡	開口の面積(AW1) ㎡		判定
換気	バス待合所	34.79	床面積×1/20	34.79×1/20 = 1.740	0.9×2.250 = 2.025 ADW2×1	2.025>1.740 OK
採光	〃	〃	床面積×1/20	34.79×1/20 = 1.740	1.1×1.905 = 2.096 AW1×1	2.096>1.740 OK
排煙	〃	〃	床面積×1/50	34.79×1/50 = 0.696		告示第1436号4-(4)

採光補正係数Aの算出
 $A = (d/h) \times \alpha - \beta$ (商業地域 $\alpha = 10, \beta = 1$)
 $= (2330/1360) \times 10 - 1$ ($d=2,330, h=1,360$)
 $= 16.132$
 $\rightarrow A=3$

凡例	
○	自然給気口 (7mmガラス換気ガラリにて)
⊗	バイブファン(壁付)24時間換気扇(排気) (MITSUBISHI V-08PLD7同等品)

註) 換気扇は電気設備工事

建築材料はJIS又はJAS規格品(室内仕上材料は、F☆☆☆☆)を使用すること

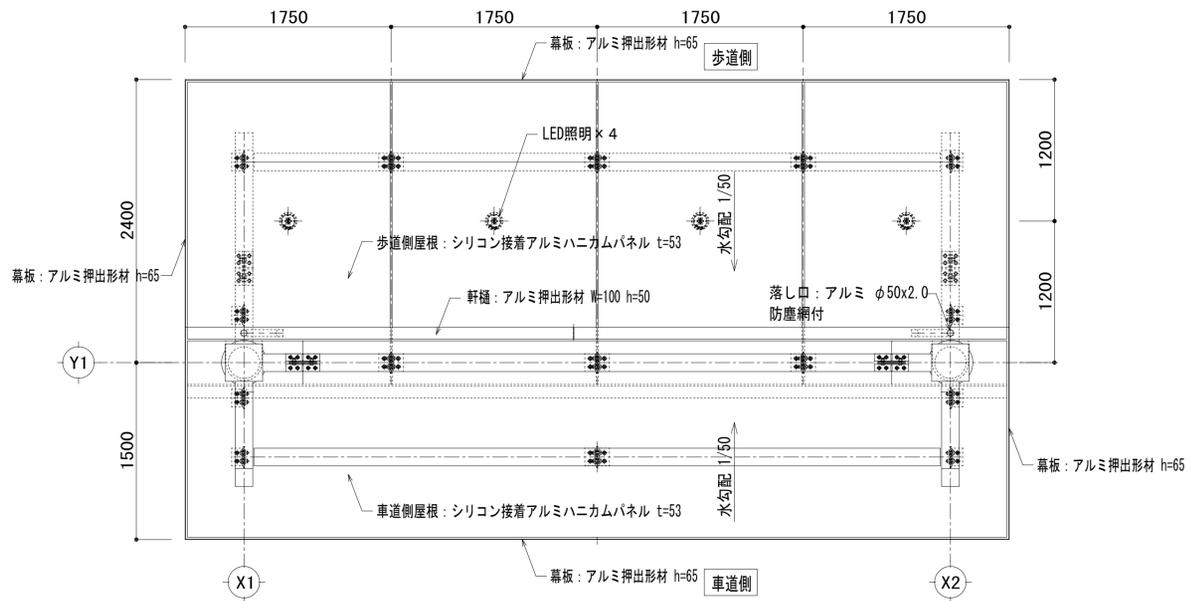


換気計画図 S=1/100

※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	バス待合所 建具表・屋根伏図・換気計算		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	W-A-14
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

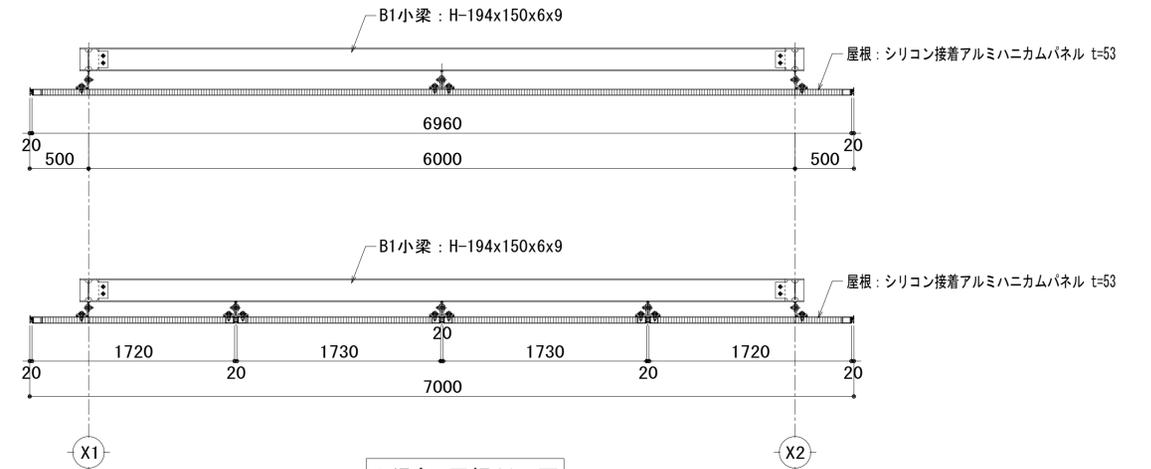
一級建築士事務所
株式会社エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 泰子
大臣登録 第221765号



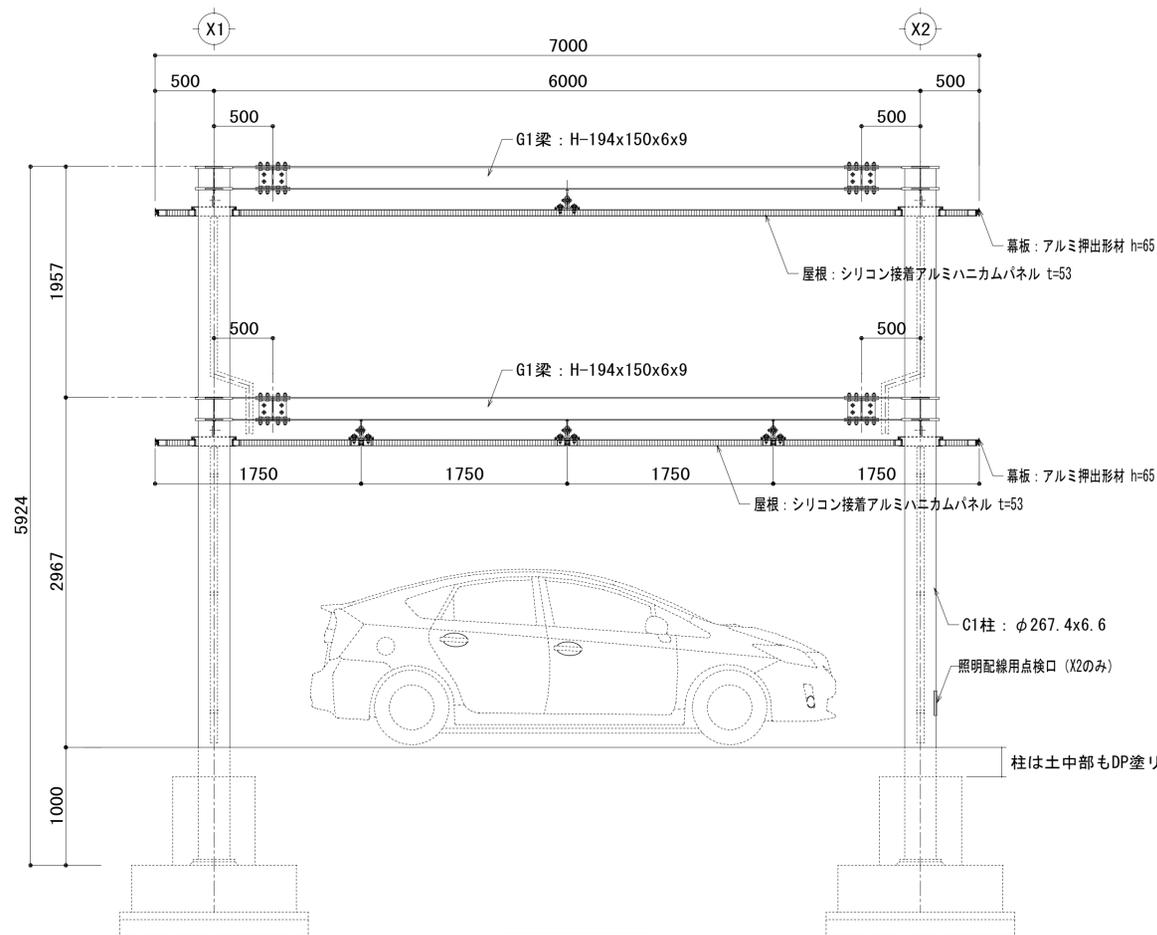
屋根伏図

-仕上表-

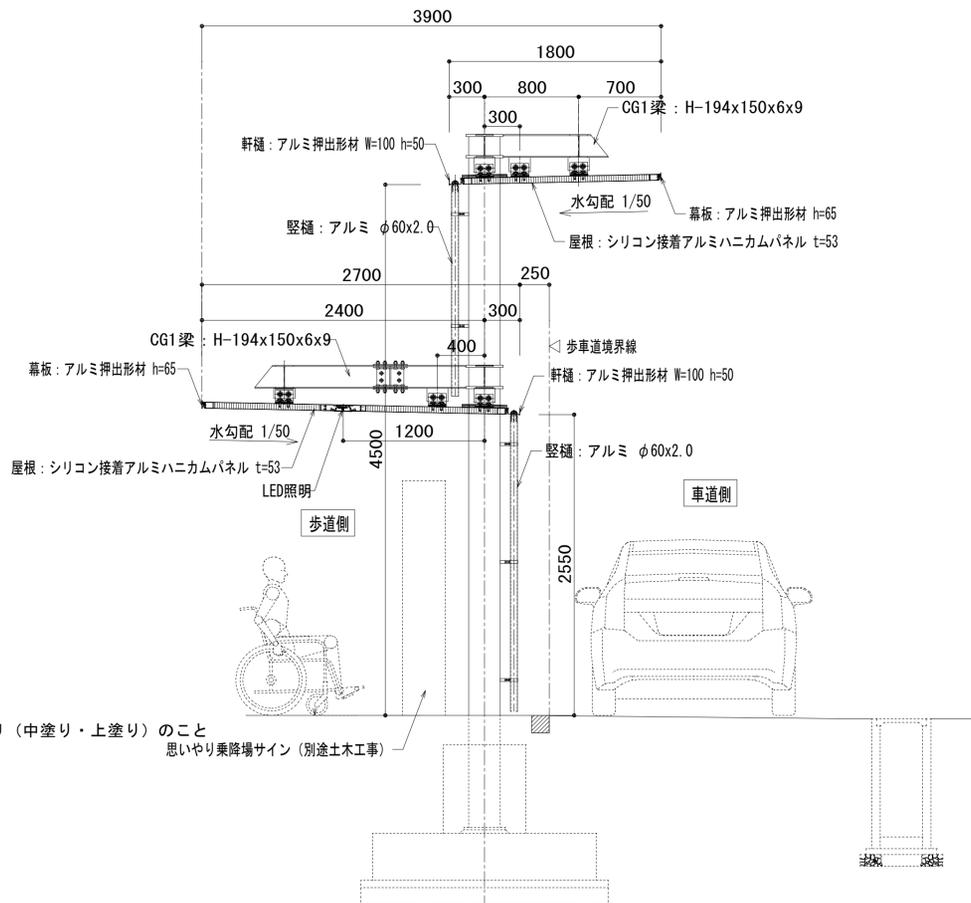
部 位	材 質	表面処理
屋根	シリコン接着アルミニウムパネル t=53 (両面板t=1.5) LED照明付	フッ素樹脂焼付塗装
支持金物	St L-100x100x10 L=150	溶融亜鉛めっき処理の常温硬化形フッ素樹脂塗装
幕板	アルミ押出形材 h=65	フッ素樹脂焼付塗装
軒樋	アルミ押出形材 w=100 h=50、防塵網付落口：アルミφ50x2.0	フッ素樹脂焼付塗装
堅樋	アルミ φ60x2.0	フッ素樹脂焼付塗装
天井面柱廻りカバー	アルミパネル t=2.0xφ370	フッ素樹脂焼付塗装
柱廻り屋根面塞ぎ	アルミパネル t=2.0	フッ素樹脂焼付塗装
柱廻り天井面塞ぎ	アルミパネル t=2.0	フッ素樹脂焼付塗装
屋根目地	シリコンガスケット	
シーリング	シリコン系シーリング (SR-2)	支持金物下
	変成シリコン系シーリング (MS-2)	上記以外



小梁部 屋根断面図



縦断面詳細図

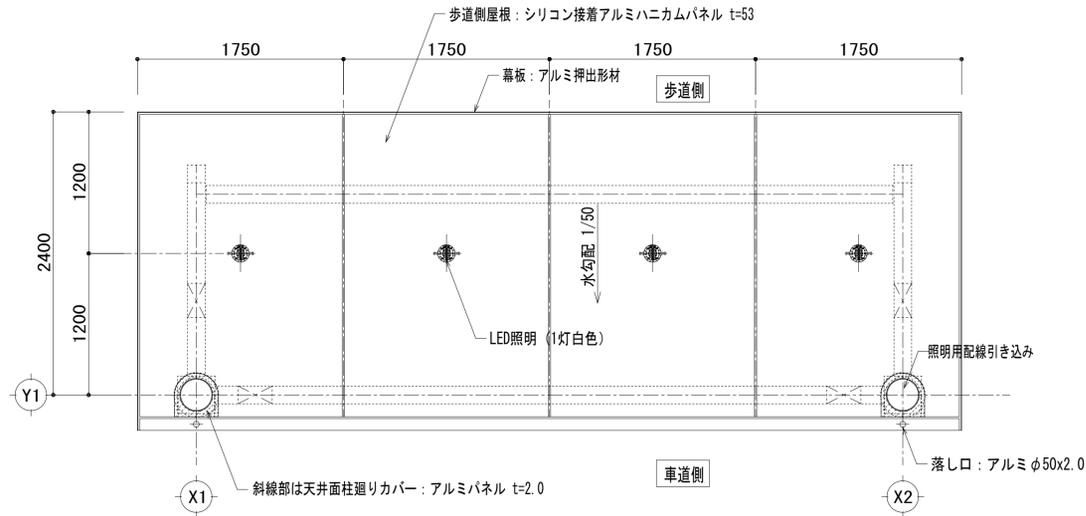


断面詳細図

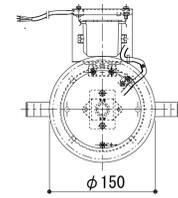
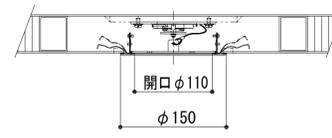
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	思いやり乗降場 シェルター詳細図		
作成年月日			
縮尺	1/30	図面番号	W-A-16
事業者名	株式会社 エイト日本技術開発	会社名	株式会社 エイト日本技術開発

一級建築士事務所
株式会社エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 泰子
大臣登録 第221765号



天井伏図



LED照明詳細図 S=1/5

定格

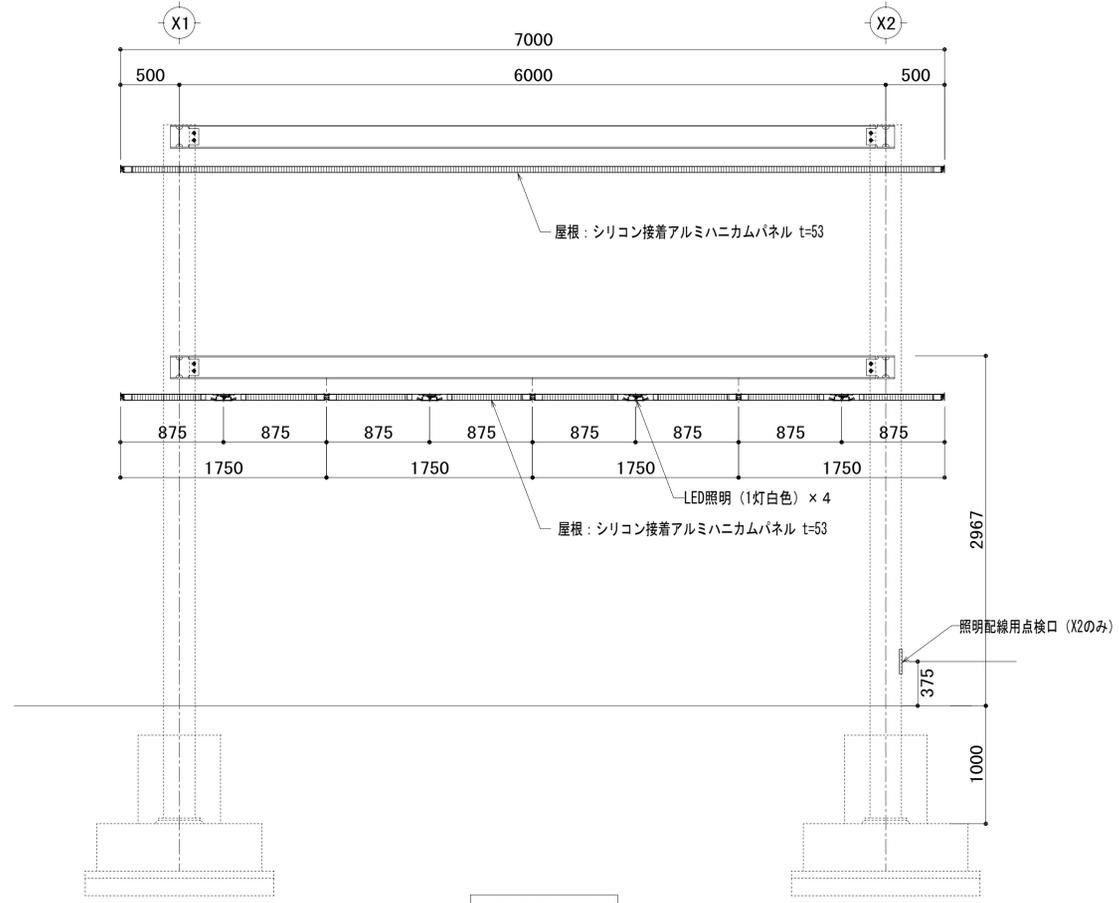
定格電圧	AC100V
周波数	50/60Hz
入力電力	6.9W
入力電流	0.075A

部番	部品名	材質・素材厚	備考
1	枠	ステンレス鋼板 (t2.0) (SUS304)	指定色塗装
2	本体	アルミ板 (t3.0)	白塗装
3	枠パッキン	シリコンスポンジ (t2)	
4	下面パネル	アクリル板 (t3)	プリズムパネル
5	LED		5000K (昼白色)

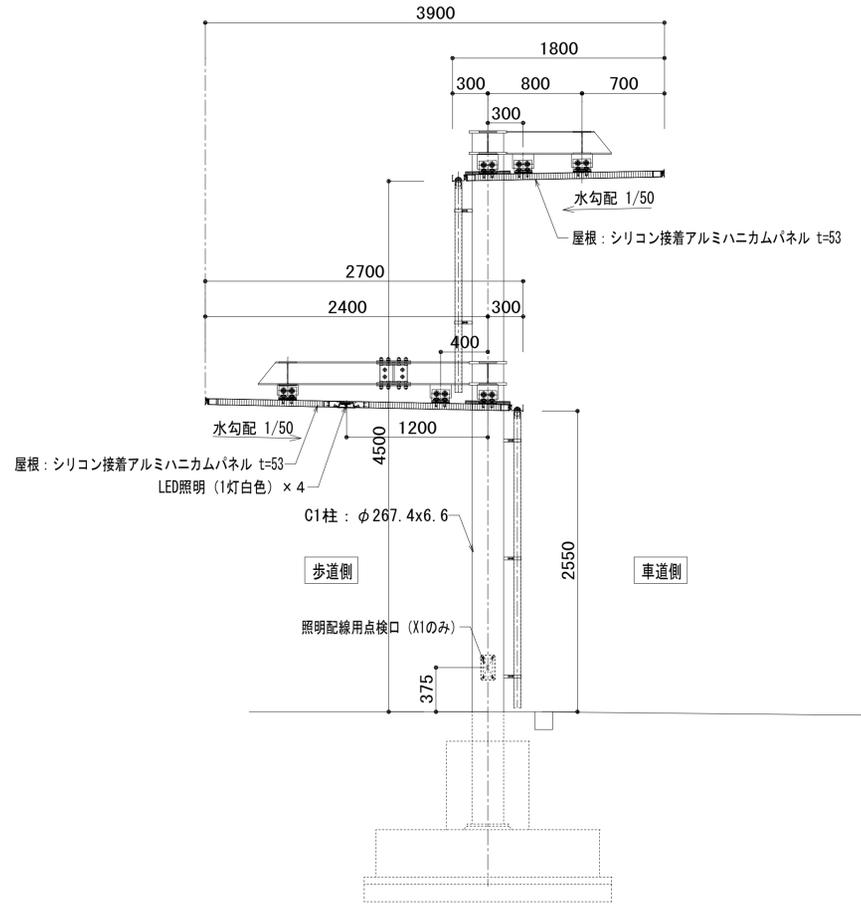
照明用ケーブル	仕上外径
※ EM-CE2sq-3C	φ10.5

※印は推奨ケーブルを示す。

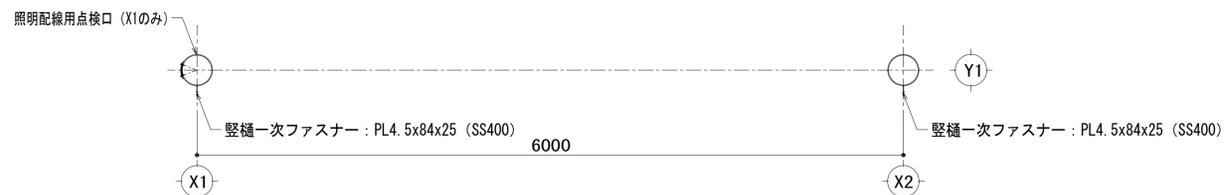
- 注1) ハニカムパネル内の照明用ケーブルは上表より選択とする。
- 注2) ハニカムパネル内の照明用ケーブルは電気工事範囲とする。
- 注3) ケーブルの仕上外径は参考寸法とする。



屋根縦断面図



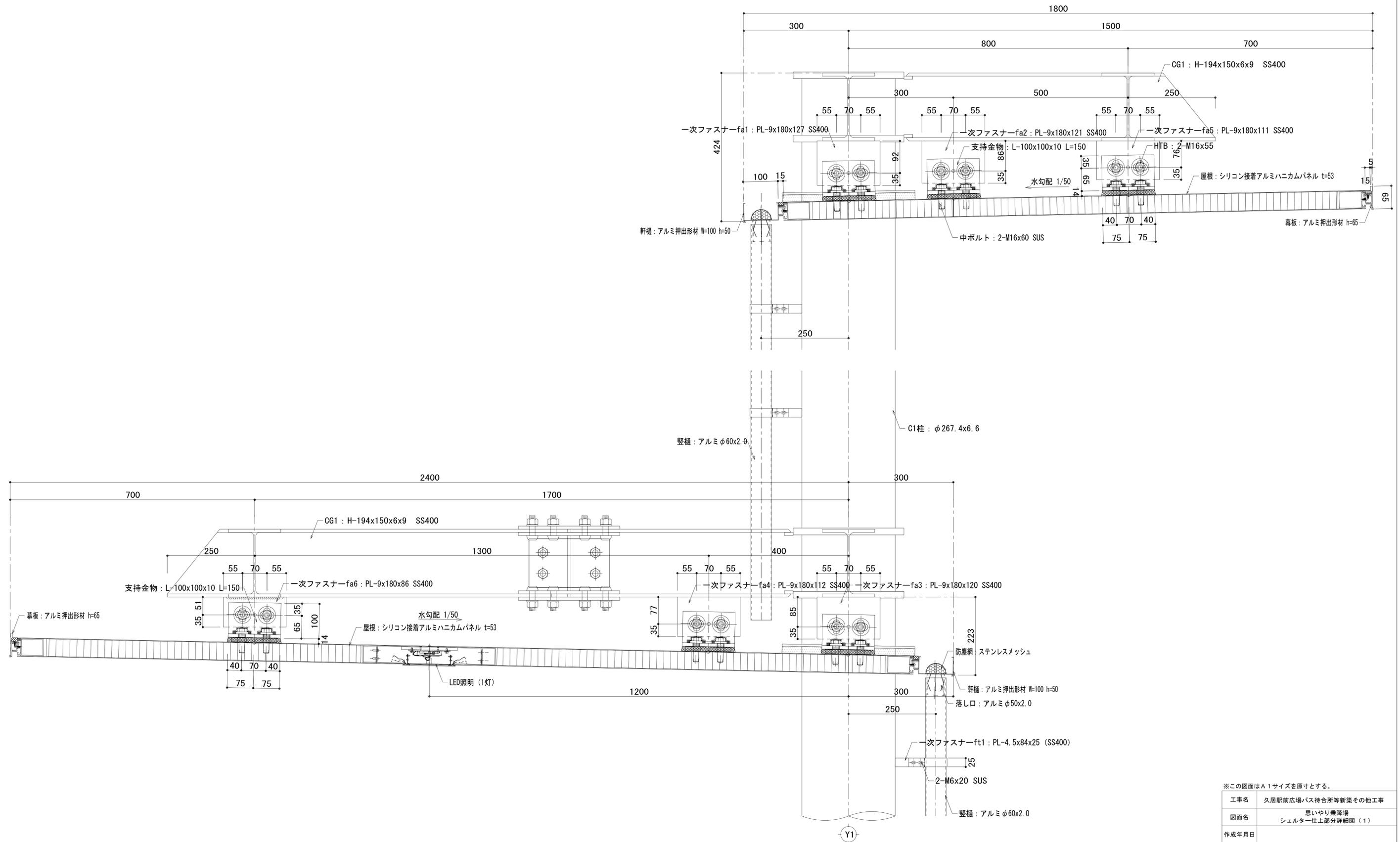
断面図



※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	思いやり乗降場シェルター 断面図・天井伏図		
作成年月日			
縮尺	1/30	図面番号	W-A-17
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

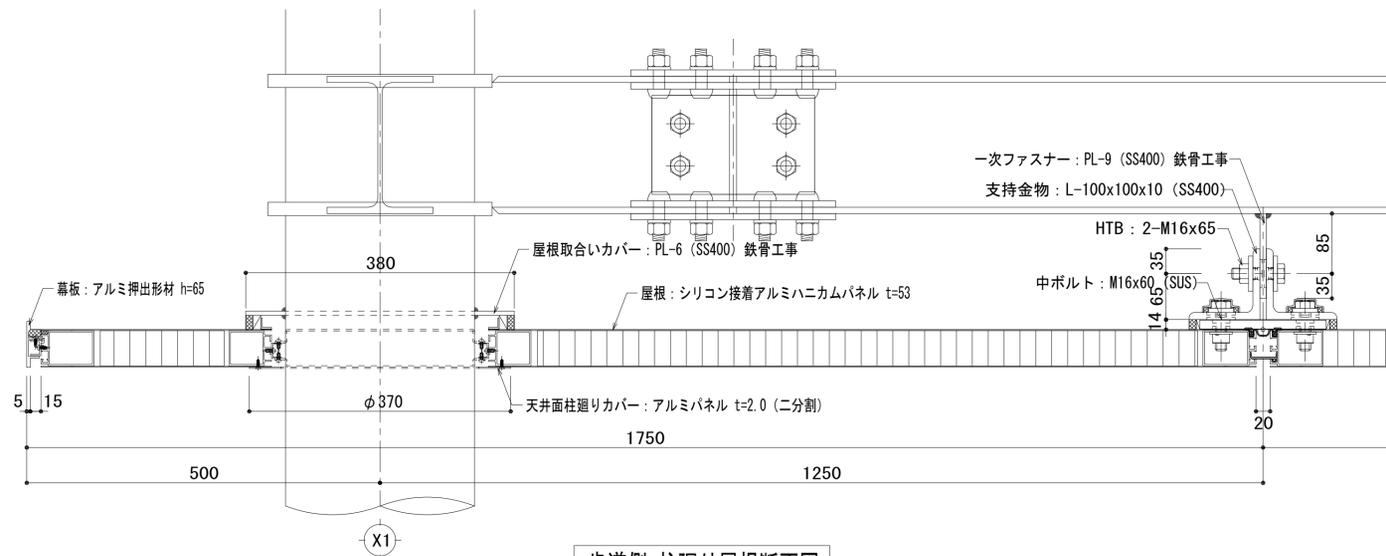
一級建築士事務所
株式会社 エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 泰子
大臣登録 第221765号



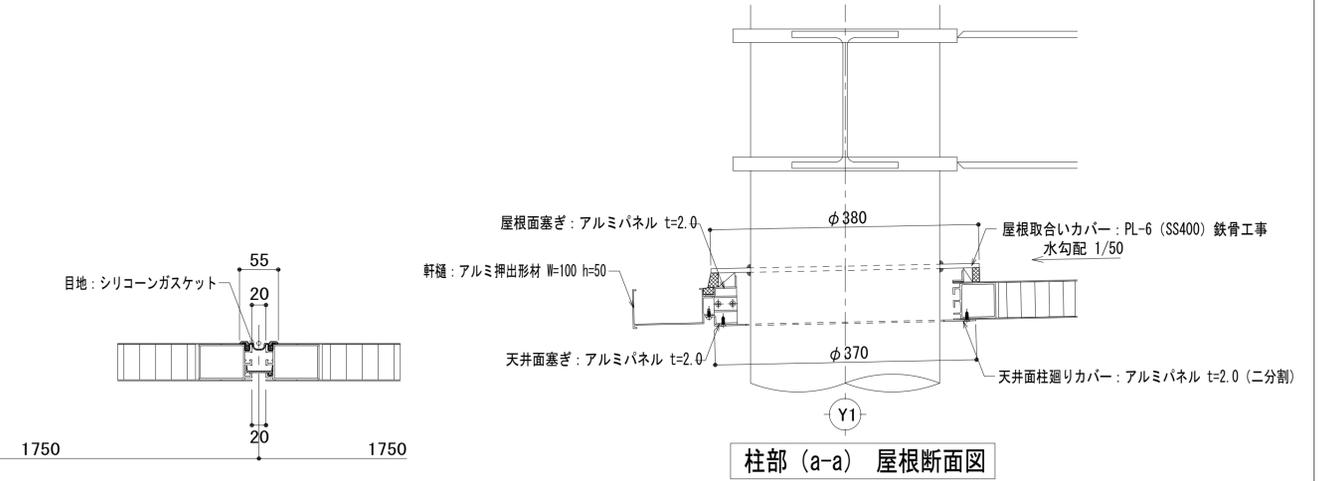
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	思いやり乗降場 シェルター仕上部分詳細図(1)		
作成年月日			
縮尺	1/5	図面番号	W-A-18
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

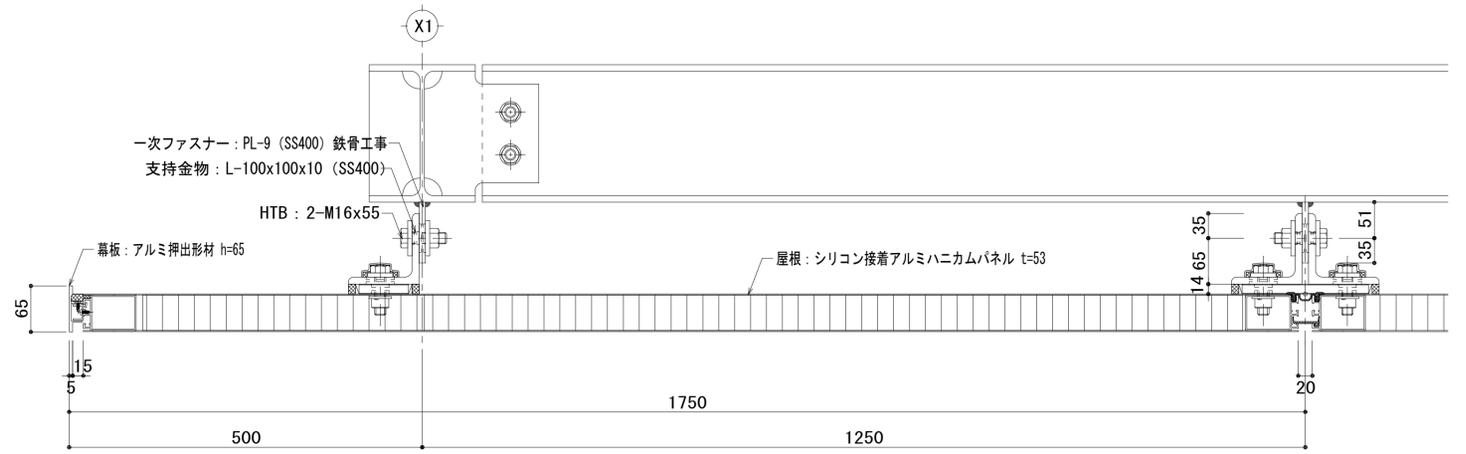
一級建築士事務所
株式会社 エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 泰子
大臣登録 第221765号



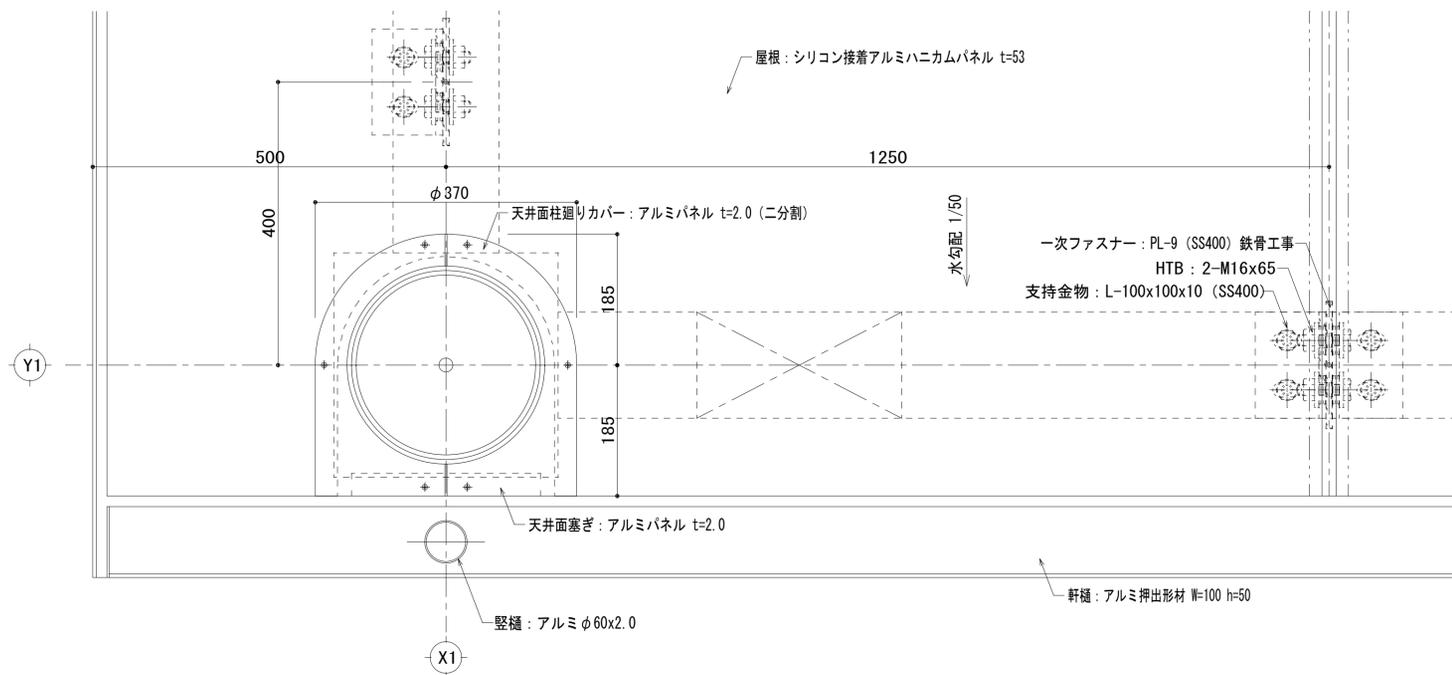
歩道側 柱廻り屋根断面図



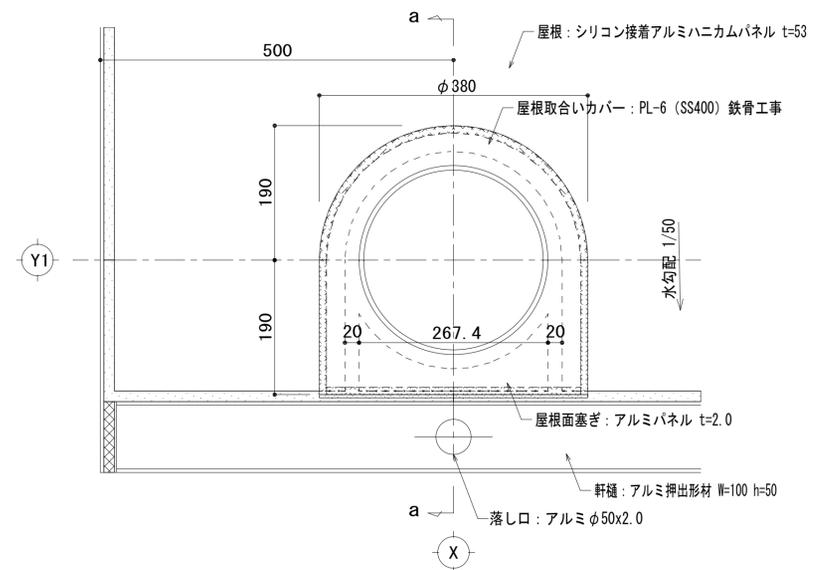
柱部 (a-a) 屋根断面図



歩道側 小梁部屋根断面図



歩道側 柱廻り天井伏図



柱廻り屋根伏図

※この図面はA1サイズを原寸とする。

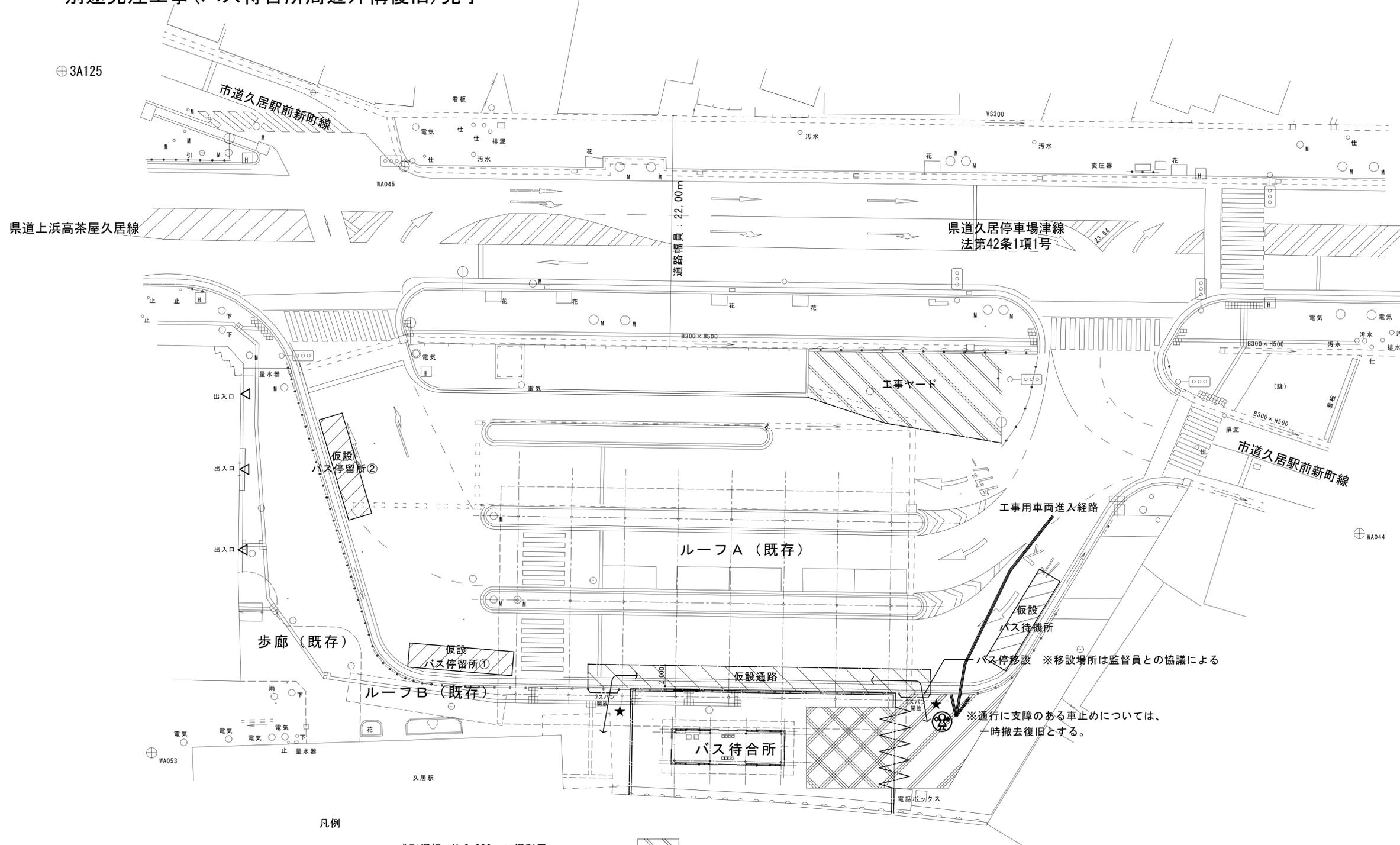
工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	思いやり乗降場 シェルター上部分詳細図 (2)		
作成年月日			
縮尺	1/5	図面番号	W-A-19
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
株式会社 エイト日本技術開発 東京支社
東京都事務録 第55520号
一級建築士 殿村 泰子
大臣登録 第221765号

第1工区

工事着手～

別途発注工事(バス待合所周辺外構復旧)完了



凡例

- ==== : 成形鋼板 H=3,000 H鋼利用
※出隅から前後1mは透明パネルとする。
- : A型バリケード
- ~~~~ : キャスターゲート W6,000、H1,800
- ⊙ : 交通誘導員 (現場施工時常時)
- ★ : 案内看板
※記載内容は、監督員と協議すること。
- [Hatched Box] : 現場事務所等 工事ヤード (工事期間中)
- [Diagonal Lines] : 鉄板+ゴムマット敷き (第1工区中)
※ブルーシート、砂敷きの上、鉄板敷きを行うこと。
- [Cross-hatched Box] : 鉄板敷き (第1工区中)
※ブルーシート、砂敷きの上、鉄板敷きを行うこと。
- [Diagonal Lines] : 市民用仮設通路 (第1工区中)

※通行に支障のある車止めについては、一時撤去復旧とする。

※移設場所は監督員との協議による

※この図面はA1サイズを原寸とする。

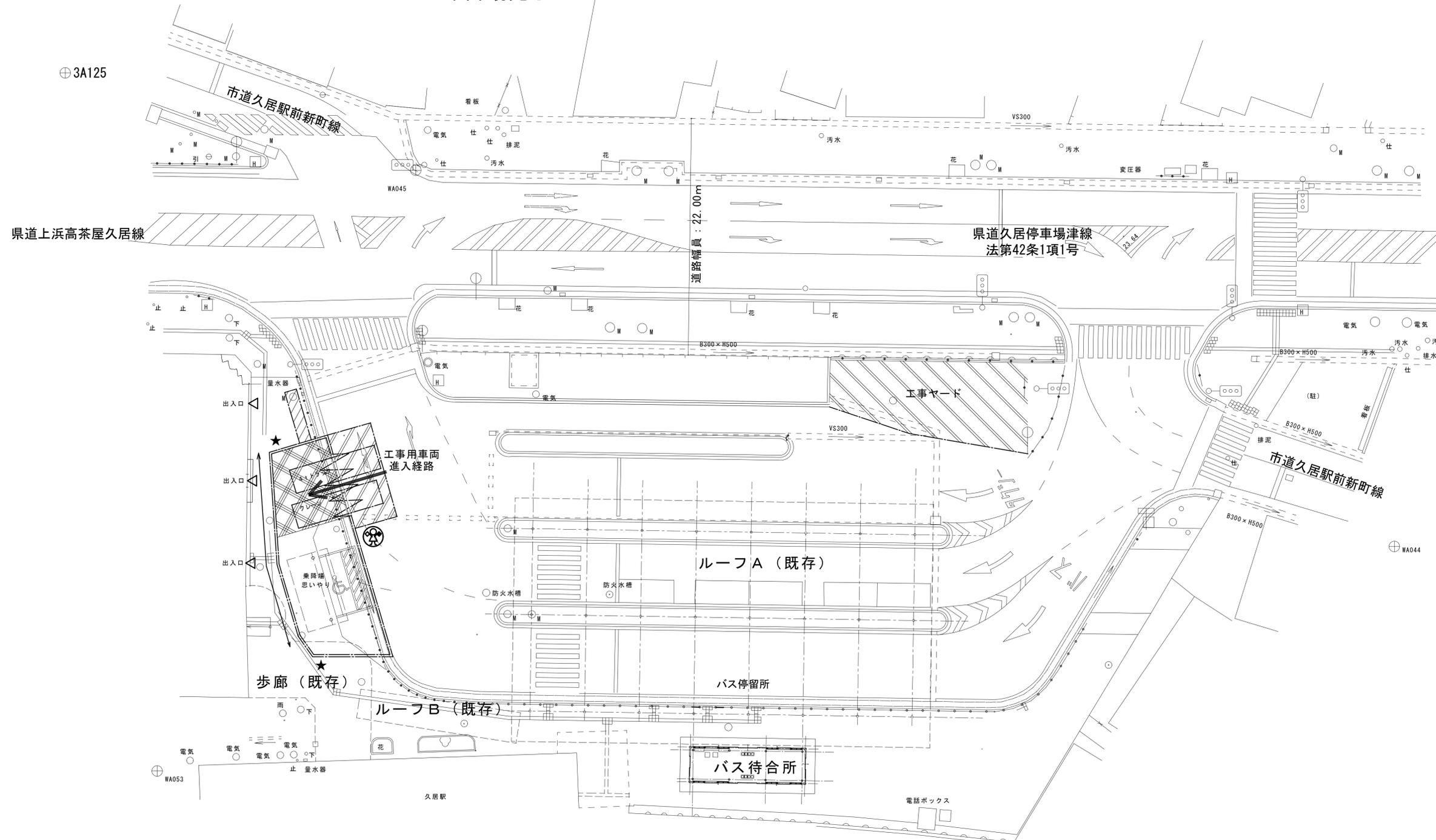
工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	第1工区仮設図(参考図)		
作成年月日			
縮尺	1/200	図面番号	W-A-20
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
株式会社エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 泰子
大臣登録 第221765号

第2工区

別途発注工事(バス待合所周辺外構復旧)完了～

乗降場完了



凡例

- : 成形鋼板 H=3,000 H鋼利用
 ※出隅から前後1mは透明パネルとする。
- : A型バリケード
- : キャスターゲート W6,000、H1,800
- ⊙
 : 交通誘導員(現場施工時常時)
- ★
 : 案内看板
 ※記載内容は、監督員と協議すること。
- : 現場事務所等 工事ヤード(工事期間中)
- : 工事車両用荷捌き所
 ※停車中は、A型バリケード等で囲むこと。
- : 部分工事範囲
 ※施工する際は、A型バリケード等で囲むこと。
- : 鉄板敷き(第2工区中)
 ※ブルーシート、砂敷きの上、鉄板敷きを行うこと。

※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	第2工区仮設図(参考図)		
作成年月日			
縮尺	1/200	図面番号	W-A-21
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
 株式会社 エイト日本技術開発 東京支社
 東京都知事登録 第55520号
 一級建築士 殿村 泰子
 大臣登録 第221765号

構造特記仕様書 2016年度版

- ### §1 一般事項
- 選択項目は○印を適用し、◎印が無い場合は*印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。
- 1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。
1-2 設計図書の優先順位は下記による。
- 1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 標準図
- ①鉄筋コンクリート構造配筋標準図 ②鉄骨工作標準図
・鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図 ・高強度せん断補強筋施工仕様書
・鉄筋コンクリート壁式標準配筋図
- 4) 仕様書 (③公共建築協会 ・日本建築協会)
5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6
- 1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。
1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に (*含む ・含まない)
1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。
1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は (*意匠図 ・構造図 *設備図) による。
1-7 その他

- ### §2 構造計算ルート
- 2-1
- | 方向 | 構造計算ルート |
|----|---------------------|
| X | ◎ルート1 ・ルート2 ・ルート3 ・ |
| Y | ◎ルート1 ・ルート2 ・ルート3 ・ |
- 2-2 鉄筋の継手
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
* 建築基準法施行令第73条(政令第73条第2項)による仕様規定
・ 日本建築学会 JASS5 (2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
・ 日本建築学会 RC規準2010
XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5 (2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2010とすることができる。

- ### §3 仮設工事、土工
- 3-1 山留め、根切り
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 * 根切り土の中の良土 ・ 搬入良土
盛土 * 根切り土の中の良土 ・ 搬入良土
残土処分 ・ 場内均し * 場外搬出処分 (* 自由 ◎指定場所)

- ### §4 地業工事
- 4-1 基礎及びスラブ下地業 (単位mm)
- | 場所 | 捨てコンクリート厚さ | ※(1) | | 厚さ |
|-------|-----------------|-----------------|-------------------|--------------------|
| | | A : 砕石 | B : 割栗石 | |
| 基礎 | 独立・布 | * 50 ◎60 * 100 | * A * B | * 60 * 100 ◎150 * |
| | ベタ | * 50 ◎60 * 100 | * A * B | * 60 ◎100 * 150 * |
| 地中梁 | * 50 ◎60 * 100 | * A * B | * 60 ◎100 * 150 * | (パス特含所F6) |
| 構造スラブ | * 50 * 60 * 100 | * A * B | * 60 ◎100 * 150 * | |
| 土間スラブ | 屋内 | * 50 * 60 * 100 | * A * B | * 60 * 100 * 150 * |
| | 屋外 | ◎50 * 60 * 100 | * A * B | * 60 * 100 * 150 * |
- 注 (1) アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
(2) 端部aは100以上とする。
- 設計地耐力 長期 60 kN/m² 短期 120 kN/m² 終局 KN/m²
地耐力載荷試験 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) * 行わない
4-3 地盤改良
・ 無筋コンクリート地業 ・ 締固め工法 ・ ソイルセメント杭
・ セメント系固化材攪拌 ・ 圧密排水工法
[・ 載荷試験 ・ 一軸圧縮試験] 行う (箇所) * 行わない
[・ 六価クロム溶出試験] 行う * 行わない
4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1) 杭種
・ PHC杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・
・ ST杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・
・ SC杭 t mm ・ ・ ・
・ PRC杭 ・ I種 ・ II種 ・ III種 ・ IV種
・ 節杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・
2) 工法
・ 打撃工法 ・ 油圧ハンマー ・ ディーゼルハンマー
・ 埋込み工法 ・ プレポーリングセメントミルク注入工法
・ プレポーリング拡大根固め工法 (認定工法)
杭周囲定液 * あり ・ なし
・ プレポーリング根固め工法 (認定工法)
杭周囲定液 * あり ・ なし
・ 中継拡大根固め工法 (認定工法)
・ 回転掘削根固め工法 (認定工法)

3) 杭径、設計耐力、本数表

杭径(括弧部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備考
()					
()					
()					
()					

- 4) 杭の構成は設計図による。
5) 杭頭補強
・ かご筋 ・ スタッド溶接 ・ 杭外周溶接
4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭
1) 工法
・ アースドリル工法 ・ 拡底アースドリル工法
・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 (・ ベント工法 ・)
・ BH工法 ・
2) 杭径、設計耐力、本数表(括弧部は施工工を示す)
- | 杭径(括弧部)mm | 管径mm | 長期kN | 短期kN | 終局kN | 本数 | 備考 |
|-----------|------|------|------|------|----|----|
| () | | | | | | |
| () | | | | | | |
| () | | | | | | |
| () | | | | | | |
| () | | | | | | |
- 3) 杭先端深さ
4) 孔壁測定 (2方向)
* 行う (・ 全数 ・ %) ・ 行わない
5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
- コンクリート Fc (・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種)
鉄筋 ・ D 以下 SD295A ・ D 以上 SD345
・ D 以上 SD390
鋼管(リブ付) ・ SKK400 ・ SKK490

- 4-6 杭打地業共通事項
1) [・ 杭長決定用先行杭 ・ 試験掘] ・ 行う (本) ・ 行わない
2) 載荷試験試験 ・ 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) * 行わない
3) SL塗布 ・ 行う * 行わない

- ### §5 鉄筋工事
- 5-1 材種
- | 種類 | 径 | 継手 |
|-------------|-------------------------------------|---------------------------|
| ◎SD295A | D 16 以下 | * 重ね継手 ・ スパイラル ・ 工場溶接 |
| ◎SD345 | D 19 以上 | * 重ね継手 * 溶接継手 ・ 機械継手(級) |
| * SD390 | D 29 以上 | * 溶接継手 ・ 機械継手(級) |
| * SD490 | D 以上 | * 溶接継手 ・ 機械継手(級) |
| ・ 溶接金網 | | ・ 重ね継手 |
| ・ 高強度せん断補強筋 | * 1275級 P
* 785級 K
685級 UD UR | ・ 重ね継手 ・ スパイラル ・ 工場溶接 |
- 溶接継手 * ガス圧接 ・ 突き合せ溶接(D16以下は重ねアーク溶接でも可)
溶接部の検査(第三者機関による) 外観検査全数
5-2 抜き取り検査
・ 引張り試験 (JISZ3120)
1 検査ロットにつき * 3本 ・ 原則 柱・梁の径毎に3本
・ 超音波探傷試験 (JISZ3062) ・ 熱間押抜き試験
1 検査ロットにつき ・ 30 箇所 ・
○ 不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数で200箇所以内
5-3 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。
5-4 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ◎①一般 ◎②地反力を受ける
・ ◎③上載荷重が大きい場合 とする。
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

- ### §6 コンクリート工事
- 6-1 設計基準強度 (N/mm²)
1) セメント * 普通ポルトランドセメントJISR5210 ・ 高炉セメントB種
・ 低熱ポルトランドセメントJISR5210 ・
2) 粗骨材 * 砂利 ・ 砕石 ・ 高炉スラグ骨材 ・ 人工軽量骨材 ・ 再生骨材
最大径(mm) ・ 20 ・ 25 ・ 40
3) 躯体(使用区分は設計図の軸組図に示す)
・ 普通コンクリート
・ Fc18 ・ Fc21 ◎Fc24 ・ Fc27 ・ Fc30 ・ Fc ・ Fc
・ 軽量コンクリート(* 1種 ・ 2種 気乾単位容積質量 * 18.5 ・)
・ LFc18 ・ LFc21 ・ LFc24 ・ LFc27 ・ LFc30 ・ LFc

- 4) 土間コンクリート ◎Fc 24 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5) 捨てコンクリート ◎Fc 18
6) 防水押さえコンクリート ・ Fc ・ LFc (気乾単位容積質量 * 18.5 ・)
7) かき上げコンクリート ・ Fc ・ LFc (気乾単位容積質量 * 18.5 ・)
6-2 混和剤 *AE減水剤 ・ 高性能AE 減水剤 ・ 躯体防水材料 ・ 膨張材
注1. 混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。
6-3
- | 箇所 | 基礎、地中梁 | 一般 | | | 備考 |
|---------------------------|--------|----|--|--|-------|
| スランプ cm | 15 | 18 | | | |
| 水セメント比 % | 50 | 50 | | | 60以下 |
| 単位水量 kg/m ³ | | | | | 185以下 |
| 単位セメント量 kg/m ³ | | | | | 270以上 |
- 6-4 試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1) 骨材 [◎塩分含有量 ◎アルカリシロカ反応性] * 行う ・ 行わない
2) フレッシュコンクリート [◎スランプ ◎空気量] * 行う ・ 行わない
3) 躯体のせき抜き外し時期決定圧縮試験 * 行う ・ 行わない
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 * 行う * 行わない
5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) * 行う * 行わない
6) 単位水量測定 * 行う ・ 行わない
6-5 調合(補正値は工事費を含む)
計画供用期間の級()は耐久設計基準強度F_d
・ 短期(18) ◎標準(24) ・ 長期(30) ・ 超長期(36)
調合管理強度 F_m=Max(F_c, F_d)+S S=3~6
材齢28日の調査強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F_d≧F_m+1.73σ F_d≧0.85F_m+3σ
6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)
- | | 基礎、梁側、柱、壁 | スラブ下 | 梁下 |
|----------------|--------------------------------|------------------------------|------|
| コンクリートの材齢による場合 | 15℃以上 3日
5℃以上 5日
0℃以上 8日 | 17日 | 28日 |
| 圧縮試験による場合 | 5N/mm ² | 0.85Fcまたは12N/mm ² | 設計強度 |
- 6-7 住宅性能表示
劣化等級 ・ 等級2 ・ 等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる場合があるので注意すること。
6-8 Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書(JASS5)による。

- ### §7 鉄骨工事
- 7-1 材種及び使用箇所
- | 規格名称 | 鋼材名 | 柱 | 通し内 | 大梁 | ブレース | 小梁 |
|------------|----------------------------|---|-----|----|------|----|
| 一般構造用圧延鋼材 | ◎SS400 | ・ | | | ◎ | ◎ |
| 溶接構造用圧延鋼材 | ・ SM400A ・ SM490A | | | | | |
| 建築構造用圧延鋼材 | ・ SM400A ・ SN400B ・ SN490B | | | | | |
| 一般構造用角形鋼管 | ・ SM400C ◎SN490C | ◎ | | | | |
| 冷間成形角形鋼管 | ・ STKR400 ・ STKR490 | | | | | |
| 熱間成形角形鋼管 | ・ SHC400B ・ SHC400C | | | | | |
| 一般構造用炭素鋼管 | ◎STK400 | ◎ | | | | |
| 一般構造用軽量形鋼管 | ・ SSC400 | | | | | |
| 建築構造用圧延棒鋼 | ・ SNR400 | | | | | |
- 7-2 高力ボルト
- | 高力ボルトの種類 | 使用箇所 |
|--------------|-----------------------|
| トルシア形高力ボルト | * S10T 全般 |
| JIS形高力ボルト | * F10T トルシア形が使用できない部分 |
| 溶融亜鉛メッキ高力ボルト | * F8T 母材が亜鉛メッキされている部分 |
| 超高力ボルト | * S14T 屋内環境 |
- 7-3 普通ボルト、アンカーボルト
1) 材質 ◎SS400 ・ SS490 (M以上)
◎ABR400 ・ ABR490 ・ ABM400 ・ ABM490(ABMはM24以上)
2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による) ・ 使用する ・ 使用しない
7-4 頭付きスタッド
- | 径 | 長さ(mm) | 使用箇所 |
|-----|------------------------|------|
| 16φ | ・ 80 * 100 * 120 * 150 | |
| 19φ | ・ 80 * 100 * 120 * 150 | |
| 22φ | ・ 100 * 120 * 150 | |
- 7-5 溶接材料
1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。
7-6 スカラップ形状 * スカラップ工法 ・ ノンスカラップ工法
7-7 継手
- | | 柱 | 梁 |
|------|----------------|----------------|
| フランジ | ・ 高力ボルト ・ 現場溶接 | * 高力ボルト ・ 現場溶接 |
| ウェブ | ・ 高力ボルト ・ 現場溶接 | * 高力ボルト ・ 現場溶接 |

- 7-8 溶接手法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を * 行う * 行わない
3) AN検定(工場・現場・代替タブ)の有資格者で、係員の承認を受けた者は技量検定付加試験を免除する。
7-9 デッキプレート (単位 mm)
1) 床用 高さ ・ 板厚 ・
2) 合成スラブ用 高さ ・ 板厚 ・
3) 型枠用 高さ ・ 板厚 ・ 形板 タイプ
4) 防錆処理 ・ プライマー ・ 亜鉛メッキ ・ Z12 ・ Z27
7-10 錆止め塗装(工場塗 * 2回 ・ 1回、現場タツアップ程度とする)
1) 素地こしらえ * ケレン ・ プラスト
2) 錆止め塗料
- | 適用 | 塗料 | 種別 | 標準膜厚 |
|-------|---|----------|----------------|
| 屋外 室内 | | | |
| * * | 鉛、クロムフリー錆び止め | JISK5674 | 30μm |
| | 一般用錆止めペイント | JISK5621 | * 1種 * 2種 35μm |
| * * | ジンクリッチプライマー | JISK5552 | * 1種 * 2種 15μm |
| * * | シアナミド鉛錆止めペイント | JISK5625 | * 1種 * 2種 35μm |
| ◎ ◎ | ジンクリッチプライマー JISK5552 構造物さび止めペイント JISK5551 | | |
- 3) 溶融亜鉛メッキ ・ 行う ・ 行わない
4) 常温亜鉛メッキ ・ 行う ・ 行わない
7-11 溶接部の検査(受入検査)は、W-A-3 特記仕様書3 7. 鉄骨工事 17. 溶接部の試験による
* 行う * 行わない
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築士、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2007」特記6「鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2008により、合格判定は7. 2. 1 疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表5「溶接箇所数の数え方」による。
7) 受入検査の抜き取り方法及び抜き取り率は以下による。
a) 工場溶接の場合
i 検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ii 抜き取り率は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
iii サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。
b) 現場溶接の場合
i 全数検査とする。
ii 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9) ずれ、食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」等を参考にする。

7-12 鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	M	(R)	J	

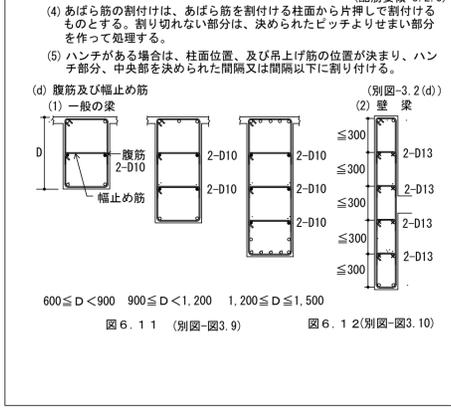
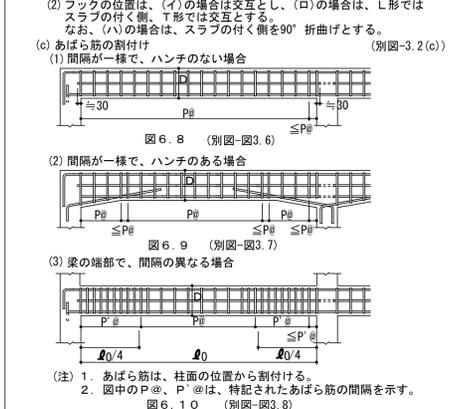
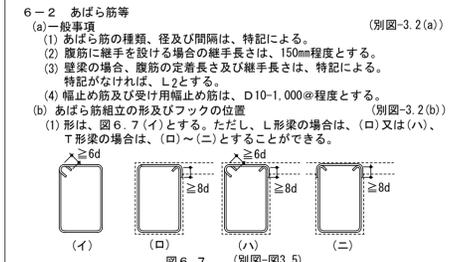
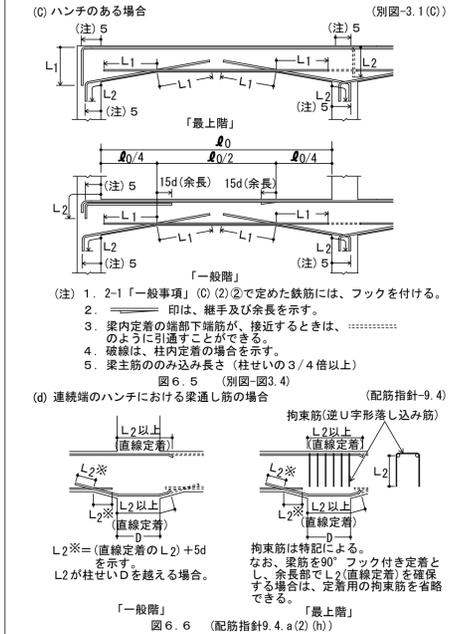
- ### §8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事
- 8-1 コンクリートブロック
1) 種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種
2) 厚さ mm ・ 100 ・ 120 ・ 150 ・ 190
8-2 ALC パネル
1) 使用箇所 ・ 床 ・ 屋根 ・ 外壁 ・ 内壁
2) 厚さ mm ・ 75 (80) ・ 100 ・ 120 ・ 150 ・ 175
3) 外壁取り付け構法
- | 方向 | 構法 | 使用箇所 | 備考 |
|----|-------------|------|----|
| 縦 | ・ スライド構法 | | |
| | ・ ロッキング構法 | | |
| 横 | ・ カバープレート構法 | | |
| | ・ ボルト止め構法 | | |
- 8-3 押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm ・ ・
- | 方向 | 構法 | 使用箇所 | 備考 |
|----|-----------|------|----|
| 縦 | ・ スライド構法 | | |
| | ・ ロッキング構法 | | |
- 8-4 PCa板
1) 床及び屋根
・ PCa板単独 厚さ mm ・
・ 合成板 ・ 屋根
- | PCa板厚さ mm | 現場打厚さ mm | 合計厚さ mm | 備考 |
|-----------|----------|---------|----|
| | | | |
- 2) 外壁 厚さ mm ・ ・

※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	構造特記仕様書		
作成年月日			
縮尺	—	図面番号	W-S-1
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
株式会社エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 蔵村 泰子
大臣登録 第221765号

A S D C一級建築士事務所
兵庫県知事登録 第01A03070号
一級建築士登録 第84796号 田中嘉之
構造設計一級建築士交付 第2678号



(別図-4.1(b))

表 8.1 壁の基準配筋 (別図-表4.1)

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W10	D10-250@ シングル	100 ↑ ↓
W12	D10-200@ シングル	120 ↑ ↓
W15A	D10-150@ シングル	150 ↑ ↓
W15B	D10-100@ シングル	150 ↑ ↓
W18A	D10-200@ ダブル	180 ↑ ↓
W18B	D10-150@ ダブル	180 ↑ ↓
W20A	D10-200@ ダブル	200 ↑ ↓
W20B	D10-150@ ダブル	200 ↑ ↓

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(c) 片持スラブ階段を受ける壁の基準配筋は、表 8.2 による (別図-4.1(c))

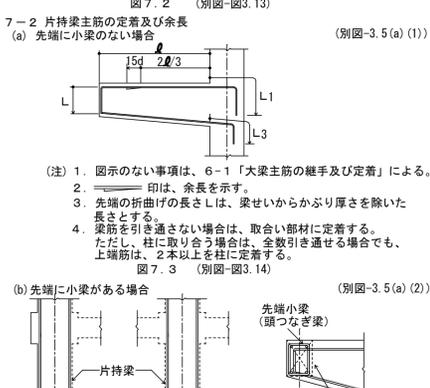
表 8.2 片持スラブ階段を受ける壁の基準配筋 (別図-表4.2)

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別 (表10.1)
KW1	縦筋 D13-200@ ダブル	180 ↑ ↓	KA 1
	横筋 D10-200@ ダブル		KA 3
KW2	縦筋 D13-150@ ダブル	200 ↑ ↓	KA 2
	横筋 D10-200@ ダブル		KA 4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(d) 壁の交差部及び端部の配筋は、図 8.2 による。 (別図-4.1(d))

図 8.2 (別図-4.2)



(別図-4.2(a)(1))

8-4 壁の補強 (別図-4.2(a)(1))

(a) 壁開口部の補強 (別図-4.2(a)(1))

(1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表 8.3、B形は表 8.4 とし、適用は特記による。特記がなければB形とする。
 なお、耐震壁の補強筋は、特記による。

表 8.3 壁開口部補強筋 (A形) (別図-表4.3)

壁の種類	縦横	補強筋	斜め
W12、W15	1-D 13	1-D 13	1-D 13
W18、W20	2-D 13	2-D 13	2-D 13

表 8.4 壁開口部補強筋 (B形) (別図-表4.4)

壁の種類	縦横	補強筋	斜め
W12、W15	2-D 13	1-D 13	1-D 13
W18、W20	4-D 13	2-D 13	2-D 13

(b) 壁開口部補強筋の定着長さ (別図-4.2(a)(2))

図 8.5 (別図-4.3)

(c) 開口部が柱及び梁に接する部分又は最大径が 300mm以下で鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(d) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

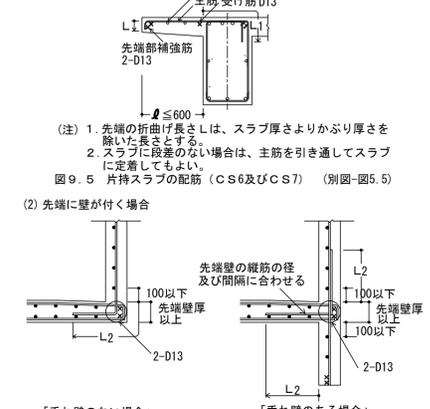
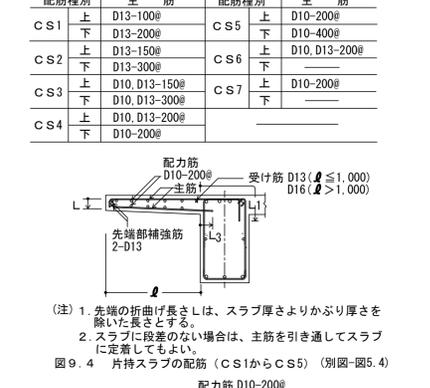
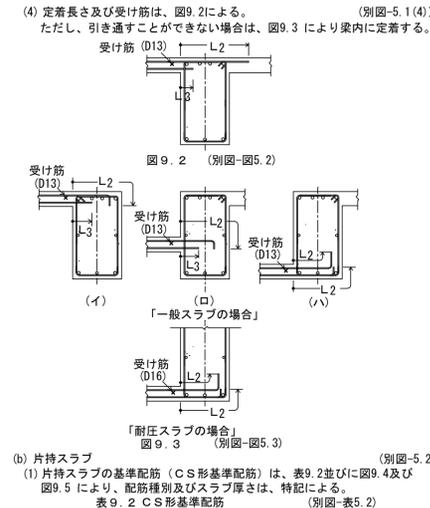
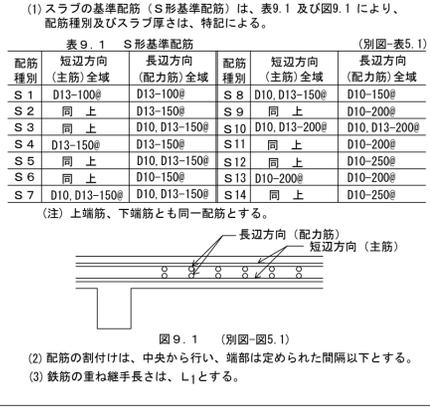
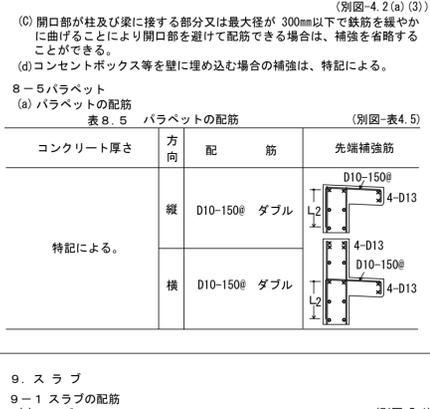
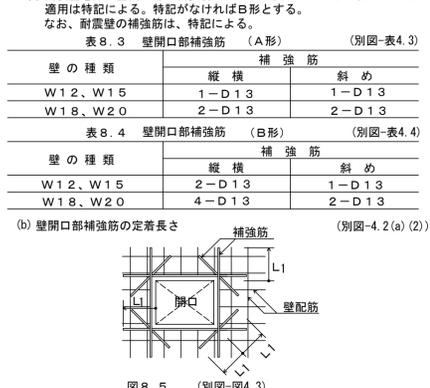
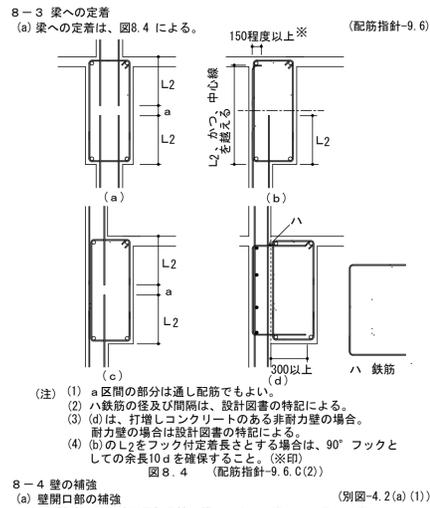
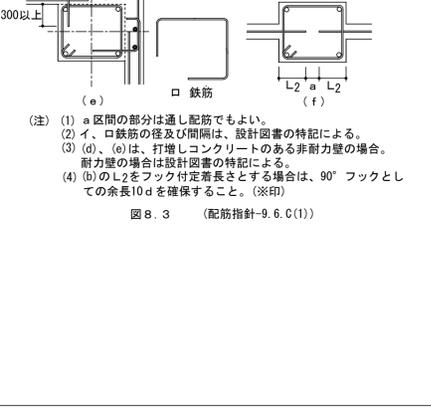
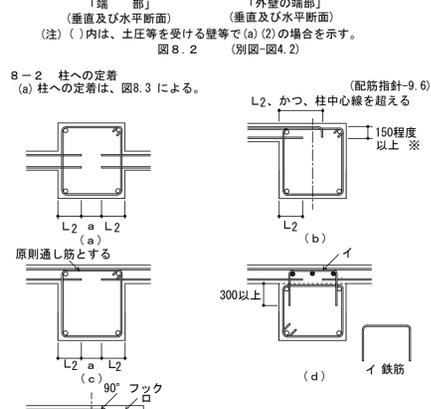
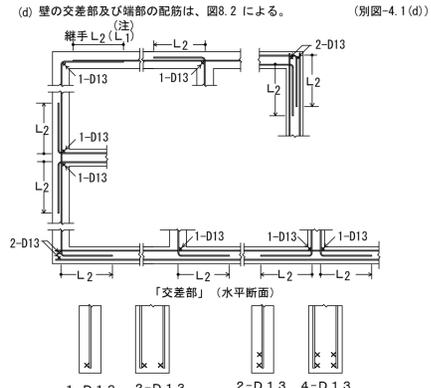
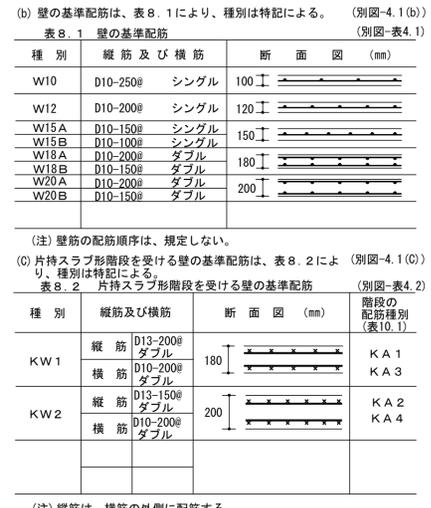
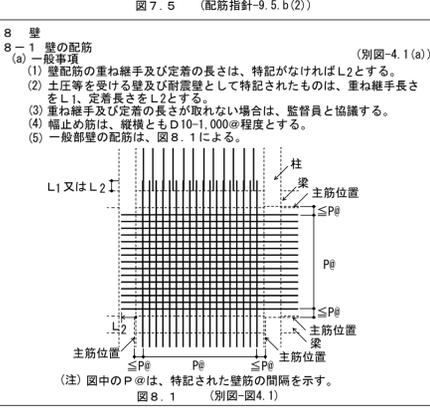
(別図-4.2(a)(3))

(別図-4.2(a)(3))

(c) 開口部が柱及び梁に接する部分又は最大径が 300mm以下で鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(d) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

(別図-4.2(a)(3))

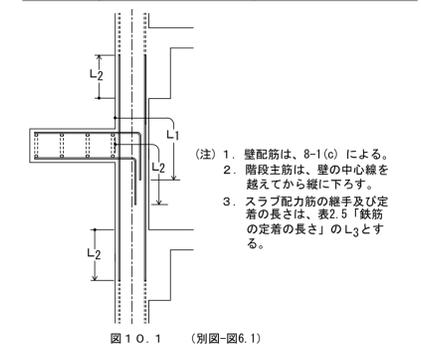


10 階段の配筋

10-1 階段

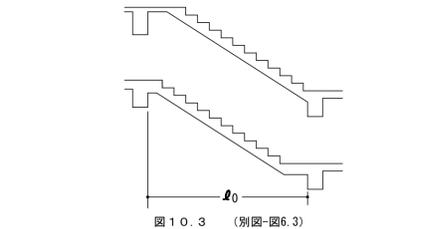
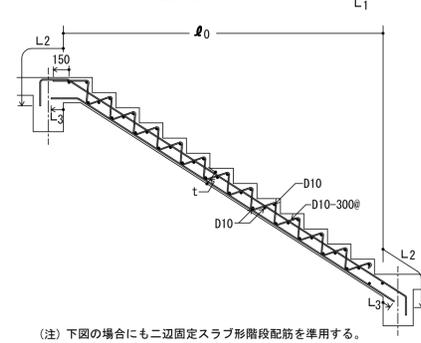
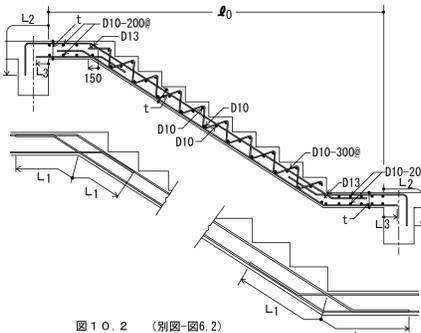
(1) 片持スラブ階段の基準配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、特記による。

配筋種別	KA 1	KA 2	KA 3	KA 4
配筋図				



(b) 二辺固定スラブ階段 (別図-表6.2)
(1) 二辺固定スラブ階段の基準配筋は、表10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、特記による。

配筋種別	スラブ厚さ t(mm)	上端筋、下端筋とも (全域)
KB 1	150	D 13-2.00@
KB 2	150	D 13-1.50@
KB 3	150	D 13-1.00@
KB 4	180	D 13, D 16-1.50@
KB 5	180	D 16-1.50@
KB 6	180	D 16-1.25@
KB 7	200	D 16-1.00@

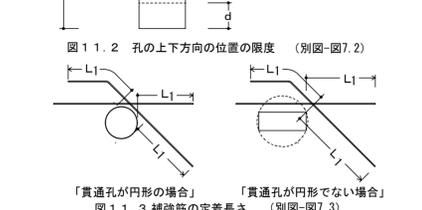
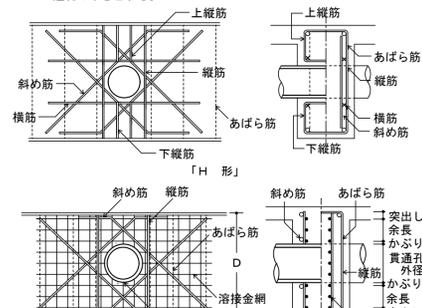


11 梁貫通孔の配筋

11-1 梁貫通孔

(a) 梁貫通孔は、次に示す。(別図-7.1(a))

- 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
- 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外径とする。
- 孔の上下方向の位置の限度は、図11.2による。
- 孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁 (小梁) の面から、原則として、1.2D (Dは梁せい) 以上とする。
- 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋に配筋する。
- 補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督員の承認を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、図11.3による。
- 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、補強を省略することができる。
- 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-3φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



(b) 梁貫通孔の補強形式は、表11.1から表11.3により、配筋 (別図-7.1(b)) 種別は特記による。

なお、既製の梁貫通孔補強筋等を使用する場合は、特記による。

11-2 H形配筋

(a) H形配筋の場合は、表11.1による。(別図-7.1(b))

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(注) ---は、一般部分のあばら筋を示す。

11-3 M形配筋

(a) M形配筋の場合は、表11.2による。(別図-7.1(b))

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13	なし	
M3	4-2-D13	2-6φ-100@	
M4	6-2-D13	2-6φ-100@	

(注) ---は、一般部分のあばら筋を示す。

11-4 MH形配筋

(a) MH形配筋の場合は、表11.3による。(別図-7.1(b))

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	なし	なし	なし	
MH2	2-2-D13	2-2-D13	なし	
MH3	2-2-D13	2-2-D13	なし	
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH5	4-2-D16	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100@	

(注) ---は、一般部分のあばら筋を示す。

11-5 配筋の表示

(a) 配筋の表示は、表11.4による。(配筋要領-付録4.4(4))

凡例	記	筋
斜め筋	4-2-D22	4本のD22が2面入ることを示す
縦筋	4-2-D13	4本のD13があばら筋に孔の両側に2本ずつ入ることを示す
上下縦筋	3-2-D13	孔の上下の部分にそれぞれD13のあばら筋が3本入ることを示す
溶接金網	2-6φ-100@	6φ-100@の溶接金網が2面入ることを示す

11-6 配筋種別選定表

(a) 配筋種別選定用せん断補強筋量 (配筋要領-付録4.4(5))

表 11.5 貫通孔補強H形 (Fc≦24N/mm²) (配筋要領-付表4.1)

梁せい cm	梁幅 cm	30			35			40			
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
50	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
60	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
60	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
60	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
75	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
75	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
75	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
90	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
90	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
90	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
105	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
105	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
105	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
110	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
110	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
110	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
120	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
120	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
120	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
120	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(注) 梁せい等が上表の中間にある場合は、補強筋の多い方を採用する。

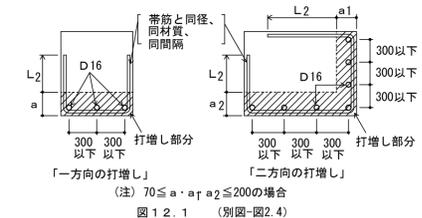
梁せい cm	梁幅 cm	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
50	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
60	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
60	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
60	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
75	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
75	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
75	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
90	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
90	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
90	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
105	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
105	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
105	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
110	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
110	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
110	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
120	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
120	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
120	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
120	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(注) 梁せい等が上表の中間にある場合は、補強筋の多い方を採用する。

12 その他の補強

12-1 柱の打増し補強

(1) 柱の打増し補強配筋は図12.1により、打増し幅が70mm以上、かつ、200mm以下の場合に適用する。200mmを超える場合は、特記による。なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

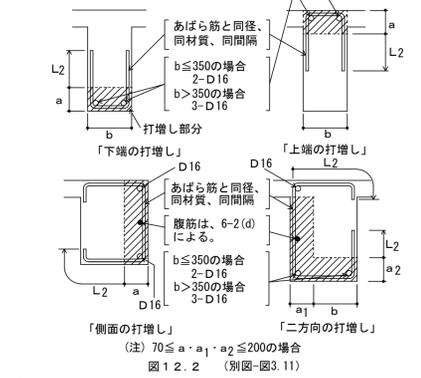


(注) ---は、一般部分のあばら筋を示す。

12-2 梁の打増し補強

(a) 打増し補強 (別図-7.3)

(1) 梁の打増し補強配筋は図12.2により、打増し幅が70mm以上、かつ、200mm以下の場合に適用する。200mmを超える場合は、特記による。なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

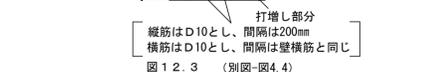


(注) ---は、一般部分のあばら筋を示す。

12-3 壁の打増し補強

(a) 打増し補強 (別図-4.2(c))

(1) 壁の打増し補強配筋は図12.3により、打増し厚さaが50mm以上、かつ、200mm以下の場合に適用する。200mmを超える場合は、特記による。



(注) ---は、一般部分のあばら筋を示す。

13 その他

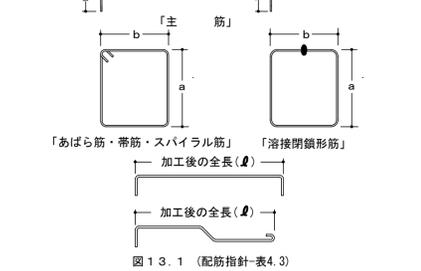
13-1 鉄筋の加工寸法

(a) 加工寸法の許容差は、特記による。特記のない場合は、表13.1による。

項目	符号	一般標準		長期
		一般標準	長期	長期
各加工寸法	主筋	D25以下	a, b ±15	±10
	副筋	D29以上D41以下	a, b ±20	±15
加工後の全長	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b ±5	±5	±5
	加工後の全長	L ±20	±15	±15

(b) 全長の測り方 (配筋指針-4.2)

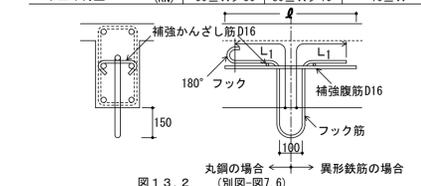
(1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方は、図13.1による。



13-2 機械吊上げ用フック

(a) 梁に設置する機械吊上げ用フックは表13.2及び図13.2により、種別は特記による。

種別	A種	B種	C種
フック筋	φ25又はφ25	φ22又はφ22	φ19又はφ19
曲げ内法直径 (mm)	100		
補強かんざし筋	2-D16		
補強腹筋 (mm)	D16, L=900	D16, L=750	D16, L=600
吊上げ荷重 (kN)	50 ≧ W > 30	30 ≧ W > 10	10 ≧ W

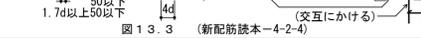


(注) ---は、一般部分のあばら筋を示す。

13-3 2段筋の間隔保持物

(a) 2段筋がある場合は、図13.3及び図13.4の押え筋により間隔を保持することが望ましい。

(1) 柱の場合 6φ (または9φ) @ 1,500



(2) 梁の場合



14 コンクリートブロック

14-1 補強コンクリートブロック造

(a) 適用範囲 (別図-8.2)

(1) この項は、建築用コンクリートブロック (以下「ブロック」という) を組立、鉄筋により補強された耐力壁による小規模な構造体 (床下等) に適用する。なお、基礎、がりよう、スラブ等については、標仕5章「鉄筋工事」及び6章「コンクリート工事」による。

(2) 材料 (別図-8.2)

(1) ブロックは JIS A 5406 (建築用コンクリートブロック) により、種類及び厚さは特記による。特記がなければ、断面形状及び圧縮強さによる区分は、空洞ブロック16とする。

(2) コンクリート (別図-8.2)

(1) 粗骨材の最大寸法は、砂利は25mm、砕石は20mmとし、充填用コンクリートの場合は、鉄筋を挿入する空洞部の最小径の1/5、かつ、砂利は20mm以下、砕石は15mm以下とする。

(2) ①以外は、標仕6章3節「コンクリートの材料」による。

(3) 鉄筋は、標仕5章2節「材料」により、種類の記号は、SD295Aとする。

(4) モルタル用材料は、標仕15.2.2「材料」による。ただし、化粧目地の砂の粗度は、標仕表15.2.1「砂の粗度」の上塗り用とする。

(5) ブロックの保管は、種類及び形状別に区分し、適切な覆いを施して雨掛けを避ける。

(c) 鉄筋の加工及び組立

(1) 一般事項 (別図-8.2(a))

① 壁筋は、原則として、ブロック中心部に配筋し、上下端は、がりよ、基礎等に定着する。なお、壁筋には継手を設けない。

② 壁筋は、壁筋に180°フックによりかぎ掛けとする。ただし、直交壁がある場合は、直交壁に定着又は直交壁の横筋に重ね継手とする。

③ 壁鉄筋のかぶり厚さの最小値は、20mmとする。ただし、ブロックフェイスは、かぶり厚さに含まない。

④ 壁鉄筋の重ね継手長さは45dとし、定着長さは40dとする。

⑤ ①から④以外は、標仕5章「鉄筋工事」による。

(2) 各部の配筋 (別図-8.2(b))

(1) 各部の配筋は特記による。特記がなければ図14.1から図14.3による。

(2) 交差部及び端部 (開口部) の配筋は、図14.1による。(別図-8.1)



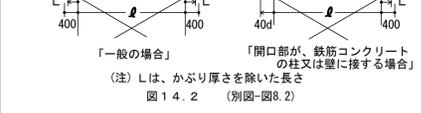
(注) dは、鉄筋の呼び名を用いた数値とする。

(3) まぐさ

① まぐさは鉄筋コンクリート造とし、配筋は特記による。(別図-8.2)

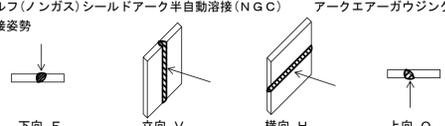
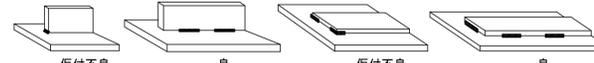
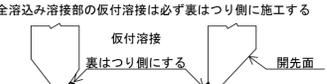
ただし、特記がなければ、図14.2及び図14.3による。

なお、既製まぐさを使用する場合は、監督員の承認を受ける。



鉄骨構造標準図 (1)

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
 (a) 構造設計特記仕様書による
 (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。但し、ベースプレート厚さは除く
 (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨寸法・精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
 (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
 (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
 (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
 (a) 本総則に使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
 (b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
 (c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。
- (4) 溶接接合
 (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
 (b) 溶接技術者
 溶接技術者は施工する溶接に適用するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
 (c) 溶接機器
 (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭素ガスアーク半自動溶接機
 (ロ) アークエアーガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
 (ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
 (d) 溶接方法
 アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
 セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアーガウジング (AAG)
 (e) 溶接姿勢

 (f) 組立溶接技術者は、原則として本工事に従事する者が行う
 (イ) 仮付位置
 組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける

 (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する

 (g) 溶接施工
 (イ) エンドタブ
 1) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
 2) エンドタブの材質は、母材と同質とする
 3) エンドタブの長さ、MC:35mm以上
 NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残して切断して、グラインダー仕上げとする

 4) プレス鋼板タブ、成形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る
 (ロ) 裏当て金
 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる
 (ハ) スカラップ半径は30~35mmと10mmのダブルアールとする。但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする

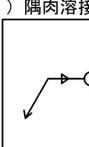
 (ニ) ノンスカラップ工法

 (ホ) 裏はつり
 規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を履行し、部材に確認マークを付ける
 (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先面を傷めない様に養生を行う
- (5) 塗装
 コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装しない

2. 溶接規準図

※修正箇所以下線を引くこと
 (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位mm)

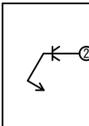
(1) 隅肉溶接



t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
 ・tはt1, t2の小さい方とする
 ・余盛は(1+0.1S)mm以下とする
 ・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所に注意)

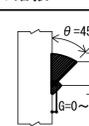


$R \leq 2$
 $t/4 \leq f \leq 10mm$
 $t \leq t1$

t	t>16mm
溶接姿勢	F.V

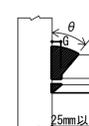
(3) 完全溶け込み溶接 (平継手 T型継手)

③ T型突合せ継手余盛



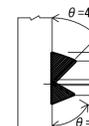
t	6<t<19mm
溶接姿勢	F.V

④ T型突合せ継手



t	6<t<19mm
溶接姿勢	F.V

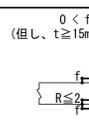
⑤ T型突合せ継手



のど厚t mm	余盛の高さmm
t ≤ 4	1
4 < t ≤ 12	2
12 < t ≤ 19	3
19 ≤ t	4

t	t ≥ 19mm
溶接姿勢	F.V

⑥ T型突合せ継手

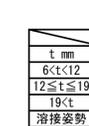


⑦ T型突合せ継手



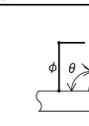
t mm	θ	MC	NGC	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≤t≤16	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19<t	35°	9	9	8	35°	9	9	8

⑧ T型突合せ継手



t mm	θ	MC	NGC	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≤t≤19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19<t	35°	9	9	8	35°	9	9	8

(4) フレアー溶接

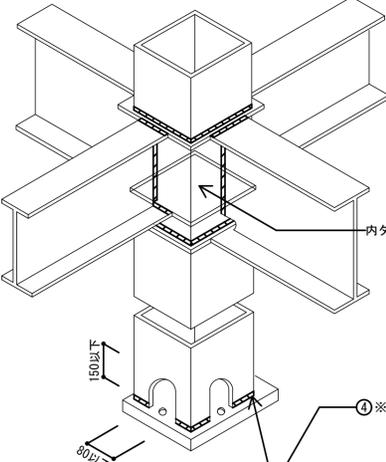


寸法 (mm)	φ	B	S
	9	7	4
	13	8	4.5
	16	9	5
	19	10	6
	22	11	7
	25	12	8

・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
 ・9mm~16mmは1バス以上、19mm以上は2バス以上とする
 溶接棒角度θは30°~40°とする

※溶接記号番号を○中に記入のこと

●BOX型 (通しダイアフラムの場合)



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②・又は③~⑤とする。

② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③~⑤とする。

③ ※ t>16 mm 場合の溶接は、④~⑥とする。

④ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑤~⑦とする。

⑤ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑥~⑧とする。

⑥ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑦~⑨とする。

⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接する事。

⑧ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑨ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑩ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑪ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑫ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑬ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑭ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑮ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑯ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑰ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑱ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑲ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

⑳ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉑ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉒ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉓ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉔ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉕ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉖ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉗ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉘ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉙ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉚ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉛ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉜ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉝ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉞ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㉟ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊱ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊲ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊳ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊴ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊵ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊶ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊷ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊸ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊹ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊺ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊻ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊼ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊽ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊾ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

㊿ ※ 柱が途中で折れる場合及 梁成が異なる場合

ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の2サイズアップ以上とする。
 <柱材料:BCR295,BCP325を使用する場合>
 ダイアフラムは、柱フランジ厚 16mm未満の場合 SN490C SN490B
 柱フランジ厚 16mm以上の場合 SN490C を使用する。

内ダイアフラム
 スカーリップ部分は
 返し溶接する

25以上かつ
 エンドタブが交互に
 当らぬこと

内ダイアフラム
 フランジが柱のRに
 接しないこと

柱が途中で折れる場合
 及 梁成が異なる場合

大梁が斜めの場合
 は溶接と添板の内側板に
 注意のこと

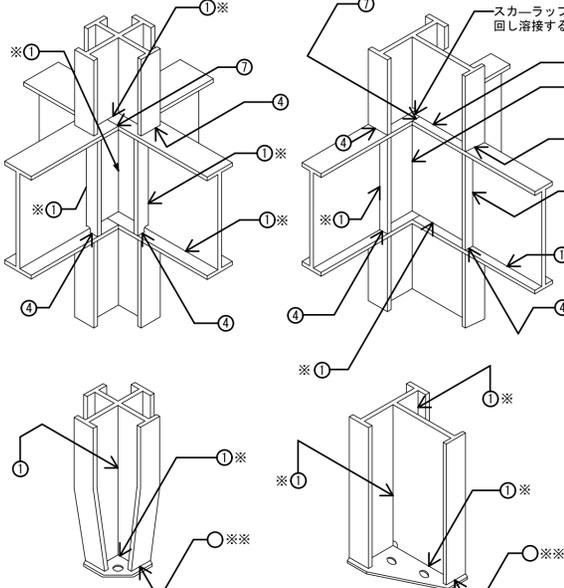
柱フランジのプレート厚
 $\theta = 75^\circ \sim 105^\circ$

●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱(KJ/cm)バス間温度(°C)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40 以下 350 以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15
	JIS Z 3315	YGW-18, 19
490N級鋼	JIS Z 3212, 3214	40 以下 350 以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15
	JIS Z 3315	YGW-18, 19

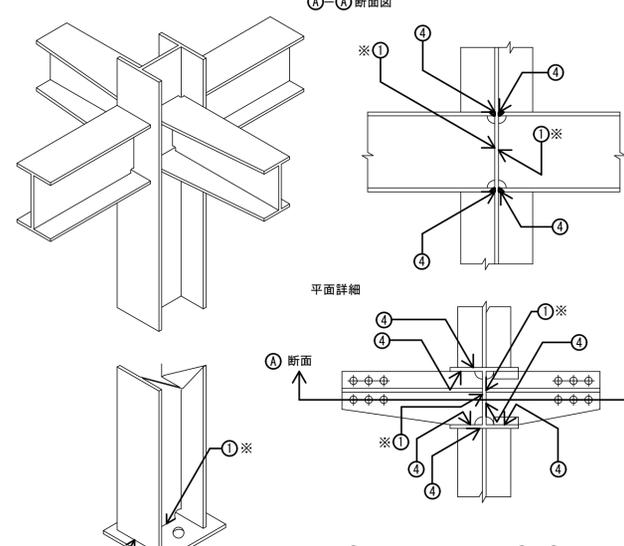
注) STKR, BCR, BCP材はJIS Z3312のみ使用可
 「構造設計特記仕様 鉄骨工事(2) 認定または登録工場」のグレード別に
 定められた適用範囲と溶接条件制限事項による

●I-H型



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②又は③~⑤とする。
 ② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③~⑤とする。
 ③ ※ t>16 mm 場合の溶接は、④~⑥とする。
 ④ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑤~⑦とする。
 ⑤ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑥~⑧とする。
 ⑥ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑦~⑨とする。
 ⑦ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑧~⑩とする。
 ⑧ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑨~⑪とする。
 ⑨ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑩~⑫とする。
 ⑩ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑪~⑬とする。
 ⑪ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑫~⑭とする。
 ⑫ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑬~⑮とする。
 ⑬ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑭~⑯とする。
 ⑭ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑯~⑰とする。
 ⑮ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑰~⑱とする。
 ⑯ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑱~⑲とする。
 ⑲ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑲~⑳とする。
 ⑳ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑳~㉑とする。
 ㉑ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉑~㉒とする。
 ㉒ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉒~㉓とする。
 ㉓ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉓~㉔とする。
 ㉔ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉔~㉕とする。
 ㉕ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉕~㉖とする。
 ㉖ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉖~㉗とする。
 ㉗ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉗~㉘とする。
 ㉘ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉘~㉙とする。
 ㉙ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉙~㉚とする。
 ㉚ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉚~㉛とする。
 ㉛ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉛~㉜とする。
 ㉜ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉜~㉝とする。
 ㉝ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉝~㉞とする。
 ㉞ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉞~㉟とする。
 ㉟ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉟~㊱とする。
 ㊱ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊱~㊲とする。
 ㊲ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊲~㊳とする。
 ㊳ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊳~㊴とする。
 ㊴ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊴~㊵とする。
 ㊵ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊵~㊶とする。
 ㊶ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊶~㊷とする。
 ㊷ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊷~㊸とする。
 ㊸ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊸~㊹とする。
 ㊹ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊹~㊺とする。
 ㊺ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊺~㊻とする。
 ㊻ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊻~㊼とする。
 ㊼ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊼~㊽とする。
 ㊽ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊽~㊾とする。
 ㊾ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊾~㊿とする。
 ㊿ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊿~㉑とする。

●B.H方式



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、③~⑤とする。
 ② ※ t>16 mm 場合の溶接は、④~⑥とする。
 ③ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑤~⑦とする。
 ④ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑥~⑧とする。
 ⑤ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑦~⑨とする。
 ⑥ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑧~⑩とする。
 ⑦ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑨~⑪とする。
 ⑧ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑩~⑫とする。
 ⑨ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑪~⑬とする。
 ⑩ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑫~⑭とする。
 ⑪ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑬~⑮とする。
 ⑫ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑭~⑯とする。
 ⑬ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑯~⑰とする。
 ⑭ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑰~⑱とする。
 ⑮ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑱~⑲とする。
 ⑯ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑲~⑳とする。
 ⑰ ※ t>16 mm 場合の溶接は、⑳~㉑とする。
 ⑱ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉑~㉒とする。
 ㉒ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉒~㉓とする。
 ㉓ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉓~㉔とする。
 ㉔ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉔~㉕とする。
 ㉕ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉕~㉖とする。
 ㉖ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉖~㉗とする。
 ㉗ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉗~㉘とする。
 ㉘ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉘~㉙とする。
 ㉙ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉙~㉚とする。
 ㉚ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉚~㉛とする。
 ㉛ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉛~㉜とする。
 ㉜ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉜~㉝とする。
 ㉝ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉝~㉞とする。
 ㉞ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉞~㉟とする。
 ㉟ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㉟~㊱とする。
 ㊱ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊱~㊲とする。
 ㊲ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊲~㊳とする。
 ㊳ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊳~㊴とする。
 ㊴ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊴~㊵とする。
 ㊵ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊵~㊶とする。
 ㊶ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊶~㊷とする。
 ㊷ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊷~㊸とする。
 ㊸ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊸~㊹とする。
 ㊹ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊹~㊺とする。
 ㊺ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊺~㊻とする。
 ㊻ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊻~㊼とする。
 ㊼ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊼~㊽とする。
 ㊽ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊽~㊾とする。
 ㊾ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊾~㊿とする。
 ㊿ ※ t>16 mm 場合の溶接は、㊿~㉑とする。

※この図面はA1サイズを原寸とする。

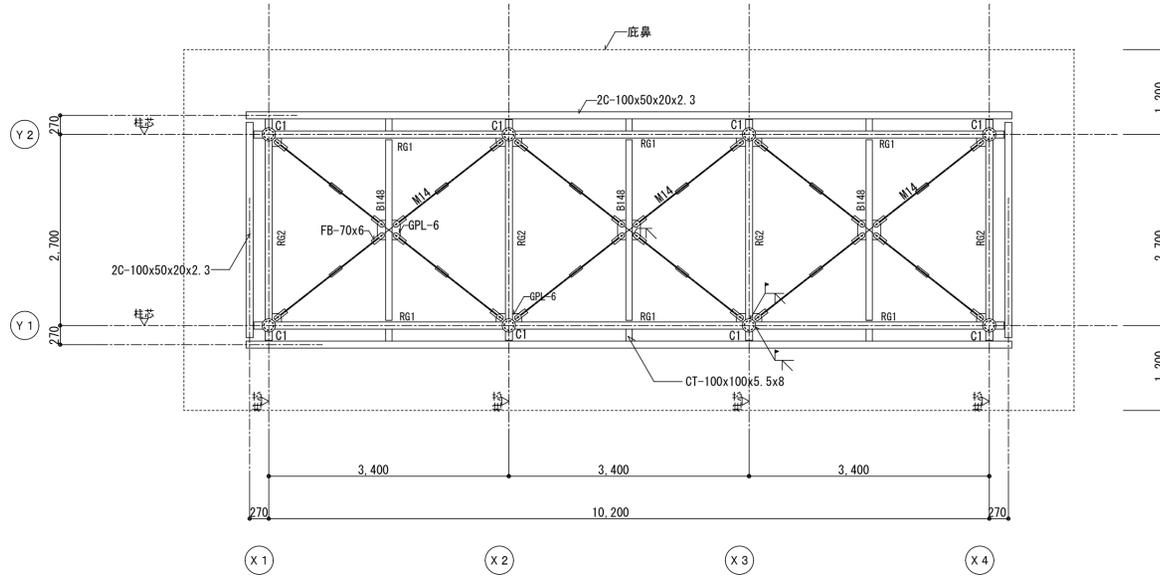
工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	鉄骨構造標準図(1)		
作成年月日			
縮尺	—	図面番号	W-S-5
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
 株式会社エイト日本技術開発 東京支社
 東京都知事登録 第55520号
 一級建築士 殿村 泰子
 大臣登録 第221765号

ASDC一級建築士事務所
 兵庫県知事登録 第01A03070号
 一級建築士登録 第04796号 田中嘉之
 構造設計一級建築士交付 第2678号

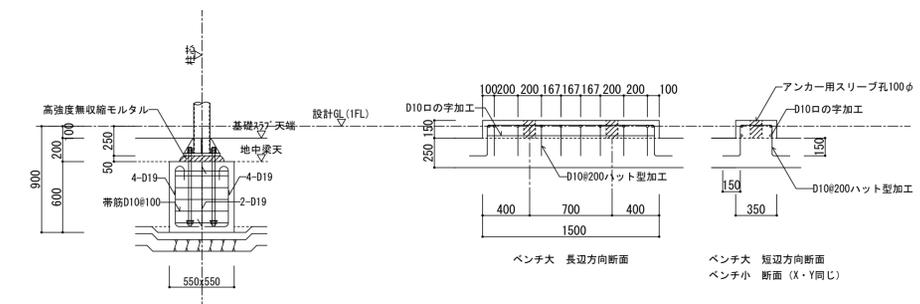
西口バス待合所 基礎伏図 小屋伏図 基礎版配筋図

使用材料 ソノ他
 コンクリート 普通コンクリート $F_c = 24 \text{ N/mm}^2$
 鉄筋 D19以上 S0345
 D16以下 S0295A
 材料は全て 規格品とする
 設計支持力
 長期設計支持力 60 KN/m²
 短期設計支持力 120 KN/m²

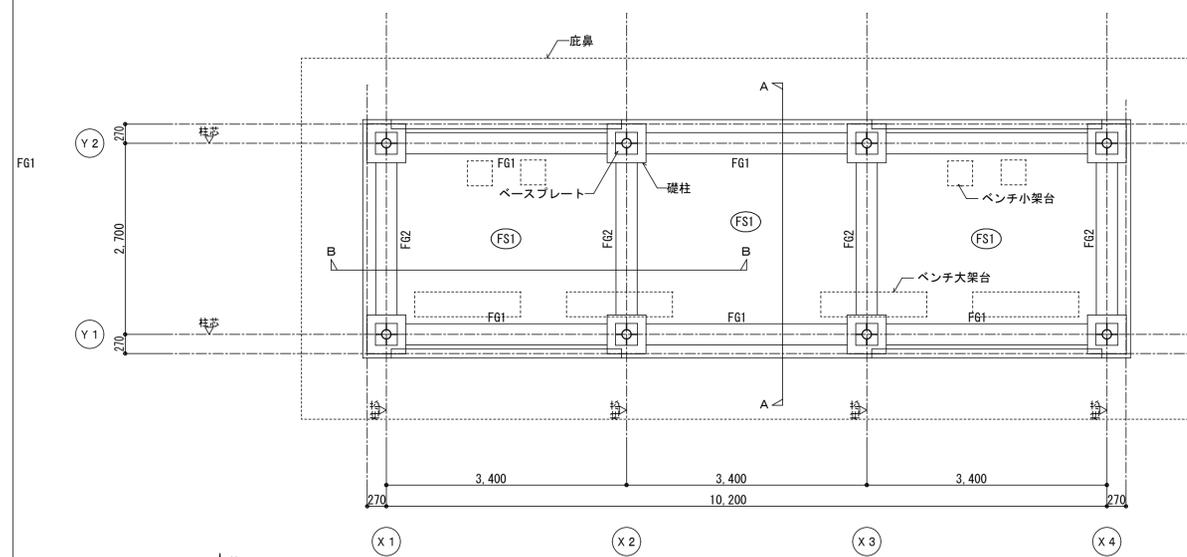


西口バス待合所 1階柱小屋伏図 S=1:50
 小屋アースタンバックルはパイプ式 (JIS G 3445)とする。

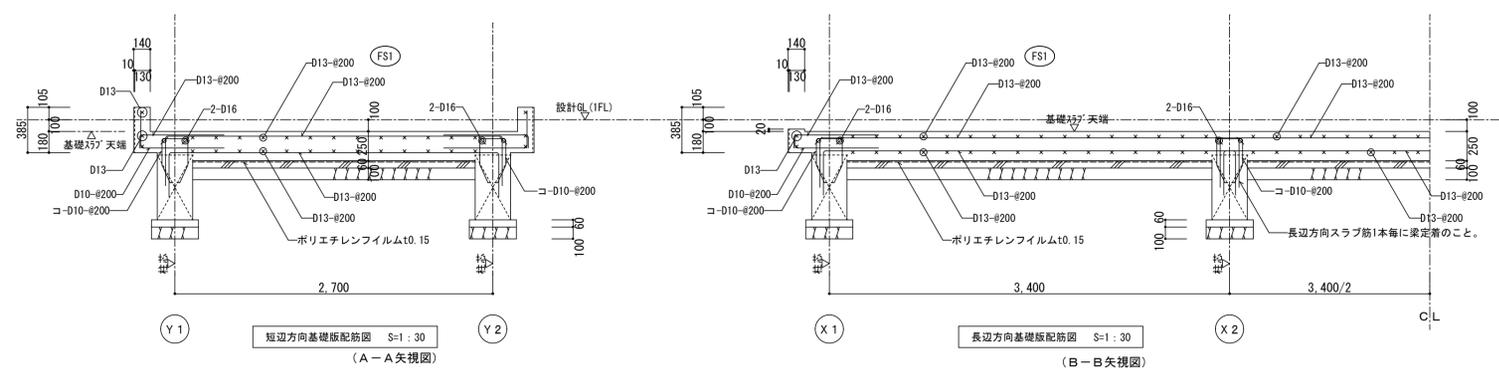
符号	版厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
			端部	中央	端部	中央	
FS1	250	上	D13-@200	←	D13-@200	←	基礎版
			D13-@200	←	D13-@200	←	



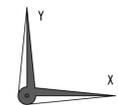
基礎柱型配筋図 S=1:30
 ベンチ大 長辺方向断面 S=1:30
 ベンチ小 短辺方向断面 (X-Y同尺) S=1:30



西口バス待合所 基礎伏図 S=1:50



短辺方向基礎版配筋図 S=1:30 (A-A矢視図)
 長辺方向基礎版配筋図 S=1:30 (B-B矢視図)

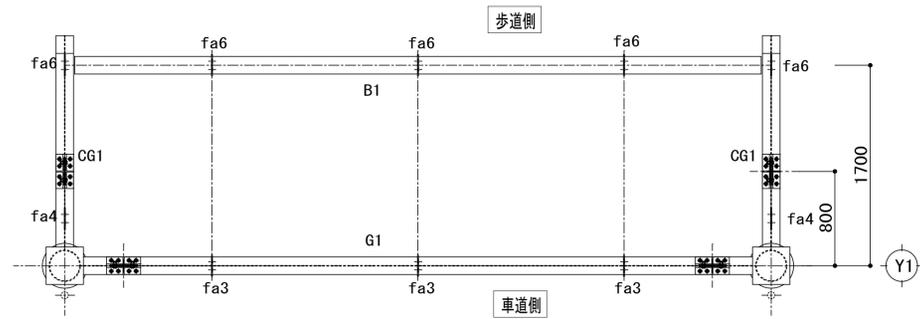


※この図面はA1サイズを原寸とする。

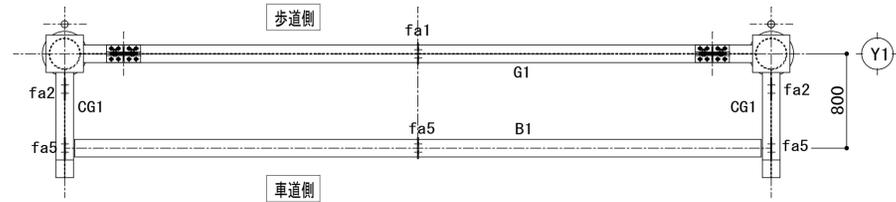
工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	西口バス待合所基礎伏図・小屋伏図・基礎版配筋図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	W-S-7
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

一級建築士事務所
 株式会社エイト日本技術開発 東京支社
 東京都知事登録 第5520号
 一級建築士 設計 桑子
 大臣登録 第221765号
 ASDC一級建築士事務所
 兵庫県知事登録 第01A03070号
 一級建築士登録 第84796号 田中嘉之
 構造設計一級建築士交付 第2678号

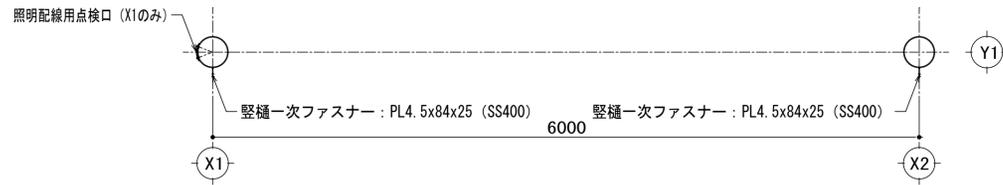
思いやり乗降場 鉄骨図（1）・基礎配筋図



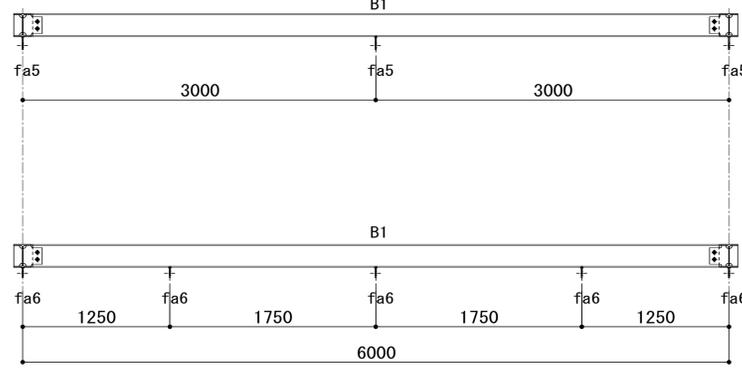
歩道側梁伏図



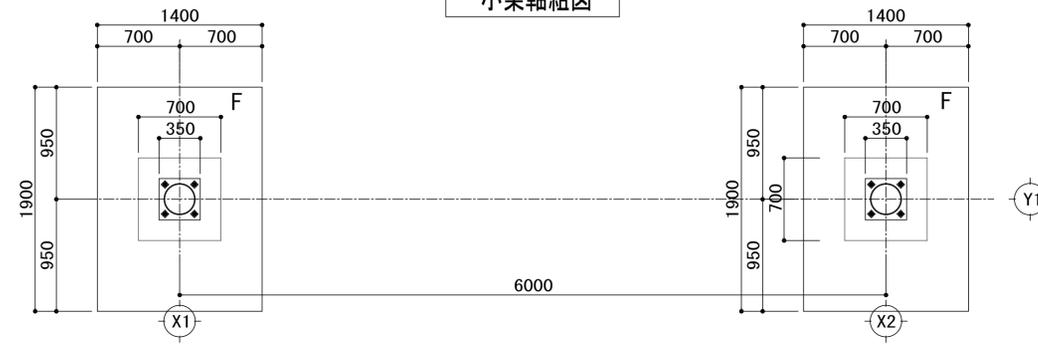
車道側梁伏図



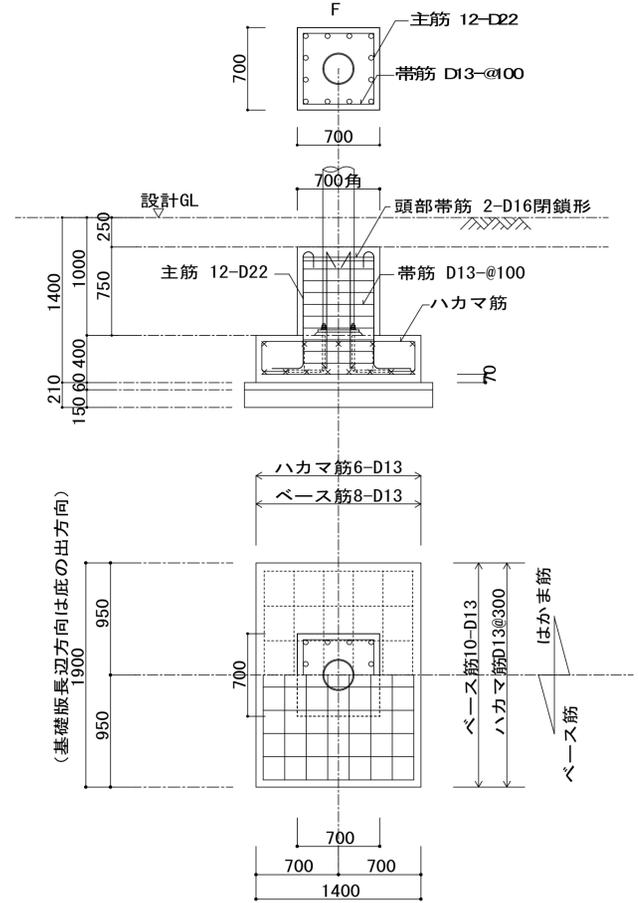
柱脚伏図・基礎伏図



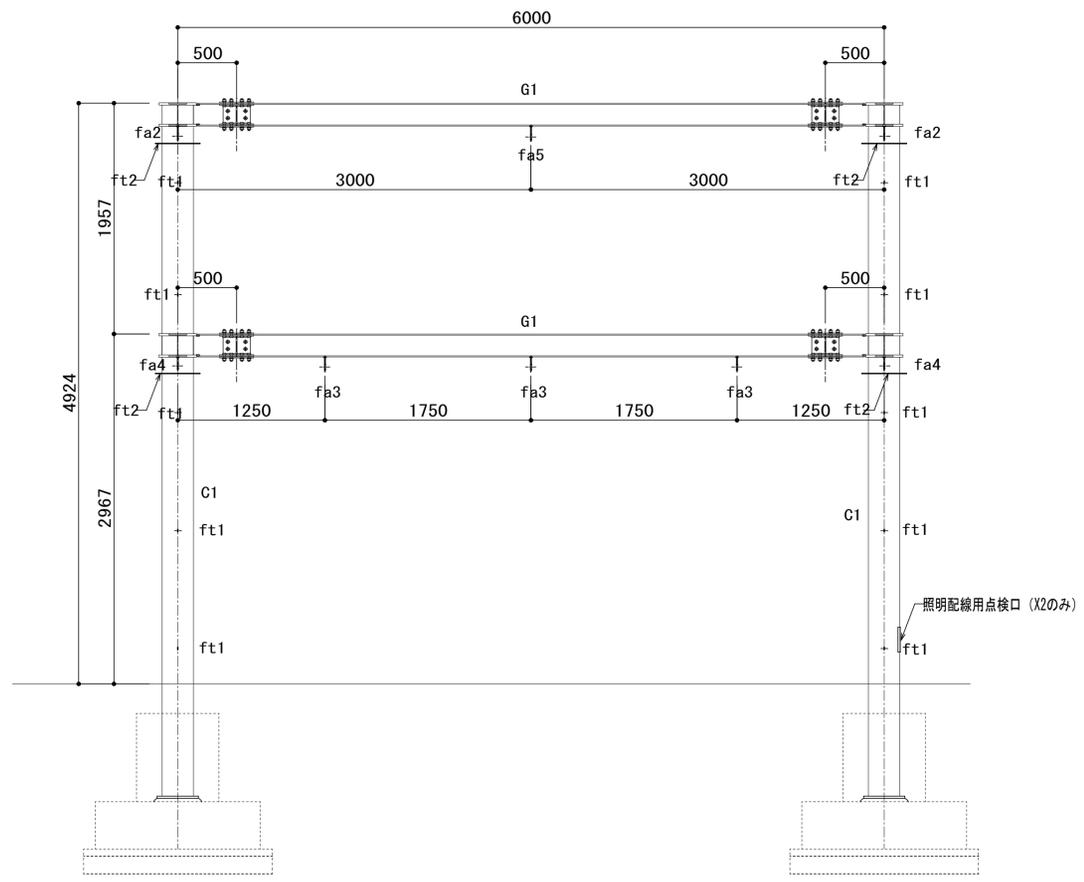
小梁軸組図



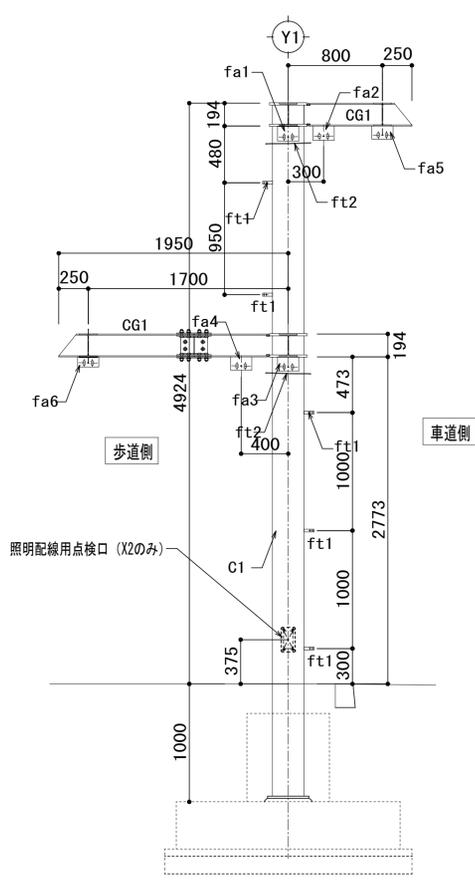
柱脚軸組図



基礎配筋図



Y1通り軸組図



X1, X2通り軸組図

*点検口はX1通り柱のみ

-部材表-			
柱 (C1)	φ267.4×6.6 STK400	fa1	PL-9x180x127 SS400
大梁 (G1)	H-194×150×6×9 SS400	fa2	PL-9x180x121 SS400
片持ち梁 (CG1)	H-194×150×6×9 SS400	fa3	PL-9x180x120 SS400
小梁 (B1)	H-194×150×6×9 SS400	fa4	PL-9x180x112 SS400
		fa5	PL-9x180x111 SS400
		fa6	PL-9x180x86 SS400
		ft1	PL-4.5x84x25 SS400
		ft2	PL-φ380x6.0 SS400
鉄骨仕上塗装	耐候性塗料塗り (DP) 1級常温硬化形フッ素樹脂塗装		
鉄骨錆止塗装	素地ごしらえB種+ジンクリッチプライマー2種+構造物用さび止めペイントA種2回塗		
備考			

一級建築士事務所
株式会社エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 泰子
大臣登録 第221765号

ASDC一級建築士事務所
兵庫県知事登録 第01A83070号
一級建築士登録 第84796号 田中真之
構造設計一級建築士交付 第2678号

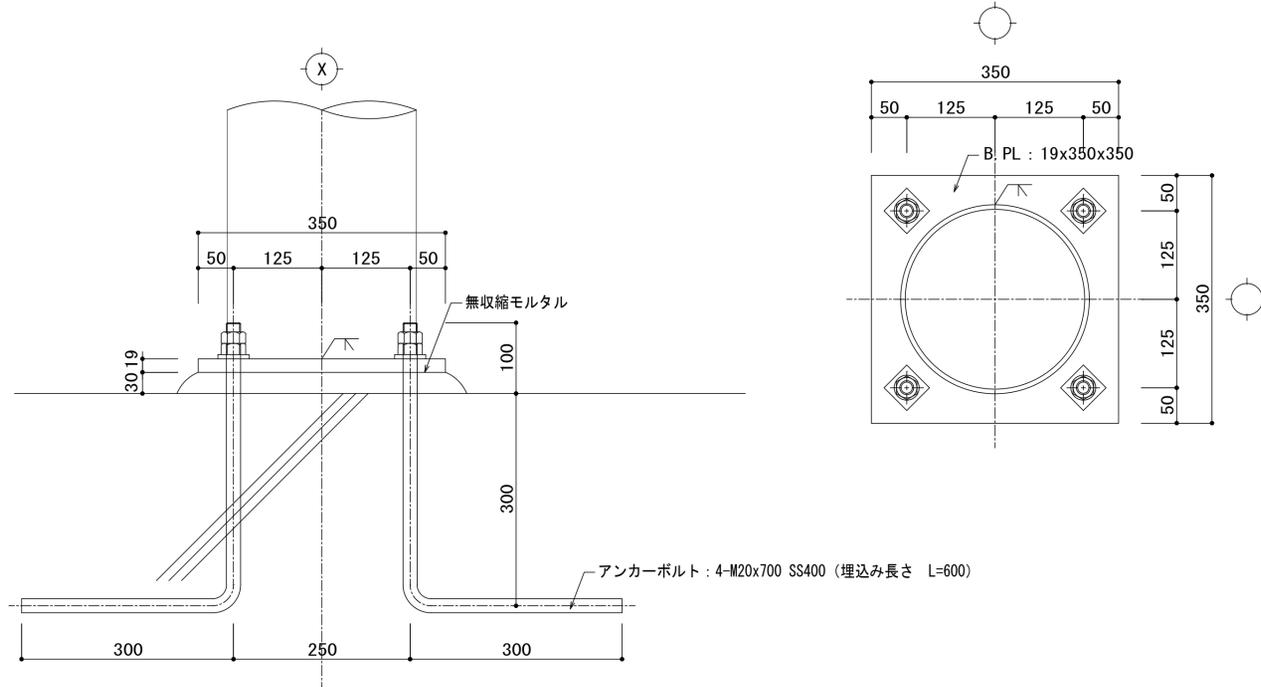
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事		
図面名	思いやり乗降場 鉄骨図（1）・基礎配筋図		
作成年月日			
縮尺	1:30	図面番号	W-S-9
会社名	株式会社 エイト日本技術開発		
事業者名			

思いやり乗降場 鉄骨図 (2)

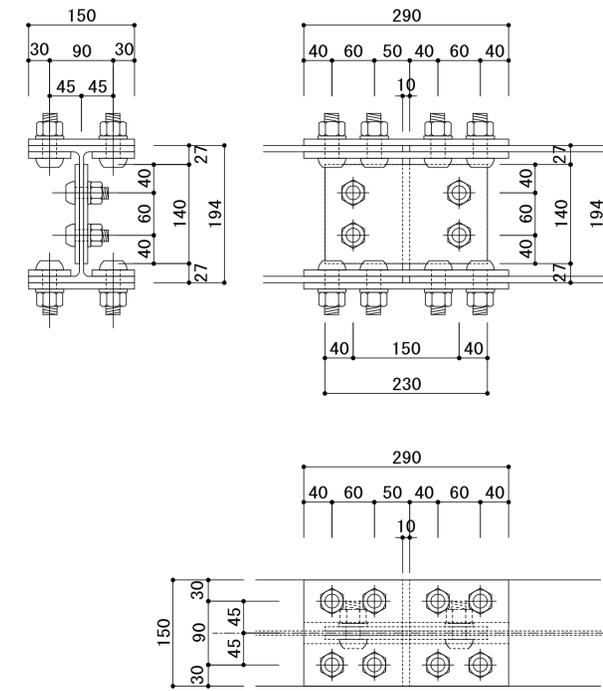
C1柱 φ-267.4x6.6 STK400

アンカーボルト : 4-M20x700 SS400 (埋込み長さ L=600)
B. PL-19x350x350 SN490C

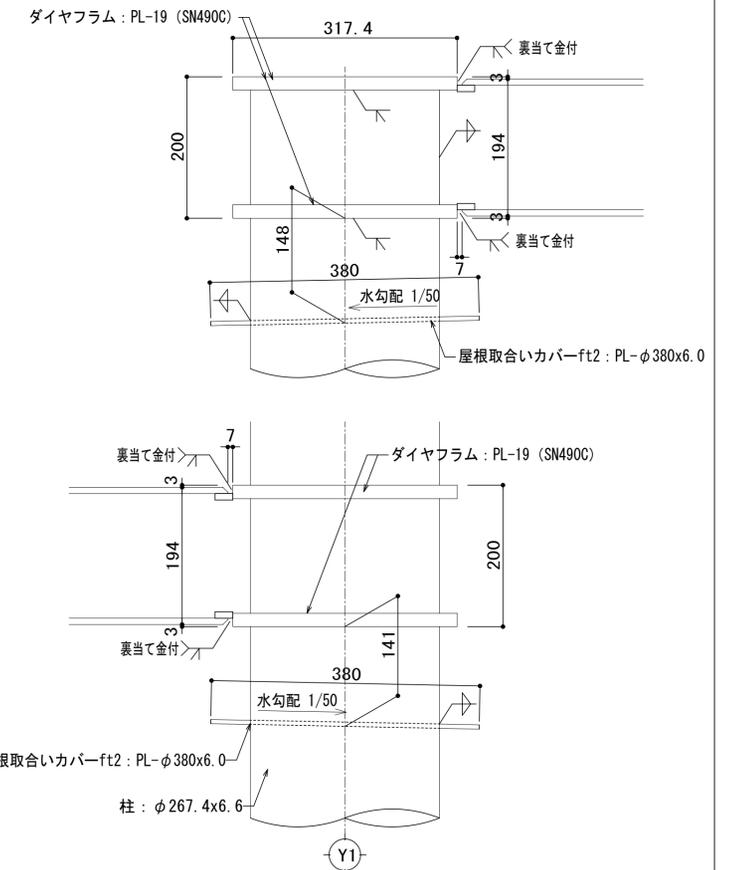


添接板 H-194x150x6x9 SS400

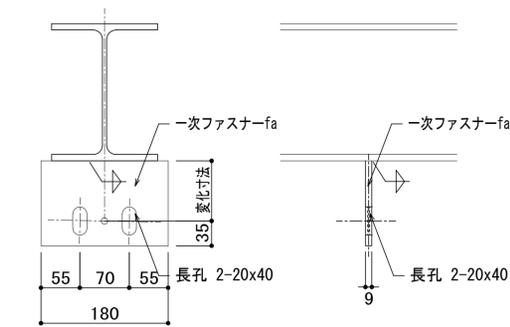
フランジ外添板 PL-290x150x9 (2枚)
フランジ内添板 PL-290x60x9 (4枚) HTB M16x50 S10T (16本)
ウェブ添板 PL-230x140x6 (2枚) HTB M16x45 S10T (4本)



柱頭部納まり図 ft2 PL-φ380x6.0 SS400



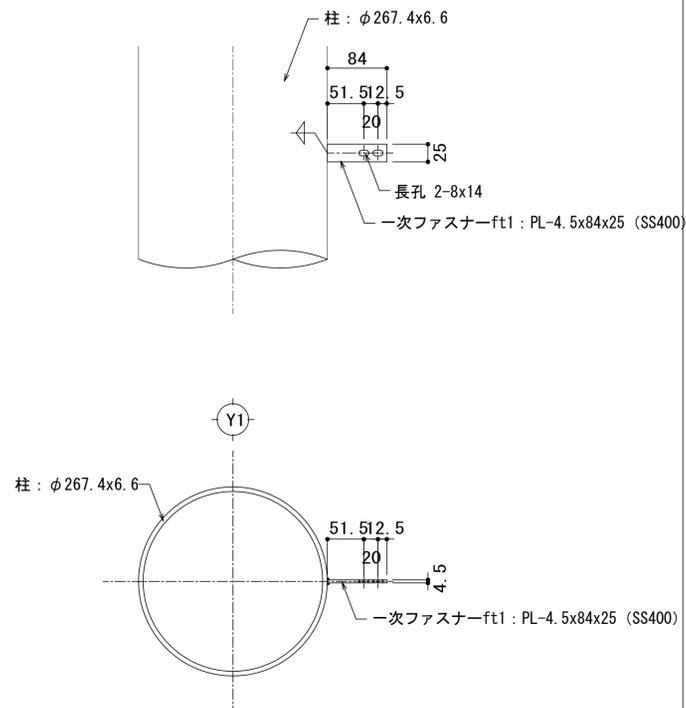
一次ファスナー fa1~fa6



-部材表-

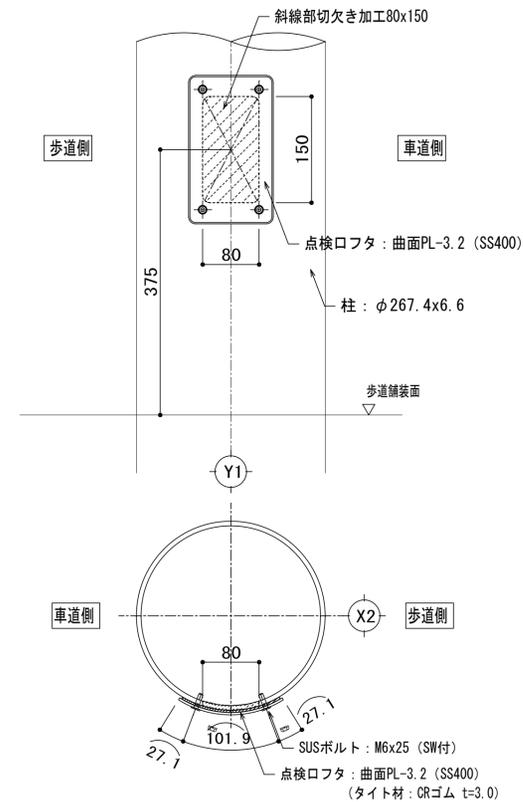
部材名	仕様	位置
fa1	PL-9x180x127 SS400	車道側
fa2	PL-9x180x121 SS400	〃
fa3	PL-9x180x120 SS400	歩道側
fa4	PL-9x180x112 SS400	〃
fa5	PL-9x180x111 SS400	車道側
fa6	PL-9x180x86 SS400	歩道側

ft1 一次ファスナー PL-4.5x84x25 SS400

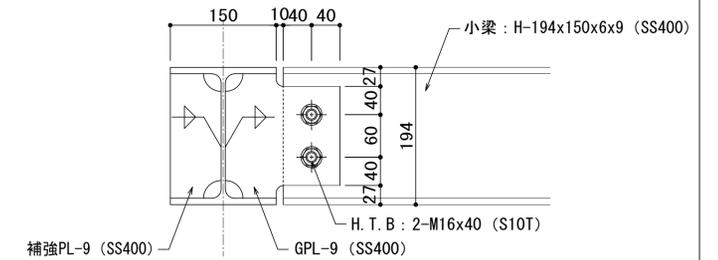


照明配線用点検口

1箇所



ガセットPL納まり図



※この図面はA1サイズを原寸とする。

項目	内容
工事名	久居駅前広場バス待合所等新築その他工事
図面名	思いやり乗降場 鉄骨図 (2)
作成年月日	
縮尺	1:5
図面番号	W-S-10
会社名	株式会社 エイト日本技術開発
事業者名	

一級建築士事務所
株式会社エイト日本技術開発 東京支社
東京都知事登録 第55520号
一級建築士 殿村 泰子
大臣登録 第221765号

ASDC一級建築士事務所
兵庫県知事登録 第01A03070号
一級建築士登録 第84796号 田中嘉之
構造設計一級建築士交付 第2678号